



Infor LN 購買と販売スケジュール ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	crossschedug (U9541)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 購買スケジュール.....	7
一般データとマスタデータ.....	7
購買スケジュール処理の概要.....	7
計画納入日時の使用.....	9
セグメントセットの使用.....	10
購買スケジュール手順.....	12
プッシュスケジュール.....	12
プル予測スケジュール.....	15
参照なしの購買スケジュールラインの生成に関する制約.....	17
プルコールオフスケジュール.....	19
連続出荷スケジュール.....	21
購買スケジュール構成品目.....	28
購買スケジュール発行タイプ.....	31
購買発行.....	34
購買スケジュールラインのクラスタ化.....	37
プッシュスケジュールラインの入庫.....	41
スケジュール済品目の検査.....	44
購買スケジュールの権限と累計.....	47
購買スケジュールラインに関する取引ログの作成.....	57
購買オーダーおよびスケジュール履歴.....	62
第2章 販売スケジュール.....	65
一般データとマスタデータ.....	65
販売スケジュール処理の概要.....	65
自動販売スケジュール処理.....	67
在庫消費処理.....	68
販売スケジュールの追加コスト.....	74
販売スケジュール計画倉庫オーダー.....	77
販売スケジュール手順.....	89
販売スケジュール手順.....	89
EDI と販売スケジュール.....	92

販売発行.....	92
参照販売スケジュール.....	94
ピックアップシート.....	96
販売スケジュールの改訂.....	99
販売スケジュールラインの所要量タイプ.....	101
販売スケジュールラインのゼロ所要数量.....	103
販売スケジュールの累計および権限.....	105
販売スケジュールの調整.....	117
販売スケジュールの承認.....	120
販売スケジュールの調整.....	123
販売スケジュールと企業計画.....	126
販売スケジュールと倉庫.....	133
販売スケジュールと請求.....	135
販売スケジュールの処理と削除.....	137
販売スケジュールの終了.....	139
販売オーダーおよびスケジュールの履歴.....	140

付録A 用語集.....	143
--------------	-----

文書情報

この文書では、購買スケジュールと販売スケジュールを設定する手順を説明します。購買/販売スケジュールの手続きと機能についても詳しく説明します。

対象者

本書は、購買および販売スケジュールの担当者を対象としています。対象者には、主要なユーザ、導入コンサルタント、製品の設計者、サポートの専門家なども含まれます。

本書の概要

次の表にこのガイドの各章を示します。

章番号	内容
第 1 章	購買スケジュール
第 2 章	販売スケジュール

参照

このガイドは、購買スケジュールと販売スケジュールの第 1 の参照先として使用します。このガイドで説明されていない情報を調べるには、次の関連参照先の最新版を使用してください。

- 購買と販売スケジュールユーザガイド U9822 JA
購買契約手順を理解するために使用します。
- 販売契約ユーザガイド U9844 JA
販売契約手順を理解するために使用します。
- 自動車業界対応機能ユーザガイド U9583 JA
自動車業界に固有の機能を理解するために使用します。
- プロジェクトペギングユーザガイド U9777 JA
プロジェクトペギング機能を理解するために使用します。
- 追加情報フィールドユーザガイド
追加情報フィールドの目的と使用方法を理解するために使用します。
- 販売業者管理在庫ユーザガイド U9501 JA
委託在庫の使用などの販売業者管理在庫機能を理解するために使用します。
- 価格設定ユーザガイド U9179 JA
価格設定機能を理解するために使用します。
- 資材価格設定ユーザガイド U9865 JA
資材価格設定機能を理解するために使用します。

本書の使い方

本書はオンラインヘルプのトピックを集めてまとめたものです。そのため、以下の例のようにその他のセクションへの参照が示してあります。

詳細は、「概要」を参照してください。参照セクションを見つけるには、本書の目次または巻末の索引を参照してください。

下線の付いた用語は、用語集の定義へのリンクが付いていることを示しています。本書をオンラインで表示する場合は、下線の付いた用語をクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義に移動します。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

一般データとマスタデータ

購買スケジュール処理の概要

購買スケジュールとは、原料の計画供給のタイムテーブルです。購買スケジュールは、頻繁に納入される長期の購買をサポートし、通常、購買契約によって支援されます。品目、購買元取引先、出荷元取引先、購買オフィス、および倉庫が同じである要求はすべて、1つのスケジュールに保存されます。購買スケジュールは、全体を把握できる、時間に沿った資材所要量の情報が必要な場合に、標準購買オーダーの代わりに使用されます。そのため、購買スケジュールは、品目別の納期/時間を指定できる詳細な方法を提供します。

購買スケジュールには次のタイプがあります。

- プッシュスケジュール
購買取引先に送付されるタイムフェーズ要件のリストで、企業計画やプロジェクトなどの中央計画システムによって生成されます。プッシュスケジュールには、長期の予測と短期の実際オーダーの両方が含まれています。プッシュスケジュールは、参照なしのスケジュールです。
- プル予測スケジュール
購買取引先に送付されるタイムフェーズ計画要件のリストで、企業計画によって生成されます。プル予測スケジュールは、予測のためだけに使用されます。品目をオーダーするには、プル予測スケジュールと同じスケジュール番号でプルコールオフスケジュールを生成する必要があります。プッシュスケジュールと同様に、プル予測スケジュールも参照なしのスケジュールです。
- プルコールオフスケジュール
購買品目の時系列の特定所要量のリストであり、組立管理、または倉庫管理 (カンバン、時系列オーダーポイント) からトリガされます。プルコールオフスケジュールは、参照スケジュールです。

購買スケジュールマスタデータ

購買スケジュール手順を実行するには、事前に次の操作を行います。

1. 購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [スケジュール] チェックボックスをオンにします。
2. 購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションで購買スケジュールパラメータを指定します。
3. 購買スケジュールマスタデータを指定します。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 品目購買データ
- 購買組織データ

購買スケジュールを作成するには、次の操作も行う必要があります。

1. 品目 (tcibd0501m000) セッションで次の品目データを指定します。
 - [購買スケジュールの使用] チェックボックスをオンにする
 - プルスケジュールで構成可能品目を使用したい場合は、[構成可能] チェックボックスをオンにする
 - [スケジュールタイプ] フィールドでプッシュまたはプルのいずれかの購買スケジュールタイプを指定する
2. 次の操作を行って、セグメントセットを設定します。
 - a. スケジュールセグメント (tdipu0115m000) セッションでセグメントを指定します。
 - b. スケジュールセグメントセット (tdipu0113m000) セッションでセグメントセットを指定します。
 - c. セグメントセット - セグメント (tdipu0114m000) セッションで、セグメントセットにセグメントを追加します。

詳細は、次の情報を参照してください: セグメントセットの使用 (ページ 10)
3. パターン (tcccp0690m000) セッションでパターンを指定します。
4. 購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションまたは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで、品目と取引先の組合せに適用する購買スケジュール関連のパラメータを指定します。
5. 倉庫/取引先/品目別納入パターン (tdipu0124m000) セッションで、倉庫、購買元取引先/出荷元取引先、および品目別に納入パターンを保存します。このセッションでの組合せに基づいて、計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションで計画納入日時が生成されます。
6. 計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションで計画納入日時を生成し、品目の納入可能日時を決定します。日付が返され、計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッションおよび計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションのリストに追加されます。これらの日付は企業計画によってリードタイムのオフセットに使用されます。

注意

資材価格パラメータ (tcmpr0100m000) セッションの [調達の資材価格設定] チェックボックスがオンの場合、資材価格設定マスタデータの設定後にスケジュールラインの資材価格情報を取得できます。

プッシュスケジュール手順

プッシュスケジュール手順では、次の手順を行う必要があります。

1. スケジュールヘッダおよびラインの生成
2. スケジュールラインの再生成
3. 購買発行 (ライン) の生成
4. 購買発行ラインの承認
5. 購買発行の出力
6. 権限の挿入

7. 入庫詳細の挿入
8. 累計の挿入
9. 累計および権限のリセット
10. 履歴と取引高データの更新

詳細は、次の情報を参照してください: プッシュスケジュール (ページ 12)

プル予測スケジュール手順

パラメータとトリガに基づいて、プル予測スケジュール手順では次の手順が実行されます。

1. スケジュールヘッダおよびラインの生成
2. スケジュールラインの再生成
3. 購買発行の生成
4. 購買発行の承認
5. 購買発行の出力
6. 権限の挿入
7. プルコールオフスケジュールの生成

詳細は、次の情報を参照してください: プル予測スケジュール (ページ 15)

プルコールオフスケジュール

パラメータとトリガに基づいて、プルコールオフスケジュール手順では次の手順が自動的に実行されます。

1. スケジュールヘッダの生成
2. スケジュールラインの生成
3. 購買発行の生成
4. 購買発行の出力
5. 入庫詳細の挿入
6. 累計の挿入
7. 累計および権限のリセット
8. 履歴と取引高データの更新

詳細は、次の情報を参照してください: プルコールオフスケジュール (ページ 19)

計画納入日時の使用

購買スケジュールで、計画納入日時を購買元取引先、出荷元取引先、および倉庫の組合せについて生成する必要があります。計画納入日時は、企業計画によってリードタイムオフセットに使用されます。

注意

計画納入日時は計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションで生成できます。

企業計画が特定の品目、購買元取引先、出荷元取引先、および倉庫の組合せの計画納入日時について調達を呼び出す場合、次のステップが実行されます。

1. 倉庫/取引先/品目別納入パターン (tdipu0124m000) セッションを検索し、適用可能な納入パターンを取得します。次の順序で検索されます。
 - a. 倉庫、購買元取引先、出荷元取引先、および品目
 - b. 倉庫、購買元取引先、および出荷元取引先
 - c. 倉庫
2. 購買スケジュールが入庫基準と出荷基準のどちらであるか判定されます。品目、購買元取引先、出荷元取引先、購買オフィス、および出荷先住所の組合せにすでに購買スケジュールが存在している場合、購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションの [出荷/入庫基準] フィールドについて、スケジュールが出荷基準と入庫基準のどちらであるかがチェックされます。購買スケジュールが存在しない場合には、新しいスケジュールが生成されます。この場合、入庫基準または出荷基準情報は、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションまたは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションから取得されます。
3. スケジュールが出荷基準である場合、企業計画は計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッションから倉庫、出荷元取引先、および納入パターンの組合せの計画納入日時を読み取ります。スケジュールが入庫基準で返される場合、企業計画は、計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションから、倉庫と納入パターンの組合せの計画納入日時を読み取ります。

セグメントセットの使用

セグメントには特定のセグメント期間があり、この期間はセグメント時間単位 (週数、月数、4 週間など) で表します。また、セグメントは所要量タイプにリンクされます。セグメントセットはセグメントの番号で構成されます。

セグメントセットを設定するには、購買スケジュール処理の概要 (ページ 7) を参照してください。

注意

- セグメントセットの各セグメントには固有の番号が与えられています。スケジュール範囲は、セグメントセット - セグメント (tdipu0114m000) セッションの [連番] フィールドに LN によって割り当てられた連番に従って作成されます。
- スケジュールセグメント (tdipu0115m000) セッションで、[即時] 所要量タイプのセグメントにはセグメント時間単位とセグメント期間を定義できません。この所要量タイプは、できる限り早く出荷しなければならないこれまでの未納入所要量に関連付けられているためです。

セグメントセットと購買スケジュール

プッシュスケジュールまたはプル予測スケジュールを使用する場合、次の処理では購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび/または品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションから取得されたセグメントセットが使用されます。

- スケジュールの再生成 (tdpur3211m000) セッションで、スケジュールラインを再生成する。
- 状況が [作成済] である発行ライン詳細を生成するためのスケジュールラインをクラスタ化する。発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションで実行できます。

プルコールオフスケジュールの場合、セグメントセットは使用されません。これは、このスケジュールラインが、再生成やクラスタ化されることがなく、[スケジュール済] 状況の発行ライン詳細に即座に変換されるためです。このため、所要量タイプは常に [確定] です。

注意

セグメントセット - セグメント (tdipu0114m000) セッションでセグメントをセグメントセットにリンクする場合、正しいセグメント時間単位を使用していることを確認する必要があります。次の点を確認します。

- セグメントセットの最初のセグメントの最初のセグメント時間単位が正しく定義されている。たとえば、最初のセグメント時間単位を「週」または「4 週間」に設定する場合、計算されたスケジュール出庫日が「月曜日」でなければ、クラスタ化または再生成処理で数日が除外されている可能性があります。これらのセグメント時間単位の活動の開始点は、常に「月曜日」です。したがって、「週」または「4 週間」に定義されているセグメント時間単位の場合、スケジュールラインのクラスタ化または再生成は「月曜日」だけから実行されるので、前に計算されたスケジュール出庫日以降の最初の「月曜日」からスケジュールラインのクラスタ化または再生成が開始されます。セグメント時間単位が「月」に定義されている場合、LNはスケジュールラインのクラスタ化または再生成を実行可能な最初の「月曜日」には開始せずに、次の月で実行可能な最初の「月曜日」に開始します。
- セグメントがつながっている。たとえば、「月曜日」から「日曜日」まで実行される週次の時間単位と、月の最初の「月曜日」から次の月の最初の「月曜日」の前日まで実行される月次の時間単位を組み合わせる場合、スケジュールラインを再生成またはクラスタ化すると、ある期間が未定義になります。

例

次のスケジュール出庫日: 19/07/99

セグメントセットのセグメント:

セグメントコード	所要量タイプ	時間単位	セグメント期間
1	確定	週数	1
2	計画済	月数	1
3	計画済	月数	1

スケジュール出庫日に基づくセグメント時間の計算:

セグメントコード	開始日	終了日	所要量タイプ
1	19/07/99	25/07/99	確定
2	02/08/99	05/09/99	計画済
3	06/09/99	03/10/99	計画済

この例では、1999 年 7 月 26 日と 1999 年 8 月 2 日の間に 1 週間の時間ギャップがあります。この時間ギャップは LN によって自動的に埋められますが、セグメントセットの時間ギャップを回避するには 4 週間の時間単位を週次の時間単位と組み合わせて使用してください。

注意

- スケジュールラインの再生成時、2 つのセグメント間に未定義の期間がある場合、この時間ギャップにあてはまるスケジュールラインには最も大きな連番が割り当てられたセグメントの所要量タイプが自動的に渡されます。たとえば、[確定] 所要量タイプを計算するセグメントと [計画済] 所要量タイプを計算するセグメントの間に時間ギャップがある場合、この時間ギャップにあてはまるスケジュールラインには、自動的に [確定] 所要量タイプが割り当てられます。この結果、前の例の 1999 年 7 月 26 日から 1999 年 8 月 2 日までの時間ギャップは、自動的に [確定] 所要量タイプになります。
- スケジュールラインをクラスタ化するとき 2 つのセグメント間に未定義の期間がある場合、この時間ギャップを埋める別のセグメントが自動的に追加されるため、この時間ギャップにあてはまるスケジュールラインもクラスタ処理に含まれるようになります。この新しく生成されたセグメントの期間内にあてはまるすべてのスケジュールラインは、1 つの発行ライン詳細にクラスタ化されます。
- セグメントセットの最後のセグメントで計算された期間より後になる、購買発行のスケジュールラインにはすべて、自動的に [計画済] 所要量タイプが割り当てられます。

購買スケジュール手順

プッシュスケジュール

プッシュスケジュールは、計画システムで生成するか、マニュアルで作成できる 非参照スケジュール です。どちらの場合も、作業手順は同じです。

プッシュスケジュールについては、次のステップを実行する必要があります。

ステップ 1: スケジュールヘッダおよびラインの生成

購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションでスケジュールヘッダを作成/生成し、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションでスケジュールラインを作成/生成します。

企業計画で、品目、倉庫、購買元取引先、出荷元取引先、および購買オフィスの組合せに既存のプッシュスケジュールが見つからない場合のみ、新しいスケジュールが生成されます。

企業計画によりプル予測スケジュールが自動的に生成される前に、企業計画と購買管理の間で次の情報が交換されます。

- 発注先の決定
発注先を決定するには、次の操作を実行します。
 - a. 企業計画により、必要な品目 (グループ) および倉庫が購買管理に送信されます。
 - b. 購買管理は、購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [購買元取引先検索スケジュール] タブで定義された優先順位レベルに基づいて承認済発注先を検索します。
 - c. 購買管理によって、すべての有効な取引先が企業計画に送信され、その後、企業計画により発注先が選択されます。
発注先選択処理で契約ラインを検索するときには、品目 - 計画 (cprpd1100m000) の計画品目の倉庫が使用されます。購買契約ライン詳細を検索するときに、この倉庫は、購買契約ライン詳細 (tdpur3101m100) セッションの購買契約ライン詳細の倉庫と同じクラスの一部であることが必要です。詳細は、次の情報を参照してください: 購買契約および法人購買契約
- 所要日の決定
所要日を決定するために、企業計画はリードタイムのオフセットを実行します。リードタイムオフセットを実行するには、計画納入日時 (tdipu0225m000) セッションで十分に余裕のある計画納入日時を生成する必要があります。生成された計画納入日時は、計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッションまたは計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションに保存され、これらのセッションから企業計画によって呼び出されます。詳細は、次の情報を参照してください: 計画納入日時の使用 (ページ 9)
- 供給の決定
供給決定時、いくつかの制約が、企業計画による参照なしの購買スケジュールラインの生成または更新を妨げることがあります。
詳細は、次の情報を参照してください:
 - 参照なしの購買スケジュールラインの生成に関する制約 (ページ 17)
 - 購買スケジュールと企業計画

購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションでプッシュスケジュールが生成される時点で、ブランクセット倉庫オーダがすぐに生成されます。ブランクセット倉庫オーダは、倉庫オーダ (whinh2100m000) セッションで表示できます。

ステップ 2: スケジュールラインの再生成

スケジュールの再生成 (tdpur3211m000) セッションで、スケジュールラインを再生成します。

プッシュスケジュールの場合、スケジュールラインの再生成では次の処理が行われます。

- 購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションと品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの一方または両方から取得される適切なセグメントセットとパターンコードを判別し、購買担当を更新する
- 適切なセグメントセットおよび出庫パターンに基づき、スケジュールラインの新しい所要量タイプを算定する。これにより、スケジュールラインが適切なタイミングに編成されます。

購買スケジュールラインの生成時にセグメントセットを使用する方法の詳細は、セグメントセットの使用 (ページ 10)を参照してください。

ステップ 3: 購買発行 (ライン) の生成

発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションを使用して、[資材発行] または [出荷スケジュール] について次のアクションを実行します。

- 購買発行 (tdpur3121m000) セッションで表示される購買発行ラインの生成詳細は、次の情報を参照してください: 購買発行 (ページ 34)
- 購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで表示されるスケジュールラインのクラスタ化 詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュールラインのクラスタ化 (ページ 37)

ステップ 4: 購買発行ラインの承認

発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションで購買発行ラインを承認します。

ステップ 5: 購買発行の出力

購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで購買発行を出力します。

購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで [通信チャネル] フィールドが [EDI] に設定されており、これらのセッションで [EDI メッセージを直接発行] チェックボックスもオンの場合、購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで購買発行を出力する必要はありません。自動的に購買発行が出力されます。

ステップ 6: 権限の挿入

権限は、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションで挿入されます。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール権限 (ページ 47)

ステップ 7: 入庫詳細の挿入

入庫詳細は、購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで挿入されます。

スケジュール済品目の入庫および検査の詳細は、次を参照してください。

- プッシュスケジュールラインの入庫 (ページ 41)
- スケジュール済品目の検査 (ページ 44)

ステップ 8: 累計の挿入

次のセッションで、累計 (CUMS) が挿入されます。

- 出荷累計 (tdpur3131m000)
- 入庫累計 (tdpur3132m000)
- 所要累計 (tdpur3130m000)
- 請求累計 (tdpur3133m000)

詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール累計 (ページ 49)

ステップ 9: 累計および権限のリセット

累計のリセット (tdpur3230m000) または契約合計ライン別累計のリセット (tdpur3230m100) セッションで、累計および権限をリセットします。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール累計のリセット (ページ 55) および権限のリセット (ページ 52)

ステップ 10: 履歴と取引高データの更新

納入済購買スケジュールの処理 (tdpur3223m000) セッションで、購買スケジュール履歴と取引高データを更新します。この結果、スケジュールラインの状況は [処理済] に変わります。

購買スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdpur3224m000) セッションでは、処理済の購買スケジュールラインを削除できます。

注意

購買スケジュール (tdpur3610m100) セッションを使用して、注意が必要な購買スケジュールのみを表示し、そのスケジュールラインに適切なアクションを実行できます。たとえば、未入庫で期日が迫っているスケジュールライン、または期日 (計画入庫日) を過ぎたスケジュールラインを表示します。

プル予測スケジュール

「予測」タイプのプルスケジュールは、企業計画によってのみ生成でき、マニュアルでは作成できない非参照スケジュールです。

パラメータとトリガに基づいて、次のステップが実行されます。

ステップ 1: スケジュールヘッダおよびラインの生成

購買スケジュール (tdpur3610m000) セッションで LN によってスケジュールヘッダおよびスケジュールラインが生成されます。

企業計画によりプル予測スケジュールが自動的に生成される前に、企業計画と購買管理の間で次の情報が交換されます。

- 発注先の決定
発注先を決定するために、次のステップが実行されます。
 - a. 企業計画により、必要な品目 (グループ) および倉庫が購買管理に送信されます。
 - b. 購買管理は、購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [購買元取引先検索スケジュール] タブで定義された優先順位レベルに基づいて承認済発注先を検索します。
 - c. 購買管理によって、すべての有効な取引先が企業計画に送信され、その後、企業計画により発注先が選択されます。
- 所要日の決定
所要日を決定するために、企業計画はリードタイムのオフセットを実行します。リードタイムオフセットを実行するには、計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションで十分に余裕のある計画納入日時を生成する必要があります。生成された計画納入日時は、計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッションまたは計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションに保存され、これらのセッションから企業計画によって呼び出されます。詳細は、次の情報を参照してください: 計画納入日時の使用 (ページ 9)

- 供給の決定
制約の数に応じてスケジュールラインを生成できます。
詳細は、次の情報を参照してください:
 - 参照なしの購買スケジュールラインの生成に関する制約 (ページ 17)
 - 購買スケジュールと企業計画

企業計画で、品目、購買元取引先、出荷元取引先、および購買オフィスの組合せに既存のプルスケジュールが見つからない場合のみ、新しいスケジュールが生成されます。[計画在庫日] および [オプションリスト ID] フィールドが同じであれば、スケジュールラインは同じであるとみなされます。

プル予測スケジュールをマニュアルで作成することはできませんが、まだスケジュールラインがない場合は、購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションで有効なプル予測スケジュールを更新できます。

ステップ 2: スケジュールラインの再生成

スケジュールの再生成 (tdpur3211m000) セッションで、スケジュールラインを再生成する必要があります。

プル予測スケジュールの場合、再生成は購買スケジュールに適したセグメントセット、パターンコード、および購買担当を取得する目的でのみ実行されます。

購買スケジュールラインの生成時にセグメントセットを使用する方法の詳細は、セグメントセットの使用 (ページ 10)を参照してください。

ステップ 3: 購買発行の生成

発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションを使用して、以下のアクションを実行します。

- 購買発行 (tdpur3121m000) セッションで表示される購買発行ラインの生成詳細は、次の情報を参照してください: 購買発行 (ページ 34)
- 購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで表示されるスケジュールラインのクラスタ化 詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュールラインのクラスタ化 (ページ 37)

ステップ 4: 購買発行の承認

発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションで、購買発行を承認する必要があります。

ステップ 5: 購買発行の出力

購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで、購買発行を出力する必要があります。

購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで [通信チャネル] フィールドが [EDI] に設定されており、これらのセッションで [EDI メッセージを直接発行] チェックボックスもオンの場合、購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで購買発行を出力する必要はありません。自動的に購買発行が出力されます。

ステップ 6: 権限の挿入

権限は、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションで挿入されます。

プル予測スケジュールは、プルコールオフスケジュールから取得された所要累計を使用して EAB 権限および RAW 権限を計算します。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール権限 (ページ 47)

ステップ 7: プルコールオフスケジュールの生成

プルコールオフスケジュールを生成する必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください: プルコールオフスケジュール (ページ 19)

注意

購買スケジュール (tdpur3610m100) セッションを使用して、注意が必要な購買スケジュールのみを表示し、そのスケジュールラインに適切なアクションを実行できます。たとえば、未入庫で期日が迫っているスケジュールライン、または期日 (計画入庫日) を過ぎたスケジュールラインを表示します。

参照なしの購買スケジュールラインの生成に関する制約

次の制約が、企業計画による参照なしの購買スケジュールラインの生成または更新を妨げることがあります。

- 凍結ゾーン設定
- パターンの生成範囲
- 契約の有効期限
- スケジュールラインの [確定計画] 状況

凍結ゾーン設定

凍結期間は、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッション、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッション、および購買契約ラインロジスティック詳細ライン (tdpur3102m100) セッションで指定でき、スケジュールラインが生成または更新されないようにすることができます。

次の凍結期間が利用可能です。

- 凍結期間
凍結期間中、企業計画はスケジュールラインを生成/更新できない
- 上限期日
上限期日の期間中、スケジュールライン数量は減らせても増やせない。このため、企業計画はこの期間に新しいスケジュールラインを生成できません。
- 下限期日
下限期日の期間中、スケジュールライン数量は増やしても減らせない。このため、企業計画はこの期間に新しいスケジュールラインを生成できません。また、現行のスケジュールラインは削除できません。

注意

- 購買スケジュールに [出荷基準] を設定した場合、凍結期間は計画出荷日時に基づいて決まります。購買スケジュールに [入庫基準] を設定した場合、凍結期間は計画納期に基づいて決まります。

- 企業計画では凍結期間または上限期日の期間でのスケジュールライン数量の増大はできませんが、これらの期間を超えた最初の利用可能な納入日時に需要が自動的に保存されます。
- スケジュールラインが特定の品目についてすでに生成されている場合、企業計画によって、オーダシミュレーション時にスケジュールラインの凍結状況 (購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの [凍結] フィールドに表示されます) に従って、[フリー] の凍結状況のすべてのスケジュールラインが最初に削除され、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの [確定計画] チェックボックスがオフになります。その後、企業計画は、要件を再計算し、新しいスケジュールラインを挿入します。
- 企業計画により、過去の日付を持つ未納入および余剰のスケジュールラインを自動的に削除する場合、下限期日の期間を指定しないでください。そのため、[減少数量の凍結期間] フィールドが0の場合のみ、[過去のスケジュールラインの削除] チェックボックスをオンにすることができます。

パターンの生成範囲

企業計画によって、計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションで生成された納入日時に基づいて所要量がグループ化されます。計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションでは、終了日を定義する必要があります。終了日は、納入日時がその日まで計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションと計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッションに保存される日付です。納入日時は、この日以降、リードタイムのオフセットのために企業計画で呼び出せるようになります。納入日時は終了日以後の期間について計算されないため、企業計画ではこの期間の有効な納入日時を検出できません。このため、企業計画では終了日以後の期間に対して独自の納入日時が計画されます。

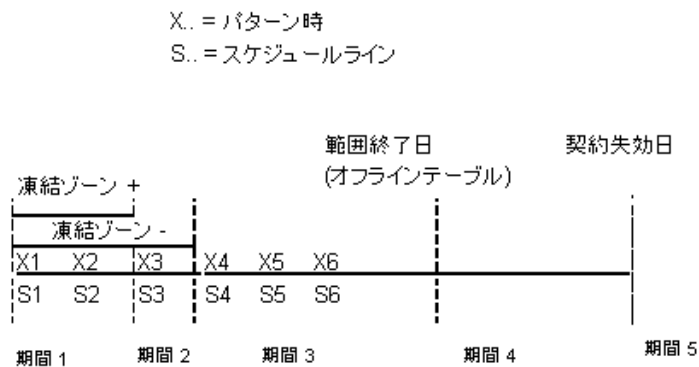
契約の有効期限

所要量が、契約の有効期限を過ぎている場合、有効な取引先を見つけることはできません。このため、企業計画では発注先なしで計画購買オーダが生成されます。この場合、スケジュールラインの代わりに計画購買オーダが生成されたことを示す警告が企業計画に送信されます。

スケジュールラインの「確定計画」状況

購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで [確定計画の設定] をクリックすると、スケジュールラインを [確定計画] に指定できます。この結果、企業計画の次の実行中はスケジュールラインを変更できません。

例



凡例

- P1 凍結期間
- P2 下限期日の期間。凍結ゾーン+の前に凍結ゾーン-が終了する場合、上限期日が適用されます。
- P3 この期間では、計画納入日時の生成 (tdipu0225m000) セッションで生成された納入日時 (計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッション、または計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションに表示) は、企業計画によってリードタイムのオフセットに使用できます。また、スケジュールラインを生成できます。
- P4 有効な納入日時が計画納入日時 (出荷基準) (tdipu0125m000) セッション、または計画納入日時 (入庫基準) (tdipu0126m000) セッションで使用できない期間。この期間では、企業計画によって、スケジュールラインの生成で独自の納入日時が計画されます。
- P5 契約が期限切です。購買スケジュールラインの代わりに計画購買オーダーが生成されます。

プルコールオフスケジュール

「コールオフ」タイプのプルスケジュールは、組立管理、または倉庫管理 (カンバン、時系列オーダーポイント) から生成される参照スケジュールです。

次のステップは、パラメータとトリガに基づいて自動的に実行されます。

ステップ 1: スケジュールヘッダの生成

購買スケジュール (ヘッダ) が購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションで生成されます。プルコールオフスケジュールの前にプル予測スケジュールが作成される場合、購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションで対応するプル予測スケジュールが検索されます。スケジュールが見つかり、プル予測スケジュールと同じスケジュール番号のプルコールオフスケジュールが作成されます。この方法では、予測データとオーダー処理データは分離されます。ただし、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [出荷スケジュールの使用] チェックボックスまたは [連続出荷スケジュールの使用] チェックボックスがオンになっている場合、予測データは生成されません。この場合、生成されるプルコールオフスケジュールには対応するプル予測スケジュールがありません。

プルコールオフスケジュールをマニュアルで更新することはできません。プルコールオフスケジュールは、そのスケジュールが生成された場所である発生元でのみ更新できます。

ステップ 2: スケジュールラインの生成

スケジュールラインは、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで生成されます。

プルコールオフスケジュールが倉庫管理からトリガされる場合、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションのスケジュールラインは、オーダの生成 (カンバン) (whinh2200m000) セッションまたはオーダの生成 (時系列オーダポイント) (whinh2201m000) セッションから生成されます。

プルコールオフスケジュールが組立管理からトリガされ、スケジュール発行タイプが [連続出荷スケジュール] の場合、各スケジュールのラインの数は非常に多くなります。そのため、品目ごとに、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションでコールオフごとのスケジュールラインが生成されますが、VIN 番号やラインステーションなどの連番詳細は連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションに保存されます。このセッションを開始するには、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの適切なメニューから [連続出荷データ] をクリックします。

詳細は、次の情報を参照してください: 連続出荷スケジュール (ページ 21)

ステップ 3: 購買発行の生成

状況が [スケジュール済] の購買発行が、購買発行 (tdpur3120m000) セッションで生成されます。スケジュールラインの生成のたびに、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで発行ライン詳細レコードが生成されます。このレコードは、スケジュールラインと 1 対 1 の関係にあり、状況は [スケジュール済] です。

ただし、スケジュールが連続出荷スケジュールの場合は、次の手順が適用されます。

- 購買発行ヘッダのみが作成されます。購買発行ラインと購買発行ライン詳細レコードは作成されません。連続出荷スケジュールの品目は、車両番号 (VIN)、ラインステーション、組立キットの組合せに必要とされます。そのため、購買発行 (tdpur3120m000) セッションの発行ヘッダと購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションの発行ラインが相互にリンクされます。
- 購買発行 (tdpur3120m000) セッションの [車両ごとの発行の生成] または [品目別発行を生成] チェックボックスにより、発行の作成方法 (車両別、品目別、取引先別) が決まります。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買発行 (ページ 34)

ステップ 4: 購買発行の出力

購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで、購買発行が出力されます。

購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで [通信チャネル] フィールドが [EDI] に設定されており、これらのセッションで [EDI メッセージを直接発行] チェックボックスもオンの場合、購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで購買発行を出力する必要はありません。自動的に購買発行が出力されます。

ステップ 5: 入庫詳細の挿入

入庫詳細は、購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで挿入されます。

倉庫管理で入庫が確認されると、スケジュール済品目も検査されます。詳細は、次の情報を参照してください: スケジュール済品目の検査 (ページ 44)

ステップ 6: 累計の挿入

次のセッションで、累計 (CUMS) が挿入されます。

- 出荷累計 (tdpur3131m000)
- 入庫累計 (tdpur3132m000)
- 所要累計 (tdpur3130m000)
- 請求累計 (tdpur3133m000)

プルコールオフスケジュールの場合、累計は参考情報のみの目的で入力されます。プルコールオフスケジュールでは累計が使用されません。ただし、特定のプルコールオフスケジュールと通常は同じスケジュール番号を持つプル予測スケジュールは、プルコールオフスケジュールの所要累計を使用して FAB 権限と RAW 権限を計算します。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 購買スケジュール累計 (ページ 49)
- 購買スケジュール権限 (ページ 47)

ステップ 7: 累計および権限のリセット

累計のリセット (tdpur3230m000) セッションで、累計と権限がリセットされます。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール累計のリセット (ページ 55) および権限のリセット (ページ 52)

ステップ 8: 履歴と取引高データの更新

納入済購買スケジュールの処理 (tdpur3223m000) セッションで、購買スケジュール履歴と取引高データが更新されます。この結果、スケジュールラインの状況は [処理済] に変わります。

購買スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdpur3224m000) セッションでは、処理済の購買スケジュールラインを削除できます。

注意

購買スケジュール (tdpur3610m100) セッションを使用して、注意が必要な購買スケジュールのみを表示し、そのスケジュールラインに適切なアクションを実行できます。たとえば、未入庫で期日が迫っているスケジュールライン、または期日 (計画入庫日) を過ぎたスケジュールラインを表示します。

連続出荷スケジュール

連続出荷スケジュールは、オーダ管理/SILS 供給システムを通じて、組立管理から生成されるプルコールオフスケジュールです。

連続出荷スケジュールラインを更新するには、連続出荷スケジュールラインを生成した組立オーダを変更する必要があります。

連続出荷スケジュールラインを作成するには

組立管理で SILS 供給システムから商品をコールオフすると、次の手順が実行されます。

1. 組立管理で参照番号/ID が生成されます。これは、[VIN]、[ラインステーション]、および [組立キット] の組合せを表します。
2. コールオフが作成されると、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで全品目のスケジュールラインが生成され、生成された参照 ID が [参照 ID] フィールドに挿入されます。
3. すべてのスケジュールラインについて、連続出荷データが連続出荷データ (tdpur3517m000) セッション内に挿入されます。
4. 購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションで、連続出荷スケジュールラインごとにレコードが挿入されます。

注意

連続出荷スケジュールに構成品目を含むことができます。詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュール構成品目 (ページ 28)

連続出荷スケジュールラインを更新するには

連続出荷スケジュールラインを更新するには、連続出荷スケジュールラインを生成した組立オーダーを変更する必要があります。

更新には、次の 2 種類があります。

- 一意ではないフィールド
一意ではないフィールドを更新する。
これらの更新は、連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの次のフィールドに対して行います。
 - [ジョブ連番]
 - [数量]
 - [所要日]
 - [オプションリスト ID]
- 一意のフィールド
一意のフィールドを更新する。これらの更新は、連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの [組立キット]、[VIN]、[ラインステーション] などのフィールドに対して行います。

LN によるアクションは、更新するフィールドの種類だけでなく、連続出荷スケジュールラインが購買発行で送付済であるかどうかにも影響を受けます。

注意

連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの [送付] フィールドでは、連続出荷スケジュールラインが購買発行によってすでに送付されたかどうかを確認できます。

未送付の連続出荷ラインを更新するには

- 組立管理で連続出荷ラインのフィールドを変更すると、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッション、連続出荷データ (tdpur3517m000) セッション、および購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションの対応するフィールドが更

新されます。スケジュールラインの状況は、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションでは [オーダー生成済] のまま残され、連続出荷データ (tdpur3517m000) セッション/購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションでは [作成済] のまま残されます。

- 組立管理で所要量を削除すると、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションと連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの対応する連続出荷スケジュールラインの状況が [取消済] になります。ラインは、単に購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションから削除されます。

購買発行で送付済の連続出荷ラインの一意のフィールドを更新するには

一意のフィールドを更新する場合、次のステップが実行されます。

1. 購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの古い連続出荷スケジュールラインの状況が、[取消済] になります。
2. 連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの対応するレコードの状況は [作成済] のままですが、状況が [取消済] の別のレコードが挿入されます。ラインの状況が [作成済] から [取消済] に変わるため、取り消された連続出荷スケジュールラインの [改訂] フィールドの値が増分されます。
3. 連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションで取り消された連続出荷ラインは、購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションで新しい [発行改訂] として挿入されます。この理由は、取消を (新しい) 購買発行によって発注先にも通知する必要があるためです。
4. 新しい連続出荷スケジュールラインは、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションでは状況が [オーダー生成済] で作成されるか、連続出荷データ (tdpur3517m000) セッション/購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションでは状況が [作成済] として作成されます。

購買発行で送付済の連続出荷ラインの一意ではないフィールドを更新するには

一意ではないフィールドを更新する場合、次のステップが実行されます。

1. 購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで、古い連続出荷スケジュールラインが単純に更新されます。状況は [オーダー生成済] のままになります。
2. 連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの該当する連続出荷スケジュールラインの状況は [作成済] のままですが、状況が [修正済] の別のレコードが挿入されます。ラインの状況が [作成済] から [修正済] に変わるため、修正された連続出荷スケジュールラインの [改訂] フィールドの値が増分されます。
3. 連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションで変更された連続出荷ラインは、購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションで新しい [発行改訂] として挿入されます。この理由は、修正を (新しい) 購買発行によって発注先にも通知する必要があるためです。

例 1 - 連続出荷スケジュールラインを作成するには

組立管理の所要量

VIN 番号	ジョブ連番	組立キット	ラインステーション	品目	日付	数量
VIN001	JS001	K01	LS01	ITEM1	10/1/99 8:00	2
VIN001	JS001	K01	LS01	ITEM2	10/1/99 8:00	4
VIN001	JS001	K01	LS01	ITEM3	10/1/99 8:00	4
VIN002	JS002	K02	LS01	ITEM1	10/1/99 12:00	2
VIN002	JS002	K02	LS01	ITEM2	10/1/99 12:00	5
VIN002	JS002	K02	LS01	ITEM4	10/1/99 12:00	4
VIN003	JS003	K03	LS01	ITEM1	10/1/99 16:00	2
VIN003	JS003	K03	LS01	ITEM2	10/1/99 16:00	4
VIN003	JS003	K03	LS01	ITEM5	10/1/99 16:00	8

購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの結果:

スケジュール番号	位置	品目	所要日	数量
SCH0001	10	ITEM1	10/1/99 8:00	2
SCH0002	10	ITEM2	10/1/99 8:00	4
SCH0003	10	ITEM3	10/1/99 8:00	4
SCH0001	20	ITEM1	10/1/99 12:00	2
SCH0002	20	ITEM2	10/1/99 12:00	5
SCH0004	10	ITEM4	10/1/99 12:00	4
SCH0001	30	ITEM1	10/1/99 16:00	2
SCH0002	30	ITEM2	10/1/99 16:00	4
SCH0005	10	ITEM5	10/1/99 16:00	8

連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションの結果:

スケジュール	位置	連番改訂	VIN	ジョブ連番	キット	ラインステーション	品目	日付	数量	状況
SCH0001	10	1	VIN001	JS001	K01	LS01	ITEM1	10/1/99 8:00	2	作成済
SCH0002	10	1	VIN001	JS001	K01	LS01	ITEM2	10/1/99 8:00	4	作成済
SCH0003	10	1	VIN001	JS001	K01	LS01	ITEM3	10/1/99 8:00	4	作成済
SCH0001	20	1	VIN002	JS002	K02	LS01	ITEM1	10/1/99 12:00	2	作成済
SCH0002	20	1	VIN002	JS002	K02	LS01	ITEM2	10/1/99 12:00	5	作成済
SCH0004	10	1	VIN002	JS002	K02	LS01	ITEM4	10/1/99 12:00	4	作成済
SCH0001	30	1	VIN003	JS003	K03	LS01	ITEM1	10/1/99 16:00	2	作成済

SCH0002	30	1	VIN003	JS003	K03	LS01	ITEM2	10/1/99 16:00	4	作成済
SCH0005	10	1	VIN003	JS003	K03	LS01	ITEM5	10/1/99 16:00	8	作成済

購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションの結果:

発行番号	発行改訂	発行位置	スケ ジュール	スケ ジュール 位置	連番改訂	品目	数量	状況
REL001	0	10	SCH0001	10	1	ITEM1	2	作成済
REL001	0	20	SCH0002	10	1	ITEM2	4	作成済
REL001	0	30	SCH0003	10	1	ITEM3	4	作成済
REL001	0	40	SCH0001	20	1	ITEM1	2	作成済
REL001	0	50	SCH0002	20	1	ITEM2	5	作成済
REL001	0	60	SCH0004	10	1	ITEM4	4	作成済
REL001	0	70	SCH0001	30	1	ITEM1	2	作成済
REL001	0	80	SCH0002	30	1	ITEM2	4	作成済
REL001	0	90	SCH0005	10	1	ITEM5	8	作成済

例 2 - 連続出荷スケジュールラインを更新するには

組立管理モジュールは、次の更新を送付します。

- JS001 の VIN001 を JS001 の VIN004 によって置換
- VIN003 の ITEM2 の数量を 4 から 6 に増やす
- 例 1 のすべての所要量は購買発行ですでに送付済

この結果、次の変更が購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで行われます。

取消済					
スケジュール	位置	品目	所要日	数量	状況

SCH0001	10	ITEM1	10/1/99 8:00	2	取消済
SCH0002	10	ITEM2	10/1/99 8:00	4	取消済
SCH0003	10	ITEM3	10/1/99 8:00	4	取消済

更新

スケジュール	位置	品目	所要日	数量	状況
SCH0002	30	ITEM2	10/1/99 16:00	6	オーダー生成済

新

スケジュール	位置	品目	所要日	数量	状況
SCH001	40	ITEM1	10/1/99 8:00	2	オーダー生成済
SCH002	40	ITEM2	10/1/99 8:00	4	オーダー生成済
SCH003	20	ITEM3	10/1/99 8:00	4	オーダー生成済

この結果、次の変更が連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションで行われます。

スケ ジュール	位置	連番改訂	VIN	ジョブ連 番	キット	品目	日付	数量	送付済	状況
SCH0001	10	1	VIN001	JS001	K01	ITEM1	10/1/99 8:00	2	あり	作成済
SCH0001	10	2	VIN001	JS001	K01	ITEM1	10/1/99 8:00	2	なし	取消済
SCH0001	40	1	VIN004	JS001	K04	ITEM1	10/1/99 8:00	2	なし	作成済
SCH0002	10	1	VIN001	JS001	K01	ITEM2	10/1/99 8:00	4	あり	作成済
SCH0002	10	2	VIN001	JS001	K01	ITEM2	10/1/99 8:00	4	なし	取消済
SCH0002	40	1	VIN004	JS001	K04	ITEM2	10/1/99 8:00	4	なし	作成済
SCH0003	10	1	VIN001	JS001	K01	ITEM3	10/1/99 8:00	4	あり	作成済

SCH0003	10	2	VIN001	JS001	K01	ITEM3	10/1/99 8:00	4	なし	取消済
SCH0003	20	1	VIN004	JS001	K04	ITEM3	10/1/99 8:00	4	なし	作成済
SCH0002	30	1	VIN003	JS003	K03	ITEM2	10/1/99 16:00	4	あり	作成済
SCH0002	30	2	VIN003	JS003	K03	ITEM2	10/1/99 16:00	6	なし	修正済

この結果、次の変更が購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションで行われます。

発行番号	発行改訂	発行位置	スケ ジュール	スケジュール ル位置	連番改訂	品目	数量	状況
REL001	1	10	SCH0001	10	2	ITEM1	2	取消済
REL001	1	20	SCH0002	10	2	ITEM2	4	取消済
REL001	1	30	SCH0003	10	2	ITEM3	4	取消済
REL001	1	80	SCH0002	30	2	ITEM2	6	修正済
REL001	1	100	SCH0001	40	1	ITEM1	2	作成済
REL001	1	110	SCH0002	40	1	ITEM2	4	作成済
REL001	1	120	SCH0003	20	1	ITEM3	4	作成済

購買スケジュール構成品目

自動車やトラックの製造元などの組立環境では、完成品は組立ラインで生産され、多数の構成があります。販売プロセスにおいて、必要な完成品の馬力、色、サイズなどのオプションが指定されます。これにより、顧客に販売される製品の特定の構成が生じます。組立計画によってトリガされる需要に基づいて、さまざまな構成の組立部品を購買する必要があります。

これらの構成品目は購買スケジュールを介して購買できます。購買スケジュールには、発注先が製品を生産するために必要な構成情報 (オプションおよび特徴) が含まれます。計画所要量が、資材発行で発注先に送付されます。これは**オーダー計画**によって生成されます。実際所要量は**連続出荷スケジュール**を使用してコールオフされます。これは、組立ラインのコールオフによってトリガされます。連続出荷スケジュールに基づいて、構成品目は正しい順序で受領され、構成情報と一緒に保存されます。

注意

構成可能な購買品目は、構成済完成品の一部としてのみ販売できます。

マスタデータ

購買スケジュール手順で構成品目を使用したい場合、次のマスタデータを定義します。

- 品目基準データパラメータ (tcibd9199m000)
[オプションリスト会社]、[オプションリスト番号グループ]、および [オプションリストシリーズ] パラメータを指定します。
- 品目 (tcibd0501m000)
[デフォルト供給ソース] を [購買] に設定します。
- 品目の [構成可能] チェックボックスをオンにします。その結果、[購買スケジュールの使用] チェックボックスが自動的にオンになり、[スケジュールタイプ] フィールドが [プルスケジュール] に設定されます。
- 購買契約ライン (tdpur3101m000)
構成可能品目を [品目] フィールドに入力します。その結果、[オプション基準価格] チェックボックスが自動的にオンになり、品目価格が購買契約価格 (tdpur3103m000) セッションからではなく製造の一般価格リストから取得されることを示します。
- 購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000)
[連続出荷スケジュールの使用] チェックボックスおよび (オプションで) [資材発行の使用] チェックボックスをオンにします。

一般購買スケジュールマスタデータについては、購買スケジュール処理の概要 (ページ 7) を参照してください。

プル予測スケジュール

購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションで構成可能品目の [資材発行の使用] チェックボックスがオンの場合、まず「計画」スケジュール所要量を通知する必要があります。したがって、プルコールオフ連続集荷スケジュールの前に常にプル予測スケジュールが生成されます。

プル予測スケジュールは、購買スケジュール (tdpur3610m000) セッションで生成され、企業計画における実際の需要オーダーに基づきます。通常契約は自動的に購買スケジュールにリンクされます。ただし、通常契約の代わりに特別契約をマニュアルでリンクすることもできます。契約が購買スケジュールにリンクされると、構成可能品目およびリンクされた契約のデフォルト値とともに、スケジュールヘッダがロードされます。スケジュールラインの [オプションリスト ID] が入力されている場合、スケジュールラインに構成品目が含まれます。

プル予測スケジュール手順で実行される各ステップの詳細は、プル予測スケジュール (ページ 15) を参照してください。

連続出荷スケジュール

構成品目をオーダーするために、購買スケジュール (tdpur3610m000) セッションで、連続出荷スケジュールタイプのプルコールオフスケジュールが組立管理によって生成されます。品目のオプションおよび特徴は購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションおよび連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションに保存されます。

連続出荷スケジュールに基づいて、構成品目は正しい順序で受領され、構成情報と一緒に保存されます。

詳細は、次を参照してください。

- プルコールオフスケジュール手順で実行される各ステップについては、プルコールオフスケジュール (ページ 19)を参照してください。
- 連続出荷スケジュールの作成および更新については、連続出荷スケジュール (ページ 21)を参照してください。

構成品目の価格

構成可能品目が購買契約ライン (tdpur3101m000) セッションで指定されていると、[オプション基準価格] チェックボックスが自動的にオンに設定されて使用不可になります。このチェックボックスがオンの場合、品目価格は、購買契約価格 (tdpur3103m000) セッションではなく、一般価格リスト (tipcf4101m000) セッションの一般価格リストから取得されます。一般価格リストには、構成品目のその日付に有効な価格が含まれます。

値引は常にリンクされた購買契約価格改定から取得され、購買契約価格 (tdpur3103m000) セッションに記録される必要があります。しかし、値引はオプションなので、オプション基準価格を使用する契約ラインは購買契約価格改定にリンクされていなくてもかまいません。

注意

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [購買価格日付タイプ] フィールドによって決定されるスケジュールラインの日付を使用して、一般価格リストまたは購買契約価格改訂で現在の価格が検索されます。

構成変更

組立オーダでの構成変更に対応するために、調達で次のことが行われます。

- 構成変更が連続出荷スケジュールラインに通知されます。構成変更の処理方法は、購買発行で連続出荷スケジュールラインが送付済かどうかによって異なります。詳細は、次の情報を参照してください: 連続出荷スケジュール (ページ 21)
- オーダ済の構成品目から逸脱した構成品目が入庫されます。

逸脱した構成品目の入庫

オーダ済の構成品目から逸脱した構成品目が入庫された場合は、入庫時に間違った品目に対処するためのどのシナリオが適用されるかを判断できます。

- 品目を即時返品する
(実際の) 商品が入庫された際に、逸脱した構成品目は LN に登録されませんが、運送業者によって即時返品されます。
- 品目を保管する一方で、スケジュールラインに正しい品目を要求する
逸脱した構成品目は、予測外の倉庫入庫として入庫され、発生元が [入庫] の購買オーダとして購買オーダ (tdpur4100m000) セッションに登録されます。これにより、逸脱した品目はスケジュールラインで入庫されなくなり、スケジュールラインは正しい構成品目を入庫するためにオープンのままになります。このシナリオを利用するには、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [予測外倉庫入庫に対するオーダを生成] チェックボックスをオンにする必要があります。

- 品目をスケジュールラインで入庫し、後から返品する
逸脱した構成品目はスケジュールラインで入庫されますが、後から購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの返品オーダーで返品されます。返品オーダーは、オリジナルの購買スケジュールまたは購買スケジュール入庫にリンクさせることができます。購買スケジュール履歴からオーダーラインをコピーすることもできます。
- 品目をスケジュールラインで入庫した後で不合格として扱い、正しい品目を要求する
逸脱した構成品目はまずスケジュールラインで入庫されますが、入庫済構成の評価の後で、入庫を削除してスケジュールに登録しないという判断が下されます。計画入庫はオープンのままになります。逸脱した構成品目は、運送業者を利用して返品することも、予測外の倉庫入庫として入庫することもできます。このシナリオが主に適用されるのは、入庫をスケジュールに登録することが必要となる ASN が使用されている場合です。
- 品目を保管し、顧客と合意した上で使用する
逸脱した構成品目がスケジュールラインで入庫されてそのまま使用されます。この場合は、組立オーダー上で構成を変更する必要があります。

注意

購買オーダー (tdpur4100m000) セッションで、逸脱した構成品目が予測外の倉庫入庫として登録されているか、または [返品在庫] タイプの返品オーダーで返品された場合は、[オプションリスト ID] フィールドが購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションにも指定されます。

逸脱した構成品目の価格と値引

オーダー済の構成品目から逸脱した構成品目の入庫を確認すると、入庫された構成品目の価格と値引もオーダー済の構成品目の価格と値引から逸脱している場合があります。連続出荷データ (tdpur3517m000) セッションで入庫済構成の価格と値引を常に使用するために、入庫された構成品目と一致した構成品目を含む最後の [送付] 連続出荷スケジュールライン改訂から価格と値引が取得されます。

購買スケジュール発行タイプ

購買スケジュール発行タイプによって、購買発行のタイプと送信できる所要量タイプが決まります。

発行タイプ

発行には次のタイプがあります。

- [資材発行]
資材発行にはプッシュスケジュールまたはプル予測スケジュールが含まれます。
- [出荷スケジュール]
出荷スケジュールにはプッシュスケジュールまたはプルコールオフスケジュールが含まれます。
- [連続出荷スケジュール]
連続出荷スケジュールにはプルコールオフスケジュールのみが含まれます。

所要量タイプ

次の所要量タイプを使用できます。

- [即時]
これらのスケジュール所要量には、作成時点での過去の開始日があります。これらの所要量はできるだけ早く出荷する必要があります。
- [確定]
これらのスケジュール所要量は、出荷可能な実際オーダーとして処理されます。
- [計画済]
これらのスケジュール所要量は、計画目的のみで送付されます。

発行タイプと所要量タイプ

スケジュールの取引先によって、購買発行のタイプおよび送付可能な所要量を決定するためのロジスティックデータをどのセッションから取得するかが決まります。

- 内部取引先
データは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションから取得されます。
- 外部取引先
データは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションから取得されます。

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000)

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [発行タイプ] に基づいて、購買発行の [発行タイプ] は次のようになり、次の [所要量タイプ] の購買発行ライン詳細を含むことができます。

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) の [発行タイプ]	[発行タイプ]	[所要量タイプ]	リンクされている EDI メッセージ (BEMIS)
[出荷スケジュールのみ]	[出荷スケジュール]	[確定] または [即時]	BEM SHP001
[連続出荷スケジュールのみ]	[連続出荷スケジュール]	[確定] または [即時]	BEM SEQ001
[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール]	[資材発行]	[計画済]	BEM MRL001
[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール]	[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール]	[確定] または [即時]	BEM SHP001 または BEM SEQ001
[資材発行]	[資材発行]	[計画済]、[確定]、または [即時]	BEM MRL001

購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000)

購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [スケジュールメッセージタイプ] に基づいて、購買発行の [発行タイプ] は次のようになり、次の [所要量タイプ] の購買発行ライン詳細を含むことができます。

スケジュールメッセージタイプ				[発行タイプ]	[所要量タイプ]	リンクされている EDI メッセージ (BEMIS)
[資材発行の使用]	[確定所要量の資材発行の使用]	[出荷スケジュールの使用]	[連続出荷スケジュールの使用]			
あり	なし	あり	あり	[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール]	[確定] または [即時]	BEMSHPO01 または BEMSEQ001
あり	なし	あり	あり	[資材発行]	[計画済]	BEM MRL001
あり	あり	適用なし	適用なし	[資材発行]	[計画済]、[確定]、または [即時]	BEM MRL001
なし	なし	あり	適用なし	[出荷スケジュール]	[確定] または [即時]	BEMSHPO01
なし	なし	適用なし	あり	[連続出荷スケジュール]	[確定] または [即時]	BEMSEQ001

注意

- プッシュスケジュールの場合、出荷は EDI メッセージ BEM MRL001 に基づいて実行できますが、所要量タイプが [確定] または [即時] のスケジュールラインのみが対象になります。
- EDI メッセージは、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび/または品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [通信チャンネル] フィールドの値が [EDI] に設定されている場合のみ生成されます。
- セグメントセットは、複数のセグメントで構成され、所要量タイプにリンクされています。品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションでどのセグメントセットを入力できるかは、選択した発行タイプ/メッセージタイプに依存します。購買発行を発注先に送信するときには、発行タイプ/メッセージタイプおよび適用可能な所要量タイプに応じて特定の EDI メッセージを生成できます。
- プルコールオフスケジュールラインはクラスタ化されずに状況が [スケジュール済] の購買発行ライン詳細に自動的に変換されるため、セグメントセットは使用されません。このため、所要量タイプは常に [確定] です。

- プッシュスケジュールラインの場合、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの所要量タイプは再生成処理で計算されます。この処理は、スケジュールの再生成 (tdpur3211m000) セッションで実行されます。購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションの所要量タイプは、スケジュールの適用可能なセグメントセットおよび発行パターンから直接計算されます。スケジュールラインを再生成しない場合、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの [所要量タイプ] フィールドは、[所要量タイプ] フィールド (購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッション) の値と同じです。発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションで発行ラインを生成するときに含まれるスケジュールラインは、プッシュスケジュールの発行タイプ/メッセージタイプによって決まります。たとえば、発行タイプが [出荷スケジュールのみ] として定義されている場合、資材発行は作成されないため、購買発行に [計画済] 発行ラインは含まれません。

購買発行

購買発行は、同様の特徴を持つ複数のスケジュールを 1 つの発行番号で送出するために使用されます。

次の特徴が同一である必要があります。

- 出荷元取引先
- 出荷先住所
- 発行タイプ (資材発行、出荷スケジュール、または連続出荷スケジュール)
- 出荷基準スケジュールまたは入庫基準スケジュール
- 通信方法
- 倉庫

ヘッダの状況

購買発行 (tdpur3120m000) セッションには購買発行ヘッダが表示されます。各ヘッダには発行状況が含まれます。発行状況は、発行手順ですでに完了しているステップや次に実行する必要があるステップを示します。当然、次のステップは、スケジュールタイプ (プッシュスケジュール、プル予測スケジュールまたはプルコールオフスケジュール) に依存します。

購買発行には次の状況があります。

- [作成済]
購買発行に含まれるラインの発行状況はすべてが [作成済] であるか、一部の状況が [作成済] で、別の一部の状況が [スケジュール済] です。
- [スケジュール済]
購買発行は承認済で、含まれるラインの発行状況はすべて [スケジュール済] です。
- [送付済]
購買発行が出力済であるか、または EDI メッセージが送付済で、含まれるラインの発行状況はすべて [送付済] です。

ライン (詳細) の状況

購買発行 (tdpur3121m000) セッションおよび購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで、これらの状況は次の状態を表します。

- [作成済]
購買発行 (tdpur3121m000) セッションの購買発行ラインとクラスタ化されたスケジュールラインを含むことができる購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションのリンクされた発行ライン詳細は承認されていません。
- [スケジュール済]
購買発行ラインとリンクされた発行ライン詳細は承認されています。
- [送付済]
状況が[スケジュール済]の購買発行ラインとリンクされた発行ライン詳細は、購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで出力され、[最終レポート] チェックボックスはオンになっています。または、電子商取引によってEDIメッセージが準備され、送付されています。

注意

- 非参照スケジュールの場合、購買発行ラインおよびリンクされている発行ライン詳細を発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションで承認できます。参照スケジュールの場合、スケジュールラインが自動的に購買発行ラインと発行ライン詳細に変換され、状況が[スケジュール済]に設定されます。スケジュールラインはクラスタ化されません。
- 非参照スケジュールの場合、発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションでスケジュールラインをクラスタ化できます。
- 購買発行に[スケジュール済]状況が割り当てられ、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションまたは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで[EDIメッセージを直接発行]チェックボックスがオンになると、EDIメッセージは自動的に準備されます。

発行の生成

非参照スケジュールに発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションを実行する場合、または参照スケジュールにスケジュールラインを生成する場合、まず購買元取引先、出荷元取引先、発行タイプ、出荷基準/入庫基準スケジュール、および通信方法の組合せについて購買発行 (tdpur3120m000) セッションで購買発行が存在するかどうかチェックされます。

購買発行が存在しない

購買発行が存在しない場合は、次のようになります。

1. 購買発行 (tdpur3120m000) セッションで、発行改訂番号がゼロの新しい購買発行が作成されます。非参照スケジュールの場合は、発行状況が[作成済]になり、参照スケジュールの場合は[スケジュール済]になります。
2. 購買発行 (tdpur3121m000) セッションで、発行状況が[作成済] (参照なし)、または[スケジュール済] (参照) の購買発行ラインが作成されます。
3. 購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで購買発行ライン詳細レコードが挿入され、状況が[作成済]または[スケジュール済]になります。スケジュールが非参照スケジュールの場合、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションのレコードによってスケジュールラインをクラスタ化できます。

注意

参照スケジュールが連続出荷スケジュールの場合は、購買発行ヘッダのみが作成されます。購買発行ラインと購買発行ライン詳細レコードは作成されません。これは、発行が、多くの場合、品目別に送付されるためです。ただし、連続出荷スケジュールの品目は、車両番号(VIN)、ラインステーション、組立キットの組合せに必要とされます。このため、購買発行 (tdpur3120m000) セッションの発行ヘッダと購買発行ライン - 連続出荷データ (tdpur3523m000) セッションの発行ラインが相互にリンクされます。詳細については、連続出荷スケジュール (ページ 21)を参照してください。

購買発行が存在する

購買発行がすでにある場合、非参照スケジュールに発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションを実行するとき、または参照スケジュールにスケジュールラインを生成するときに、次のアクションが実行されます。

- 購買発行 (tdpur3120m000) セッションの購買発行の最新改訂が [作成済] 状況の場合、購買発行 (tdpur3121m000) セッションの発行ライン (状況が [スケジュール済] / [作成済]) と、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションの発行ライン詳細が単純に更新されます。
- 購買発行の最新改訂が [送付済] 状況の場合、新しい発行改訂は状況が [作成済] または [スケジュール済] で作成されます。
- 購買発行の最新改訂が [スケジュール済] 状況の場合、購買発行を送付するか、[発行の再構築] チェックボックスをオンにして発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションを実行する必要があります。後者を行った場合、特定の購買発行について発行ラインが再度生成されます。購買発行は前のものと同じ発行改訂番号になり、[スケジュール済] 状況になります。

注意

- 発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションで発行を再作成できるのは、非参照スケジュールのみです。
- 購買発行の最新改訂が [送付済] 状況ではない場合でも、発行ラインの生成時に、新しい改訂番号が生成されることがあります。これは、さまざまなスケジュール出庫日を持つスケジュールが1つの購買発行で保存されている場合に生じます。最終発行の出庫日と異なるスケジュール出庫日のスケジュールには、新しい改訂番号が割り当てられます。
- スケジュール発行日が定義されていないプルコールオフスケジュールは、最終の購買発行改訂で自動的に保存され、状況が [スケジュール済] になります。コールオフスケジュールがスケジュール出庫日に基づいて発行されないため、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッション、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッション、またはその両方の [EDI メッセージを直接発行] チェックボックスをオンにすることをお勧めします。[EDI メッセージを直接発行] チェックボックスをオンにすると、LNの購買発行ラインに関するEDIメッセージが自動生成されます。このメッセージは、電子商取引から発注先に送信されます。

追加情報

- 購買担当は、購買発行 (tdpur3620m000) セッションを使用して、発行と発行ラインの選択を表示し、必要なアクションをラインに実行できます。

- 購買発行のスケジュールラインを扱う処理は、購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [購買発行ラインレベルの税金] フィールドの値によっても異なります。
- 発行の送付後、非参照スケジュールの発行済所要量が削除される場合、発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションを実行して所要量のない発行を作成できます。クラスタに利用できるラインはないため、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで数量がゼロの発行ラインが品目に作成されます。したがって、発注先には、以前に通知した所要量の取消に関する情報を連絡します。参照スケジュールの場合、自動的に取消が発注先に通知されます。詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールラインのゼロ所要数量 (ページ 103)
- 購買発行で送付する非参照スケジュールの場合、購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションから購買スケジュールの倉庫が取得されます。参照スケジュールの場合は、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションから購買スケジュールの倉庫が取得されますが、ラインごとに倉庫が異なってもかまいません。したがって、同じプルコールオフスケジュールのスケジュールラインは、異なる購買発行で保存できます。
- 購買発行差異レポートの出力 (tdpur3422m100) セッションでは、購買発行の 2 つの発行改訂間の差異を出力できます。
- 購買改訂のアーカイブおよび削除 (tdpur3222m200) セッションでは、購買発行改訂を削除できます。

購買スケジュールラインのクラスタ化

クラスタは、複数の参照なしのスケジュールラインを 1 つの購買発行にグループ化するために使用されます。

クラスタには次の利点があります。

- 処理が必要なスケジュールラインを減らすことができる。特に、厳密な計画をまだ必要としないラインをグループ化できます。
- 発注先は、スケジュール発生元に関係なく、スケジュールラインの明確な概要を確認できる。

クラスタ化の条件

1つの購買スケジュールについて、発生元のみが異なるいくつかのスケジュールラインを同じ特徴で生成できます (購買元取引先、出荷元取引先、発行タイプ、出荷基準スケジュール/納入基準スケジュール、および通信方法が同じ)。これらのスケジュールラインは、1つの購買発行で保存されますが、特定期間内の異なる計画入庫(または計画出荷日時)を持つことができます。スケジュールラインがセグメントによって決定された特定期間にあり、そのセグメントがスケジュールの適用可能なセグメントセットから派生している場合、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションでクラスタ化してまとめることができます。

注意

スケジュールラインは、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで次のフィールドがスケジュールラインと一致する場合にのみ、同じ購買発行ライン詳細でクラスタ化されます。

- [購買単位]
- [購買価格単位]
- [価格]
- [倉庫]

- [住所]
- [オプションリスト ID]
- [免税]
- [課税国]
- [税金コード]
- [自己の税金番号]
- [取引先課税国]
- [取引先税金番号]
- [免税理由]
- [免税証明書]
- [優先製造元製品番号]
- [製造元]
- 購買スケジュールラインにリンクされている MPN セット の内容
- [品目改訂]

次のフィールドは、[スケジュール数量] から派生しますが、共通情報で定義されています。これらのフィールドも、複数のスケジュールラインを 1 つの発行ライン詳細にクラスタ化するために同じである必要があります。

- [購買の棚卸単位への変換係数]
- [価格の棚卸単位への変換係数]
- [長さ]
- [幅]
- [高さ]

購買発行での「税金」フィールドの使用方法は、購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [購買発行ラインレベルの税金] フィールドの値によって異なります。

クラスタ化用のセグメントセットの使用

スケジュールラインをクラスタ化するには、まず次のスケジュール発行日を決定する必要があります。この日付は、スケジュールの適用可能な出庫パターンから導出されます。このパターンのデフォルト値は、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションまたは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションから取得されます。

注意

- パターンは、パターン (tcccp0690m000) セッションで定義できます。
- スケジュールラインがクラスタ化されるのは、発行日に指定された時間からではなく、スケジュール発行日の 00:00 からです。

例

- 発行タイプ: 資材発行
- 次のスケジュール出庫日: 26/07 10:00 時

資材発行セグメントセットのセグメント:

セグメント	セグメント時間単位	セグメント期間
1	週	1
2	4 週間	1
3	4 週間	1

スケジュールラインのスケジュール (SCH001) 所要量:

位置番号	発生元	計画入庫日	数量
10	EP	23/07	15
20	EP	26/07	10
30	マニュアル	28/07	10
40	EP	03/08	15
50	マニュアル	10/08	15
60	EP	24/08	20
70	EP	31/08	20

クラスタラインの作成:

発行番号	発行改訂	スケジュール 番号	発行位置	開始日	終了日	数量
REL001	0	SCH001	1	26/07	01/08	20
REL001	0	SCH001	2	02/08	29/08	50
REL001	0	SCH001	3	30/08	26/09	20

スケジュールラインが、次のスケジュール発行日から計算され、1 週間に含まれる場合、それらすべてが 1 つの発行ライン詳細 (セグメント 1) にクラスタ化されます。この期間の後、次の 4 週間に含まれるすべてのスケジュールラインは別の発行ライン詳細 (セグメント 2) にクラスタ化され

ます。その後の 4 週間に含まれるスケジュールラインは、最後の発行ライン詳細にクラスタ化されます。

注意

- 入庫基準スケジュールについて、次のスケジュール発行日より前に計画入庫/出荷日があるスケジュールラインが存在する場合、これらのラインは購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで即時所要量として挿入されます。
- 2つのセグメント間に未定義の期間があると、この時間ギャップを埋める別のセグメントが自動的に追加されるため、この時間ギャップに該当するスケジュールラインもクラスタ処理に含まれるようになります。この新しく生成されたセグメントの期間内にあてはまるすべてのスケジュールラインは、1つの発行ライン詳細にクラスタ化されます。詳細は、次の情報を参照してください: セグメントセットの使用 (ページ 10)。
- セグメントセットの最初のセグメントの最初のセグメント時間単位が [週]、[4 週間]、または [月] に設定されており、(これらはいずれも活動の開始点が「月曜日」であるセグメント時間単位です)、計算されたスケジュール発行日が「月曜日」にならない場合、何日かはクラスタ化処理から除外できます。詳細は、次の情報を参照してください: セグメントセットの使用 (ページ 10)

スケジュールラインのクラスタ

1. 発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションでスケジュールラインをクラスタ化します。クラスタ化されたスケジュールラインは、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで保存され、状況は [作成済] になります。購買発行 (tdpur3121m000) セッションでリンクされた発行ラインの状況も [作成済] になります。
2. 状況が [作成済] の発行ライン詳細に合意し、発行ライン詳細を変更しない場合、発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションでライン (詳細) を承認します。購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションのクラスタ化されたラインと購買発行 (tdpur3121m000) セッションの発行ラインの状況は、[スケジュール済] になります。
3. [最終レポート] チェックボックスがオンに設定されている購買発行の出力 (tdpur3422m000) セッションで [スケジュール済] 状況の発行ラインが出力されるか、または EDI メッセージが自動的に生成されて送信されると、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションのクラスタ化されたラインと購買発行 (tdpur3121m000) セッションの発行ラインの状況が [送付済] になります。

クラスタ化されたスケジュールラインの更新

購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで [作成済] 状況のクラスタ化されたスケジュールラインをチェックし、これらのラインをこのフォーマットで承認しない場合、または [スケジュール済] 状況のクラスタ化されたスケジュールラインをチェックし、このフォーマットで発注先にラインを送信しない場合には、ラインを更新できます。参照なしのスケジュールの発行ライン (詳細) を更新するには、次のステップを実行します。

1. 購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションでレコードを選択します。
2. 購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションの適切なメニューで、[購買スケジュールライン] をクリックし、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションを開始します。
3. 更新するスケジュールラインをダブルクリックして、変更を行います。

4. 購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションの適切なメニューで、[発行の更新] をクリックします。発行が、スケジュールラインについて行った変更で更新されます。

クラスタ化されたスケジュールラインの更新

発注先がクラスタ化されたラインに基づいて商品を送付し、その商品が**ブランクセット倉庫オーダ**に対して倉庫管理で入庫されると、次のルールに基づいて入庫数量が各**プッシュスケジュール**ラインに割り振られます。

入庫数量は、即時または確定タイプの購買スケジュールラインの中で、所要量が満たされていないもっとも古いラインについて、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの [入庫数量] フィールドに記入されます。詳細は、次の情報を参照してください: **ブランクセット倉庫オーダ**

購買スケジュールラインは次の場合満たされていません。

- 入庫数量がオーダ数量より少ない
- オーダ数量が入庫数量と等しいが、承認数量と不合格数量の合計が入庫数量より少ない

注意

- **計画所要量**タイプでは、スケジュールラインに入庫を作成できません。
- 満たされていない購買スケジュールラインが見つからない場合、商品を購買スケジュールで入庫できません。

プッシュスケジュールラインの入庫

プッシュスケジュールの場合、通常、商品は**ブランクセット倉庫オーダ**に対して入庫されます。また、購買発行には、一般に**クラスタ化**されたスケジュールラインが含まれています。商品が入庫すると、商品は、[即時] または [確定] タイプのスケジュールラインの中で、所要量が満たされていない最も古いものに配分されます。

注意

プッシュスケジュールの品目がプロジェクトペギングされると、プロジェクト**ペグ**情報がスケジュールラインにリンクされます。この場合、**ブランクセット倉庫オーダ**に関する入庫は、購買スケジュールライン**ペグ** (配分) の優先順位に基づいて割り当てられます。詳細は、次の情報を参照してください: **調達のプロジェクトペギング**

入庫訂正

入庫が倉庫管理で作成された後に、商品がまだ検査されていない場合、入庫訂正 (whinh3121s000) セッションで入庫数量を訂正できます。

注意

検査済の入庫の場合、入庫訂正は実行できません。入庫時に商品を検査する必要があるかどうかは、購買契約ライン (tdpur3101m000) セッションまたは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [検査] チェックボックスの値によって決まります。

商品を検査する必要がある場合、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) および購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションの [承認済数量] および [不合格数量] フィールドは、倉庫

管理から取得されます。これらのフィールドが入力されている場合、検査済数量の入庫は訂正できません。

商品を検査する必要がない場合、[承認済数量] フィールドは購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションおよび購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションの [入庫数量] フィールドと等しくなります。不合格数量は常にゼロです。入庫済数量が請求されない限り、入庫訂正は常に実行できます。

注意

購買スケジュールラインが請求されると、倉庫管理では入庫を更新できなくなります。ただし、入庫累計の更新 (tdpur3432m000) セッションでは、引き続き入庫累計を更新できます。

入庫数量の増加

倉庫管理で、以前に入庫を確認したときから入庫数量が増加した場合:

1. 商品が、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで、[即時] または [確定] タイプのスケジュールラインの中で、所要量が満たされていないもっとも古いものに割り当てられます。
2. 購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションでは、商品が新しいスケジュールラインに割り当てられるとエントリが作成されます。また、商品が入庫されているがまだ満たされていないスケジュールラインに商品が追加されるとレコードが更新されます。
3. 入庫累計 (tdpur3132m000) セッションが更新されます。

入庫数量の減少

倉庫管理で、以前に入庫を確認したときから入庫数量が減少した場合:

1. 適切な購入スケジュール入庫詳細を倉庫管理の入庫ラインにリンクされている購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで検索します。
2. 購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで、入庫数量を含んだ入庫詳細レコードを選択します。レコードがリンクされたスケジュールラインの計画入庫日によって、レコードに対して入庫数量を減らす順番が決定されます。最初に、最も新しいレコードの入庫数量がゼロになるまで減らされます。次に、2 番目に新しいレコードが減らされます。
3. 購買スケジュールラインの計画在庫処理が更新されます。
4. 調整済購買スケジュールラインの買掛金が更新されます。
5. 入庫累計 (tdpur3132m000) セッションで、スケジュール番号、入庫番号、梱包票番号、出荷 ID および入庫日の組合せの入庫数量と入庫累計が更新されます。一連の入庫累計もすべて新しい数量で更新されます。

例

倉庫管理で、2 月 11 日に 20 個の入庫を確認します。10 個の検査を実行し、そのうち 3 個は不合格、7 個は承認されました。2 月 13 日に 5 個の入庫を確認します。これら 5 個は検査する必要があります。

次の表は、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションと購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションに書き込まれる情報を示します。

スケジュール ライン	所要日	所要数量	入庫日	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	13/2	15	11/2	15	7	3
20	14/2	5	11/2	5	0	0
30	15/2	5	13/2	5	0	0
40	16/2	8	-	-	-	-

スケジュール ライン	入庫番号	出荷 ID	梱包票番号	入庫日	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	RCP0001	BP001	PS0001	11/2	15	7	3
20	RCP0001	BP001	PS0001	11/2	5	0	0
30	RCP0002	BP002	PS0002	13/2	5	0	0
40	-	-	-	-	-	-	-

ここで、入庫番号 RCP0001 に入庫訂正が実行されます。20 個の入庫の代わりに、入庫数量が 12 に変更されます。10 個はすでに検査されて承認または拒否されているため、10 個未満は認められません。

次の表は、購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) および購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションの入庫訂正の結果を示しています。

スケジュール ライン	入庫番号	出荷 ID	梱包票番号	入庫日	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	RCP0001	BP001	PS0001	11/2	10	7	3
20	RCP0001	BP001	PS0001	11/2	2	0	0

30	RCP0002	BP002	PS0001	13/2	5	0	0
40	-	-	-	-	-	-	-

スケジュール ライン	所要日	所要数量	入庫日	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	13/2	15	11/2	10	7	3
20	14/2	5	11/2	2	0	0
30	15/2	5	13/2	5	0	0
40	16/2	8	-	-	-	-

注意

事前出荷通知 (ASN) を使用する場合、ASN 情報と ASN 詳細 (tdpur3113m000) の購買スケジュールラインがリンクされます。このセッションでは、ASN の修正と取り消しが対応するスケジュールラインに伝播されます。前の例の説明と同じ論理が使用されます。

スケジュール済品目の検査

入庫時にスケジュール済品目を検査する必要がある場合は、承認済数量と不合格数量が倉庫管理から取得されます。プッシュスケジュールとプルコールオフスケジュールのいずれのスケジュールタイプかによって、検査結果が調達に通知される方法が異なります。

注意

購買契約ライン (tdpur3101m000) セッションまたは品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [検査] チェックボックスによって、入庫の確認後にスケジュール済商品を検査する必要があるかどうかが決まります。

商品を検査する必要がない場合、倉庫管理入庫済商品を承認することも不合格にすることもありません。そのため、購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションおよび購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで、[承認済数量] フィールドは [入庫数量] フィールドに等しくなります。[不合格数量] フィールドは常にゼロになります。

プルコールオフスケジュール

プルコールオフスケジュールの商品を検査する場合、次のステップが実行されます。

1. 購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200)
[スケジュール]、[入庫番号]、[梱包票]、[入庫日]、および [出荷 ID] 番号の一意の組合せが検索されます。

2. [不合格数量] フィールドおよび [承認済数量] フィールドを検査結果で更新します。
3. 購買スケジュールライン (tdpur3111m000)
[スケジュール] および [参照 ID] の一意の組合せが検索されます。
4. [不合格数量] フィールドおよび [承認済数量] フィールドを検査結果で更新します。

プッシュスケジュール

プッシュスケジュールの商品を検査する場合、次のステップが実行されます。

1. 購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200)
[スケジュール]、[入庫番号]、[梱包票]、[入庫日]、および [出荷 ID] 番号の組合せが検索されます。複数の購買スケジュールラインに作成する入庫は1つでかまわないため、購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで複数の組合せを検索することができます。
2. [不合格数量] フィールドおよび [承認済数量] フィールドを検査結果で更新します。購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで複数の商品が見つかった場合、次の処理が実行されます。
 - 検査結果が、もっとも古い所要日のレコードから最も新しい所要日のレコードの順番で、購買スケジュール入庫詳細レコードに分配されます。
 - まず、購買スケジュール入庫詳細レコードに承認数量を分配してから、不合格数量を分配します。
3. 購買スケジュールライン (tdpur3111m000)
購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで、更新されたレコードにリンクされている購買スケジュールラインが検索されます。
4. [不合格数量] フィールドおよび [承認済数量] フィールドを検査結果で更新します。

例

次の表は、入庫が倉庫管理で確認されてから、プッシュスケジュールの商品が検査される直前までの購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションのレコードを示しています。

- スケジュール番号 :1000001
- 入庫番号: 1
- 事前出荷通知番号: BP001
- 梱包票: PS001

スケジュール ライン	所要日	入庫日	所要数量	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	13/2/2001	11/2/2001	10	10	-	-
20	14/2/2001	11/2/2001	5	5	-	-
30	15/2/2001	11/2/2001	20	5	-	-

倉庫管理で 7 個が検査されており、そのうち 3 個が不合格で 4 個が承認済です。次の表は、購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで、検査結果が分配された内容を示しています。

スケジュール ライン	所要日	入庫日	所要数量	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	13/2/2001	11/2/2001	10	10	4	3
20	14/2/2001	11/2/2001	5	5	0	0
30	15/2/2001	11/2/2001	20	5	0	0

最終的に、13 個が検査されており、そのうち 5 個が不合格で 8 個が承認済です。次の表は、購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションの検査結果を示しています。

スケジュール ライン	所要日	入庫日	所要数量	入庫数量	承認済数量	不合格数量
10	13/2/2001	11/2/2001	10	10	7	3
20	14/2/2001	11/2/2001	5	5	5	0
30	15/2/2001	11/2/2001	20	5	0	5

注意

入庫が倉庫管理で作成され、商品がまだ検査されていない場合、入庫訂正 (whinh3121s000) セッションでプッシュスケジュールの納入数量を訂正できます。詳細は、次の情報を参照してください: プッシュスケジュールラインの入庫 (ページ 41)

購買スケジュールの権限と累計

購買スケジュール権限

発注先は、所要量タイプに基づいて購買スケジュール品目を出荷します。ただし、[確定] 所要量タイプは、以前に受領された [計画済] 所要量タイプと差があってもかまいません。

権限を使用する場合、購買担当は [確定] 所要量タイプを通知する前に、一定の数量レベルまで商品を加工するか、または原料を購入する許可を発注先に与えます。権限の本質は、必要ない商品のリスクを負うことです。つまり、商品が実際に必要かどうかに関係なく、加工および/または原材料に対して支払が生じます。

権限

利用できる権限のタイプは次のとおりです。

- FAB 権限
- 高度 FAB 権限
- RAW 権限
- 高度 RAW 権限

権限を使用するには、次のステップを実行します。

1. 購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび/または品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで、[権限] チェックボックスをオンにします。
2. FAB 権限を与える場合は、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび/または品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [FAB 期間] フィールドで FAB 期間を定義します。
3. RAW 権限を与える場合は、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションおよび/または品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [RAW 期間] フィールドで RAW 期間を定義します。

FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションでは、特定の購買スケジュールのさまざまな権限を表示できます。

次の状況になるとすぐに、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションでスケジュールについての権限が更新されます。

- 権限および累積が累計のリセット (tdpur3230m000) セッションでリセットされたとき
- 購買発行の状況が [送付済] になったとき。この結果、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションのフィールドのほとんどは、購買発行 (tdpur3121m000) セッションから自動設定されます。

注意

権限を使用するのは、資材発行で参照なしのスケジュールを発注先に送信する場合のみです。

プッシュスケジュールに関する FAB および RAW 権限の計算

FAB 権限および RAW 権限は、スケジュール発行日から計算されます。

- FAB 権限
スケジュール出庫日での所要累計 + スケジュール出庫日の時点で入庫が未記帳の発行済スケジュールライン要件 + FAB 期間内のスケジュール要件の合計

- RAW 権限
スケジュール出庫日での所要累計 + スケジュール出庫日の時点で入庫が未記帳の発行済スケジュールライン要件 + RAW 期間内のスケジュール要件の合計

プル予測スケジュールに関する FAB および RAW 権限の計算

FAB 権限および RAW 権限は、現在の日付から計算されます。

- FAB 権限
現在の日付での所要累計 + 現在の日付の時点で入庫が未記帳の発行済スケジュールライン要件 + FAB 期間内のスケジュール要件の合計
- RAW 権限
現在の日付での所要累計 + 現在の日付の時点で入庫が未記帳の発行済スケジュールライン要件 + RAW 期間内のスケジュール要件の合計

注意

- プル予測スケジュールは、所要累計 (tdpur3130m000) セッションに保存されたプルコールオフスケジュールから所要累計を取得します。
- プルコールオフスケジュールはスケジュール出庫日に基づいて発行されないため、プル予測スケジュールでは、FAB および RAW 権限の計算でスケジュール出庫日を使用できません。スケジュール出庫日を使用する場合は、コールオフスケジュールラインの範囲が短いため、FAB および RAW の計算からコールオフスケジュールラインをいくつか除外できます。
このため、現在の日付が使用されます。現在の日付は、次のいずれかになります。
 - 発行ラインの生成 (tdpur3222m000) セッションで発行ラインが生成された日付
 - 発行が更新された日付。この更新は、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションで、適切なメニューの [発行の更新] をクリックすることにより可能です。
 - 発行が再構築された日付。この再構築は、発行ラインの承認 (tdpur3222m100) セッションで [発行の再構築] チェックボックスをオンにすることにより可能です。

例: 権限

所要量タイプ	期間
確定	01/01 - 15/01
計画済	15/01 --->

- 01/01 - 15/01 の期間には、オーダが実際にあります。納入が実際に行われます。
- たとえば、15/01 - 01/02 の期間に、FAB 権限を付与できます。
- たとえば、01/02 - 15/02 の期間に、RAW 権限を付与できます。

例: 高い権限

期間	FAB 権限	高度 FAB 権限	スケジュール発行日
15/1 - 1/2	100	100	1/1
15/1 - 1/2	150	150	5/1
15/1 - 1/2	125	150	10/1

注意

高い権限が有効な期間には、現在の累計リセット日から累計のリセット (tdpur3230m000) セッションで累計リセット日がリセットされるまでの期間が計算されます。

権限は、調整が必要になることがあります。この場合、特定の期間に購買元取引先へ与えられる権限の中で、最も高いものが有効になります。つまり、購買担当は、その期間で最も高い権限を与えた数量について支払が生じます。

購買スケジュール累計

購買スケジュール累計 (CUM) は次のことを実行するために使用されます。

- スケジュールの合計オーダー数量および入庫数量の追跡
- プッシュスケジュールの超過納入および不足納入の計算
- 入庫数量の発注先への通知

累計

調達では、次の累計がサポートされます。

- 出荷累計: 出荷累計 (tdpur3131m000) セッションで表示できます。
- 入庫累計: 入庫累計 (tdpur3132m000) セッションで表示できます。
- 所要累計: 所要累計 (tdpur3130m000) セッションで表示できます。
- 請求累計: 請求累計 (tdpur3133m000) セッションで表示できます。

購買スケジュールが発行されると、上記セッションに次の順序でレコードが挿入されます。

1. 発注先からの事前出荷通知が届くと、出荷済累計レコードが挿入/更新されます。発注先から通知された出荷済数量が挿入されます。
2. 倉庫管理で入庫が作成されると、入庫済累計レコードが挿入/更新されます。実際の入庫数量が挿入されます。
3. 倉庫管理で入庫が確認されると、入庫済累計レコードが挿入/更新されます。スケジュールラインの合計所要数量が挿入されます。
4. 財務会計で請求書が承認されると、請求済累計レコードが挿入されます。

一般に、累計はスケジュール番号、累計リセット日、処理日に基づいて計算および更新されます。処理日は、出荷日、入庫日、計画所要日、または請求日のいずれかになります。スケジュール番号と処理日は、処理が実行されたときに決定されます。

注意

累計のリセット (tdpur3230m000) および契約合計ライン別累計のリセット (tdpur3230m100) セッションで、累計をリセットできます。

累計モデル

購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [累計モデル] フィールドで、会社の通信済み累計の使用方法を指定できます。

次の累計モデルを使用できます。

- 入庫基準累計モデル
入庫基準スケジュールでは発注先の位置が考慮されます。納入数量が不足した場合、次のスケジュール発行日より早い日付で計画所要日が設定されているスケジュールラインの数量は購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションに即時所要量として挿入されます。さらに、合計入庫済累計が発注先に通知されます。
- オーダ基準累計モデル
オーダ基準スケジュールでは発注先の位置が考慮されません。超過納入または不足納入の場合、発注先が需要に関連する発注先の位置を計算する責任を負います。このため、すべてのオーダ数量は発注先に通知され、その後で発注先は出荷済数量をオーダ数量から差し引きます。発注先での不足納入または超過納入の処理方法の詳細は、販売スケジュールの調整 (ページ 117)を参照してください。

注意

プッシュスケジュールの場合、商品は、通常、ブランクセット倉庫オーダに対して入庫されます。また、購買発行にはクラスタ化されたスケジュールラインが含まれています。入庫済商品は、即時または確定タイプのスケジュールラインの中で、所要量が満たされていないもっとも古いものに商品が配分されます。詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュールラインのクラスタ化 (ページ 37)

例

スケジュール番号 10000001

所要日	位置番号	オーダ数量	入庫済数量	所要量タイプ	価格
11/01	10	5 個	0 個	[確定]	10
12/01	20	5 個	0 個	[確定]	10
13/01	30	5 個	0 個	[確定]	10

1月10日に、7個の入庫、すなわち入庫0001、梱包票001が確認された場合、このデータは次のように更新されます。

ステップ1: 購買スケジュールラインの選択

[確定]タイプで、所要量が満たされていないもっとも古い購買スケジュールラインから順に選択されます。つまり、初回の入庫は1月11日の所要量、次は1月12日の所要量のように選択されます。スケジュールラインには、最大オーダー数量で入庫の割り当てが可能です。

この例では、7個の入庫が次のように振り分けられます。

- 1月11日: 7個が納入されていますが、このラインでは5個を入庫できます。
- 1月12日: オーダー数量は5個ですが、このラインに割り当てられるのは、実際入庫数量の2個のみです(5個は先の1月11日のスケジュールラインに割り当てられています)。つまり、このラインは部分納品です。

ステップ2: 購買スケジュールラインの更新

購買スケジュールラインが、購買スケジュールライン(tdpur3111m000)セッションで更新されます。

所要日	位置番号	オーダー数量	入庫済数量	所要量タイプ	価格
11/01	10	5 個	5 個	[確定]	10
12/01	20	5 個	2 個	[確定]	10
13/01	30	5 個	0 個	[確定]	10

ステップ3: 入庫詳細の挿入

入庫詳細が購買スケジュール - 入庫(tdpur3115m200)セッションで更新されます。

位置番号	入庫番号	梱包票番号	入庫済数量	承認済数量	不合格数量
10	RCP0001	PS001	5 個	0	0
20	RCP0001	PS001	2 個	0	0

ステップ4: 計画在庫処理を更新

計画在庫処理が倉庫管理で更新されます。

位置番号	入庫日	数量
10	11/01	0 個
20	12/01	3 個
30	13/01	5 個

ステップ 5: 入庫累計の更新

入庫累計が入庫累計 (tdpur3132m000) セッションで更新されます。

入庫番号	梱包票番号	処理日	入庫数量	入庫済累計
RCP0001	PS001	10/1	7	7

ステップ 6: 所要累計の更新

所要累計が所要累計 (tdpur3130m000) セッションで更新されます。

計画所要日	所要数量	所要累計
11/01	5	5
12/01	5	10

権限のリセット

FAB 権限と RAW 権限は、長期にわたると、非常に高い値に増加することがあります。これらの値を減少させるには、累計のリセット (tdpur3230m000) および契約合計ライン別累計のリセット (tdpur3230m100) セッションで累計をリセットするときに、FAB/RAW 権限もリセットします。権限は、累計と同様に年の変わり目では正確にリセットできません。このため、リセット日の後に、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションで更新を保存することができます。リセット後の数量を計算することによって、リセット処理にこの値を含めることができます。

リセットは、次の累計 (CUM) モデルに基づいて実行されます。これらのモデルは、購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [累計モデル] フィールドで定義できます。

- オーダ基準累計モデル
- 入庫基準累計モデル

FAB/RAW 権限を正しくリセットするための条件

- 累計のリセット (tdpur3230m000)、契約合計ライン別累計のリセット (tdpur3230m100)、および累計のリセット (tdsls3230m000) セッションでは、発注先および顧客に同じ累計リセット日を使用します。

- リセットは、顧客が送付した発行を発注先が受領して承認した場合のみ実行できます。そうでない場合、リセット日の後に処理される発行はリセット日が異なるため、発注先はこれを承認できません。[作成済]または[スケジュール済]状況の購買発行ラインは自動的にリセットされます。
- 発注先は、受領した発行を更新することはできません。また、マニュアルで新しい発行を作成することもできません。これは、リセットで誤った数量になる場合があるためです。

リセット数量を計算するには

現行の FAB/RAW 権限値をリセットするには、リセット数量を決定して、現行の FAB/RAW 権限値から差し引きます。

リセット数量は、累計モデルに基づいて次のように計算されます。

- オーダ基準累計モデル
リセット数量 = 新しいリセット日付より前の発行日に通知された最終所要数量。この数量は、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションの [所要累計] フィールドから取得されます。
- 入庫基準累計モデル
リセット数量 = 新しいリセット日付より前の発行日に通知された最終入庫数量。この数量は、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションの [入庫済累計] フィールドから取得されます。

高度 FAB 権限/高度 RAW 権限をリセットするには

高度 FAB 権限および高度 RAW 権限は、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッション/品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [権限の処理] パラメータの設定に基づいてリセットされます。

- [翌期繰越]
高度 FAB 権限と高度 RAW 権限からリセット数量が差し引かれます。
- [リセット]
高度 FAB 権限と高度 RAW 権限は、FAB 権限と RAW 権限の値と等しくなります。

例

- FAB 期間 = 4 週間
- 累計モデル = [オーダ基準]
- リセット日 = 第 3 週開始
- スケジュールラインはリセットが実行される前に生成される
- スケジュールライン 2 は第 3 週に発行される
- スケジュールライン 3 は第 5 週に発行される

週	ライン 1 -		ライン 2 -		ライン 3 -		リセット後の累計
-	数量	累計	数量	累計	数量	累計	-
1	20	20	-	20	-	20	20
2	20	40	-	40	-	40	40

3	20	60	5	45	-	45	5
4	20	80	5	50	-	50	10
5	20	100	5	55	20	70	30
6	20	120	55	110	5	75	35
7	-	-	5	115	5	80	40
8	-	-	5	120	5	85	45
9	-	-	-	-	5	90	50
10	-	-	-	-	5	95	55

[翌期繰越] を行う権限

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	10
FAB	80	110	85	45
高度 FAB	80	110	110	70

リセット日は第 3 週に開始されます。[オーダー基準] 累計モデルのため、リセットは所要累計に基づいて実行されます。第 2 週終わりのリセット数量は 40 です。「権限」が [翌期繰越] の場合、権限累計はリセット日 (第 3 週) から -40 で更新されます。

ただし同じ例でも、繰越以外の権限リセットの場合、高度 FAB は更新されずに FAB 数量と等しくなります。計算は次のようになります。

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	10
FAB	80	110	85	45
高度 FAB	80	110	110	45

注意

- (高度) FAB と (高度) RAW は、出荷スケジュールではなく、資材発行に属すレコードについてのみ再計算されます。
- 購買発行 (tdpur3121m000) セッションでは、FAB と RAW に関連する購買発行ラインのフィールドで、状況が [作成済] または [スケジュール済] のフィールドもリセットされます。

購買スケジュール累計のリセット

長期にわたると、購買スケジュールの累計 (CUM) は非常に高い値に増加することがあります。これらの値を減少させるには、累計のリセット (tdpur3230m000) および契約合計ライン別累計のリセット (tdpur3230m100) セッションで累計をリセットできます。通常このリセットは年末に実行されますが、累計は年の変り目では正確にリセットできません。このため、リセット日以後の更新を累計セッションに保存することができます。リセット後の数量を計算することによって、リセット処理にこの値を含めることができます。

リセットは、次の累計 (CUM) モデルに基づいて実行されます。これらのモデルは、購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [累計モデル] フィールドで定義できます。

- オーダ基準累計モデル
- 入庫基準累計モデル

累計を正しくリセットするための条件:

- 累計のリセット (tdpur3230m000)、契約合計ライン別累計のリセット (tdpur3230m100)、および累計のリセット (tdsls3230m000) セッションでは、発注先および顧客に同じ累計 リセット日 を使用します。
- リセットは、顧客が送付した発行を発注先が受領して承認した場合のみ実行できます。そうでない場合、リセット日の後に処理される発行はリセット日が異なるため、発注先はこれを承認できません。[作成済] または [スケジュール済] 状況の購買発行ラインは自動的にリセットされます。
- 発注先は、受領する発行を更新することはできません。また、マニュアルで新しい発行を作成することもできません。これは、リセットで誤った数量になる場合があるためです。

リセット数量を計算するには

現行の累計値をリセットするには、リセット数量を決定して現行の累計から差し引きます。出荷累計 (tdpur3131m000)、入庫累計 (tdpur3132m000)、所要累計 (tdpur3130m000)、および請求累計 (tdpur3133m000) セッションでは、レコードが追加され、リセット数量によって累計が減算

されます。さらに、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションがリセットされ、生成済でまだ送付されていない発行ラインがリセットされます。

リセット数量は、累計モデルに基づいて次のように計算されます。

- オーダ基準累計モデル
リセット数量=新しいリセット日付より前の発行日に通知された最終所要数量。この数量は、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションの [所要累計] フィールドから取得されます。
- 入庫基準累計モデル
リセット数量=新しいリセット日付より前の発行日に通知された最終入庫数量。この数量は、FAB/RAW 権限 (tdpur3534m000) セッションの [入庫済累計] フィールドから取得されます。

例 1 - [オーダ基準] 累計モデル

- リセット日 = 第 3 週開始
- スケジュールラインはリセットが実行される前に生成される
- スケジュールライン 2 は第 3 週に発行される
- スケジュールライン 3 は第 5 週に発行される

週	ライン 1	リセット前の 所要累計	ライン 2	リセット前の 所要累計	ライン 3	リセット前の 所要累計	リセット後の 所要累計
1	20	20	-	20	-	20	20
2	20	40	-	40	-	40	40
3	20	60	5	45	-	45	5
4	20	80	5	50	-	50	10
5	20	100	5	55	20	70	30
6	20	120	55	110	5	75	35
7	-	-	5	115	5	80	40
8	-	-	5	120	5	85	45
9	-	-	-	-	5	90	50
10	-	-	-	-	5	95	55

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	10

リセット日は第 3 週に開始されます。[オーダー基準] 累計モデルのため、リセットは所要累計に基づいて実行されます。第 2 週終わりのリセット数量は 40 です。このため、すべての累計は累計リセット日 (第 3 週) から -40 で更新されます。

例 2 - [入庫基準] 累計モデル

前の例と同じデータを使用しますが、次のデータも考慮されます。

週	入庫数量	リセット前の入庫済累計	リセット後の入庫済累計
1	10	10	10
2	25	35	35
3	20	55	20
4	-	55	20
5	5	60	25

リセット日は第 3 週に開始されます。[入庫基準] 累計モデルのため、リセットは所要累計に基づいて実行されます。第 2 週終わりのリセット数量は 35 です。このため、すべての累計は累計リセット日 (第 3 週) から -35 で更新されます。

例 1 の合計は、次のようになります。

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	15

購買スケジュールラインに関する取引ログの作成

在庫処理と会計取引は、購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションと品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [処理タイムフェンス] フィールドに定義されるパラメータに基づいて、購買スケジュールラインに関して記録されます。

購買スケジュールラインを変更し、その結果状況が変更されると、次の処理が倉庫管理の下で倉庫オーダーと、財務会計の下で買掛金に記録されます。

倉庫オーダ

オリジナルの状況	新しい状況	アクション
作成済	作成済	7
作成済	承認済	1
作成済	非承認	7
作成済	取消済	7
承認済	作成済	3
承認済	承認済	1
承認済	非承認	3
承認済	ASN 受領	7
承認済	一部入庫	2
承認済	最終入庫	2
承認済	取消済	3
非承認	作成済	7
非承認	承認済	5
非承認	非承認	7
非承認	取消済	4
ASN 受領	ASN 受領	1
ASN 受領	オーダ生成済	6
ASN 受領	一部入庫	2
ASN 受領	最終入庫	2
オーダ生成済	オーダ生成済	1
オーダ生成済	ASN 受領	6

オーダー生成済	一部入庫	2
オーダー生成済	最終入庫	2
オーダー生成済	取消済	3
一部入庫	一部入庫	2
一部入庫	最終入庫	2
最終入庫	一部入庫	2
最終入庫	最終入庫	2
最終入庫	請求済	7
請求済	請求済	7
処理済/削除済	処理済/削除済	7
取消済	処理済/削除済	7
取消済	取消済	7

凡例

1	処理がすでにログ記録されている場合、丸めの問題を回避するためにマイナスおよびプラス処理がログ記録されます。
2	<u>ブランクセット倉庫オーダー</u> に入庫が作成される場合、購買管理は会計取引を記録する方法を決定します。プルコールオフスケジュールに入庫が作成される場合、財務処理は倉庫管理で決定および処理されます。購買管理で原価品目またはサービス品目の入庫が作成される場合、取引は購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで処理されます。
3	処理がすでにログ記録されている場合、処理が反転されます。

4	処理はログ記録されません。状況が「非承認」に変更された場合、マイナス処理がすでにログ記録されています。
5	処理をログ記録する必要がある場合 ([処理タイムフェンス] パラメータに基づいて)、プラス処理がログ記録されます。
6	数量が変更されなかったため、処理はログ記録されません。
7	処理はログ記録されません。

買掛金

オリジナルの状況	新しい状況	アクション
作成済	作成済	4
作成済	承認済	1
作成済	非承認	4
作成済	取消済	2
承認済	作成済	2
承認済	承認済	1
承認済	非承認	2
承認済	ASN 受領	4
承認済	一部入庫	3
承認済	最終入庫	3
承認済	取消済	2
非承認	作成済	4
非承認	承認済	1
非承認	非承認	4
非承認	取消済	4
ASN 受領	ASN 受領	1
ASN 受領	オーダー生成済	4
ASN 受領	一部入庫	3
ASN 受領	最終入庫	3
オーダー生成済	オーダー生成済	1
オーダー生成済	ASN 受領	4

オーダー生成済	一部入庫	3
オーダー生成済	最終入庫	3
オーダー生成済	取消済	2
一部入庫	一部入庫	3
一部入庫	最終入庫	3
最終入庫	一部入庫	3
最終入庫	最終入庫	3
最終入庫	請求済	4
請求済	請求済	4
処理済/削除済	処理済/削除済	4
取消済	処理済/削除済	4
取消済	取消済	4

凡例

1	買掛金で購買スケジュールが削除され作成されます。
2	買掛金で購買スケジュールが削除されます。
3	買掛金でスケジュールの入庫が更新されます。
4	活動なし

購買オーダーおよびスケジュール履歴

購買オーダーおよびスケジュール履歴は、購買オーダーおよびスケジュールの作成や修正を記録するために使用します。オリジナルの購入オーダーおよびスケジュールが削除された後、一定の情報を保存できます。

オーダーおよびスケジュールの作成、取消、または処理の履歴を登録するには、次のチェックボックスをオンにします。

- 購買オーダー
購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [オーダー履歴のログ] および [実際オーダー在庫履歴のログ]
- 購買スケジュール
購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [スケジュール履歴のログ] および [実際スケジュール在庫履歴のログ]

履歴ファイルの内容

購買オーダー/スケジュール履歴ファイルには、次の項目が含まれています。

- すべての作成済購買オーダー/スケジュール (ライン)。これらのオーダー/スケジュール (ライン) は、まだ処理されていないオーダー/スケジュール (ライン) です。
- すべての請求済購買オーダー/スケジュール (ライン)。これらのオーダー/スケジュール (ライン) は、処理済のオーダー/スケジュール (ライン) です。

履歴ファイルは、次のレコードタイプで構成されます。

- [入力]
オーダー/スケジュールラインが追加、変更、または削除されました。
- [取消]
オーダー/スケジュールラインは取り消されました。
- [取引高]
オーダーラインが納入済購買オーダーの処理 (tdpur4223m000) セッションで処理されたか、
納入済購買スケジュールの処理 (tdpur3223m000) セッションで処理されました。

次の表に示すフィールドが、購買オーダー/スケジュール履歴ファイルを更新するかどうか、また更新する場合のタイミングとその方法を決定します。

購買オーダー

フィールド	セッションから取得
[オーダー履歴データのログ]	購買オーダー (tdpur4100m000)
[履歴ログの開始時点]	購買オーダー (tdpur4100m000)
[入力のログ記録レベル]	購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400)
[実際オーダー在庫履歴のログ]	購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400)

購買スケジュール

フィールド	セッションから取得
[スケジュール履歴のログ]	購買スケジュール (tdpur3110m000)

[入力のログ記録レベル]	購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500)
[実際スケジュール在庫履歴のログ]	購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500)

購買スケジュールでは、履歴ログは常に承認中に開始します。

履歴ファイルの消去

購買オーダー/スケジュール履歴のアーカイブおよび削除 (tdpur5201m000) セッションを使用すると、履歴データの合計金額を制限できます。

履歴ファイルは、統計の基盤であることに注意してください。履歴ファイルを削除する前に、統計がすべて更新されていることを確認してください。更新前に履歴ファイルを削除すると、統計を完全に更新することができなくなります。

注意

履歴データは修正できません。これは、参考情報の目的でのみ使用します。

一般データとマスタデータ

販売スケジュール処理の概要

販売スケジュールは、頻繁に納入がある長期の販売プロジェクトに使用します。このスケジュールは、取引パートナー間で使用される特定商品のスケジュールを表します。

販売スケジュールは品目の納期/時刻を指定する詳細な方法を提供しているため、たとえば、JIT環境などの全体を把握できる時間に沿った資材所要量の情報が必要な場合に、標準の販売オーダーの代わりに販売スケジュールを使用します。

販売スケジュールは、参照または非参照にすることができます。

承認の後、販売スケジュールは、特定の価格および値引など、同意された条件に従って品目を納入する法的な義務になります。

販売スケジュールマスタデータ

販売スケジュール手順を実行するには、事前に次の設定を行います。

1. 販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [スケジュール] チェックボックスをオンにします。
2. 販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションで販売スケジュールパラメータを指定します。
3. 販売スケジュールマスタデータを指定します。
詳細は、次の情報を参照してください: :
 - 販売品目データ
 - 販売組織データ
4. 次のように指定します。
 - 販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオンの場合は、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションのロジスティック合意条件
 - 販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオフの場合は、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションのロジスティック合意条件
5. 販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [販売スケジュール発行の自動処理] チェックボックスをオンまたはオフにします。

注意

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオンの場合、販売スケジュールは、有効な販売契約にリンクされている場合のみ作成できます。さらに、販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールの条件を使用] チェックボックスもオンの場合は、販売スケジュールにはリンクされた条件合意が必要となります。

詳細は、次の情報を参照してください::

- 販売契約 - 概要
- 条件の概要
- 自動販売スケジュール処理 (ページ 67)

販売スケジュール手順

販売スケジュール手順は次の手順からなります。

1. 販売発行の作成と更新
2. 販売スケジュールの作成と更新
3. 販売スケジュールの権限の決定と使用
4. 販売スケジュール累計の決定と使用
5. 販売スケジュールの承認
6. 倉庫管理への販売スケジュールまたは計画済倉庫オーダの発行
7. 請求への販売スケジュールまたは計画済倉庫オーダの発行
8. 販売スケジュールの処理

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュール手順 (ページ 89)

注意

期限内に販売オーダを生成する簡略化された販売スケジュールソリューションでは、契約納入から非参照販売スケジュールを作成します。詳細は、次の情報を参照してください: 販売契約の予定所要量

オプション処理

販売スケジュールでは以下はオプションです。

- 資材価格
資材価格パラメータ (tcmpr0100m000) セッションの [販売の資材価格設定] チェックボックスがオンの場合、資材価格マスタデータを設定した後に、スケジュールラインの資材価格情報が取得されます。
- 追加情報フィールド
追加情報フィールドを定義できます。この内容は、倉庫管理で倉庫オーダを経由して販売スケジュールから出荷へ転送されます。詳細は、次の情報を参照してください: 追加情報フィールド
- 消費
販売スケジュールの消費を登録し、処理できます。詳細は、次の情報を参照してください: 在庫消費処理 (ページ 68)

- 追加コスト
販売スケジュールラインにリンクされている販売出荷の追加コストを計算できます。詳細は、次の情報を参照してください: 追加コスト - 出荷基準 (ページ 74)
- 計画済倉庫オーダ
販売スケジュール手順で計画済倉庫オーダを使用できます。詳細は、次の情報を参照してください: 計画済倉庫オーダ (ページ 77)

自動販売スケジュール処理

販売スケジュールの処理を自動化できます。活動ごとに、その活動を自動的に実行するか、またはマニュアルで実行するかを指定します。

スケジュール手順活動の実行は、販売発行が販売スケジュールに処理されたとき、または販売スケジュールが作成されたときに開始できます。すべての自動活動は、自動化すると定義されていない活動に達するまで、自動化された活動がすべて連続して実行されます。自動化しない活動をマニュアルで実行すると、次の自動化された活動が連続して実行されます。そのため、活動ごとに、その活動を自動的に実行するか、またはマニュアルで実行するかを指定します。

注意

参照および非参照スケジュールの場合、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [販売スケジュール発行の自動処理] チェックボックスにより、販売発行を状況が [作成済] の販売スケジュールに自動的に変換されるかどうかが決まります。

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] および [スケジュールの条件を使用] チェックボックスにより、どのセッションから自動処理データが取得されるかが決まります。

- [スケジュールに契約を使用] はオフになっています。
データは品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションから取得されます。
- [スケジュールに契約を使用] はオンになり、[スケジュールの条件を使用] はオフになります。
販売スケジュールが条件契約にリンクされた販売契約に基づく場合、自動処理中のデータはスケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションから取得されます。条件契約が契約にリンクされていない場合、データは販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションから取得されます。
- [スケジュールに契約を使用] および [スケジュールの条件を使用] はオンになります。
販売スケジュールは、条件契約にリンクされた販売契約に基づく必要があります。このため、自動処理データはスケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションから取得されます。

自動販売スケジュール処理データを取得する検索ロジック

[スケ ジュールに 契約を使 用]	関連条件契 約?	セッションから取得される 自動処理データ	自動処理データ
----------------------------	-------------	-------------------------	---------

オン	あり	スケジュール条件 (tctrm1131m000)	非参照スケジュール 1. [販売スケジュールの自動調整] 2. [非参照販売スケジュールの自動承認] 3. [非参照販売スケジュールをオーダーに自動発行] および [非参照スケジュール用にバックオーダーを自動発行] 参照スケジュール 1. [参照済販売スケジュールの自動承認] 2. [参照販売スケジュールをオーダーに自動発行] および [参照スケジュール用にバックオーダーを自動発行]
オン	なし	販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000)	[参照済販売スケジュールの自動承認]
オフ	適用なし	品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000)	[参照済販売スケジュールの自動承認]

注意

- 自動で実行される活動の場合、処理レポートは出力されません。
- バッチセッションによって販売スケジュール活動を実行中にエラーが発生した場合、デバイスを選択してエラーを出力できます。

在庫消費処理

販売業者管理在庫 (VMI) および外注環境では、発注先または製造元の管理倉庫で消費データを表示しメンテナンスするために、消費が記録されます。この倉庫は、顧客または外注先の倉庫を顧客/外注先からミラーし、発注先/製造元により供給された資材を消費します。

在庫消費の処理には、これらの消費の作成と処理が含まれます。

注意

このトピックでは、発注先は発注先または製造元を指し、顧客は顧客または外注先を指します。また、VMI 倉庫とは顧客または外注先の倉庫のことで、顧客または外注先は、発注先または製造元によって提供される商品をこの倉庫から消費します。

消費マスターデータ

発注先の管理倉庫で在庫消費を記録して在庫レベルを更新し、請求を開始するには、次の手順を実行します。

1. 導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションで、次のチェックボックスをオンにします。
 - [VMI (発注先側)] チェックボックス。VMI 環境の消費をメンテナンスします。
 - [資材フローで外注] および [資材フローで外注 - サービス] チェックボックス。外注環境の消費をメンテナンスします。
2. 条件 (tctrm1100m000) セッションで、関連する取引先、倉庫、および品目の条件を指定します。
3. 消費ラインにスケジュールの外部梱包票を含める必要がある場合は、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで、[外部梱包票必須] チェックボックスをオンにします。販売先取引先、出荷先取引先、および品目の組合せについて、[重複外部梱包票を許可] チェックボックスがオンになっている場合、すでに使用された外部梱包票を使用できます。
4. 在庫消費 (tdsls4140m000) セッションで外注シナリオにおける消費を作成するには、ロジスティック条件 (tctrm1140m000) セッションの [在庫更新方法] フィールドに次の値を設定します。
 - [入庫および消費]
 - [入庫、消費および在庫残高]
 - [消費としての在庫残高]
 このオプションフィールドを指定していない場合、VMI シナリオでは在庫消費 (tdsls4140m000) セッションで入庫数量が表示されず、資材消費がバックフラッシュで更新されます。

VMI 機能の設定方法の詳細は、VMI 顧客役割 - 設定およびVMI 発注先予測 - 設定を参照してください。外注についての情報は、外注の概要を参照してください。

消費

消費レコードは、生成することも、マニュアルで作成することもできます。このレコードは、発注先による入庫数量と、顧客によるその後の消費を示します。

消費レコードは、1 つのヘッダおよび 1 つ以上のラインから成ります。

- 消費ヘッダ
VMI 倉庫に補充されると、消費ヘッダが生成されます。消費レコードのヘッダには、顧客の名前、VMI 倉庫、集計された入庫済および消費済品目数量が含まれています。これらのヘッダは、在庫消費 (tdsls4140m000) セッションで表示およびメンテナンスできます。
- 消費ライン
顧客が資材を消費した場合、消費ラインが作成されます。個々の消費の詳細は、在庫消費ライン (tdsls4141m000) セッションで表示およびメンテナンスできます。
- 消費ラインは、LoadInventoryConsumption ビジネスオブジェクト文書 (BOD) を受け取った後に生成されますが、顧客から受信した電子メールや着信した電話に基づいてマニュアルで作成することもできます。

消費が指定された後、次のように処理する必要があります。

- 請求できる場合、顧客に消費数量を請求します。

- 管理倉庫の在庫レベルを引き下げます。

注意

顧客の LN システムでは、委託消費 (whwmd2551m000) セッションおよび在庫消費 (whina1514m000) セッションで消費が生成されます。詳細は、次の情報を参照してください: 消費レコード

消費の処理

請求対象かどうかを判断して関連する顧客への請求を開始し、管理倉庫の在庫レベルを下げるには、在庫消費を処理する必要があります。

次の処理ができます。

- 消費ライン。在庫消費ライン (tdsls4141m000) セッション内の適切なメニューで、[消費ラインの処理] を選択
- 品目の消費ライン。[在庫消費の処理] セッションで、適切なメニューの在庫消費 (tdsls4140m000) を選択
- 在庫消費の処理 (tdsls4290m000) セッションの一連の消費。

消費が処理されると、消費にリンクされたオーダおよびスケジュールが在庫消費ライン別オーダ (tdsls4142m000) セッションに表示されます。

注意

これらのすべてのセッションは、在庫消費 (tdsls4640m000) セッションから開始できます。

消費処理の概要

ステップ 1: 補充オーダまたはスケジュールへの消費のリンク

請求対象であるかどうかと、その関連する顧客へ請求を使用する必要があるかを判断するために、LN では VMI 倉庫に入庫された品目のオーダまたはスケジュールに消費がリンクされます。考えられるシナリオを次に示します。

1. [外注参照] を消費ラインで指定する場合、消費は購買オーダ資材供給ライン (tdpur4116m000) セッションの対応する購買資材供給ラインにリンクされます。
2. [参照]、[出荷参照]、または両方のフィールドが指定されている場合、これらのフィールドの組合せに一致する販売スケジュールが検索され、消費がスケジュールにリンクされます。スケジュールが見つからない場合、メッセージが表示されます。
3. [梱包票] が利用可能な場合、一致する販売スケジュール出荷が検索され、消費がスケジュールにリンクされます。スケジュール出荷が見つからない場合、メッセージが表示されます。
4. [顧客オーダ] が利用可能で、一致する販売オーダが見つかった場合、オーダの支払条件を使用して消費がオーダにリンクされます。
5. 一致する販売オーダが見つからない場合は、一致する販売スケジュール (ライン) を [顧客オーダ] または [顧客契約参照] を使用して消費にリンクできるかどうかチェックされます。
6. [請求必須] チェックボックスがオンになっている場合、消費にリンクできる [使用払] 販売オーダラインが検索されます。

7. [使用払] 販売オーダーラインが見つからない場合、消費にリンクできる [使用払] 販売スケジュールラインが検索されます。
8. [使用払] 販売スケジュールラインが見つからない場合、委託請求販売オーダーが作成され、消費数量の請求が処理されます。

消費ラインの [請求必須] チェックボックスがオフの場合、LN によって在庫レベルが自動的に引き下げられます。詳細は、次の情報を参照してください: 管理倉庫での在庫レベルの調整

ステップ 2: 返品処理

消費ラインで [返品] チェックボックスがオンの場合、請求は必要ありません。

見つかった販売オーダーが [使用払] の場合、請求されない請求ラインが作成されます。請求ラインには、返品消費数量が販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションの [返品消費数量] フィールドに表示されます。

[外注参照] に入力済か、返却済品目が梱包品目の場合、消費ラインの [処理済] チェックボックスがオンになり、他のアクションは実行されません。

数量を返却するには、販売返品オーダーをマニュアルで作成し、それを関連するオーダー/スケジュールにリンクする必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: 販売返品オーダー

消費の補充オーダーのヘリンク

消費レコードは次の内容に該当することがあります。

- 補充外注オーダーとリンクしている。詳細は、次の情報を参照してください: 外注オーダー
- 補充VMIオーダー/スケジュールとリンクしている。詳細は、次の情報を参照してください: VMI オーダーまたはスケジュール
- 補充オーダー/スケジュールにリンクできない。詳細は、次の情報を参照してください: 発生元 [消費] がある販売委託請求オーダー

外注オーダー

消費ラインを外注購買オーダーにリンクするために、外注参照、消費済品目の順に利用して、外注購買オーダーを照合して関連する資材供給ラインが検索されます。在庫消費ラインの品目に一致する品目を含む資材ラインが選択されます。

原価計算を行うには、使用済資材を適切な外注購買オーダーに記帳する必要があります。このため、在庫消費ライン (tdsls4141m000) セッションの [外注参照] フィールドは必須です。

通常、製造元から供給される資材と、製造元用の品目を製造するために外注先が消費する資材については、外注先は請求されません。

作業外注、品目外注、またはサービス外注資材供給ラインにリンクされた消費ラインの場合、外注先から消費メッセージを受け取った後に、購買オーダー資材供給ライン (tdpur4116m000) セッションの [消費数量] フィールドが更新されます。これに伴って、在庫レベルも更新されます。詳細は、次の情報を参照してください: 管理倉庫での在庫レベルの調整

VMI オーダーまたはスケジュール

LNでは、消費ラインを販売業者管理在庫 (VMI) オーダーまたはスケジュールにリンクするために、参照と出荷参照の組合せを使用して、一致する販売スケジュール出荷が検索されます。次に、梱

包票を使用して、一致する販売スケジュール出荷が検索されます。最後に、顧客オーダ/スケジュール参照が検索の対象になります。

VMI 環境では、顧客オーダまたはスケジュールの参照は必須ではありません。在庫消費ラインに顧客オーダ/スケジュール参照が含まれている場合、一致する [顧客オーダ] または [顧客契約参照] を含む販売オーダまたは販売スケジュールが検索されます。一致する参照番号が見つからない場合、[顧客スケジュール番号] が一致する最初の顧客スケジュール参照が検索されます。連続するスケジュールラインが異なる顧客スケジュール参照を持つことがあっても、消費ラインは、この特定の販売スケジュールにリンクされています。

支払が [使用払] に設定されている場合、在庫レベルが更新され、請求が発生します。消費ラインにリンクされたオーダ/スケジュールラインでは、販売オーダ請求ライン (tdsls4106m100) または販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションで請求ラインが作成されます。

支払が [貨物引換払] または [支払なし] に設定されている場合、在庫レベルのみ更新されます。詳細は、次の情報を参照してください: 管理倉庫での在庫レベルの調整

梱包票または顧客オーダ/契約/スケジュール参照がなく、[請求必須] チェックボックスがオンの場合、次のようになります。

1. まだ完全に消費されていない、[使用払] タイプの支払を持つもっとも古い販売オーダ/スケジュールが検索されます。一致する販売オーダラインまたは販売スケジュールラインが見つかった場合、その販売オーダラインまたは販売スケジュール (ライン) にリンクされた請求ラインが作成されます。
2. 一致するラインが見つからない場合、販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [委託請求オーダタイプ] フィールドに基づいて委託請求販売オーダが作成されます。

[使用払] 販売オーダ/スケジュールラインが使用されており、合計消費数量がオーダ数量を超えている場合、「収まる」部分の請求ラインが作成されます。残りの部分については、他の [使用払] 販売オーダ/スケジュールラインが検索され、請求ラインが作成されます。販売オーダ/スケジュールラインが見つからない消費数量については、委託請求販売オーダが作成されます。

作成された請求ラインごとに、在庫レベルが請求数量で更新されます。詳細は、次の情報を参照してください: 管理倉庫での在庫レベルの調整

注意

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションで [外部所有権] チェックボックスがオンになっている場合のみ、[使用払] 販売オーダ/スケジュールラインが検索されます。

発生元 [消費] がある販売委託請求オーダ

消費を補充オーダにリンクできない場合、消費数量の請求が処理するために販売委託請求オーダが生成されます。これらのオーダの発生元は [消費] であり、そのオーダタイプは、販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [委託請求オーダタイプ] フィールドから取得されます。

これらのオーダの在庫レベルの更新は倉庫管理によって処理されます。これは、倉庫活動が販売委託請求オーダのオーダ手順の一部であるためです。

委託請求オーダが倉庫管理に発行された後、在庫レベルの調整が出庫処理によって処理されます。委託請求オーダタイプにリンクされた倉庫オーダタイプの活動を、自動に設定する必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: 倉庫手順を定義するには

注意

- 販売委託請求オーダの価格は消費日付に基づいています。

- 発生元が [消費] の販売オーダーを取消または削除することはできず、対応するラインを取消、削除、追加したり、品目と数量を変更したりすることもできません。

管理倉庫での在庫レベルの調整

出庫手順や出荷手順を実行せずに管理倉庫の在庫レベルが自動的に更新されます。在庫の減少を登録するために、[販売 (マニュアル)] タイプの販売オーダーと出荷が作成されます。

この販売オーダーと出荷は品目 - 倉庫 - 在庫処理 (whinr1510m000) セッションと在庫消費 (whina1514m000) セッションで表示できます。この販売オーダーの所有権は [顧客所有] です。発生元が [使用払] の販売オーダー/スケジュール、委託請求オーダー、または外注購買オーダーに基づいて、請求と支払が行われるからです。

価格および値引

- 販売オーダー
消費日付または補充日付のいずれかを使用して発生元販売オーダーラインの値に基づく価格と値引が決定されます。この計算は、オーダー条件 (tctrm1130m000) セッションの [価格決定基準] パラメータ設定に従って行われます。
- 販売スケジュール
販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [消費請求書ラインのリンク先] フィールドの値が LN で確認されます。このフィールドは、[スケジュールヘッダ] または [スケジュール要件ライン] に設定できます。
[消費請求書ラインのリンク先] フィールドの値に応じて、価格と値引が次のラインから取得されます。
 - [スケジュールヘッダ]
消費のリンク先となっている販売スケジュールの最初のスケジュールライン。連続したスケジュールラインの情報は考慮されません。
 - [スケジュール要件ライン]
消費のリンク先となっている販売スケジュールの最初のスケジュールライン。

注意

- 販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションでは、消費請求ラインは販売オーダーラインにリンクしています。販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションでは、消費請求ラインは販売スケジュールヘッダまたは販売スケジュールライン/計画済倉庫オーダーラインにリンクしています。
- 販売委託請求オーダーの価格は消費日付に基づいています。

[使用払] 販売オーダー/スケジュールライン

支払タイプが [使用払] で、活動 [請求への発行] がオーダー手順の一部になっている販売オーダー/スケジュールラインでは、次のことを行うことができます。

- 消費を登録する
- 請求対象、つまりリンクされている消費ラインの請求ラインが作成される
- [自己請求] チェックボックスがオン

注意

これは拡張委託の設定に適用され、委託在庫の消費用の請求を補充オーダーまたはスケジュールに直接リンクします。

基本委託設定では、オーダーおよびスケジュール手順が補充部分と請求部分に分割されます。以下のルールが適用されます。

- 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションの [委託補充] チェックボックスがオンになった販売オーダーである委託補充オーダーには、請求を行うことができません。
- 委託補充オーダーは [請求への発行] オーダー手順の一部になっているので、消費は [委託請求] 販売オーダーのみを使用して請求できます。これらの販売オーダーは、販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションの [委託請求] チェックボックスがオンになっています。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売と調達における委託

販売スケジュールの追加コスト

追加コスト - 概要

オーダーまたは出荷に追加コストを課すために販売オーダーまたは出荷に配置できる 追加コスト を指定できます。

追加コスト - 設定

追加コストを販売オーダーおよびスケジュールにリンクするには、事前に、マスターデータを定義する必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 追加コスト - 設定

追加コスト - タイプ

追加コストは、オーダー基準または出荷基準にできます。

- オーダー基準
販売オーダーまたは販売オーダーラインの追加コストが計算されます。販売オーダーの承認後、追加コストは、最終品目を記録した後に追加コスト (品目) としてオーダーに配置できます。
- 出荷基準
出荷または出荷ラインの追加コストが計算されます。出荷の確認後、1 つの出荷 (ライン) についてすべての追加コストを含む販売出荷コストオーダーが生成されます。

注意

オーダー基準の追加コストは販売オーダーのみに適用され、販売スケジュールには適用されません。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 追加コスト - オーダー基準
- 追加コスト - 出荷基準 (ページ 74)

追加コスト - 出荷基準

出荷基準の 追加コスト は販売出荷または出荷ラインについて計算されます。出荷 (ライン) の確認後、出荷 (ライン) に基づいて販売コストオーダーが生成されます。発生元が [出荷] の販売コストオーダーには、1 つの出荷 (ライン) の追加コストがすべて含まれています。

注意

- 複数の販売オーダーラインおよび販売スケジュールラインは1つの出荷にリンクできます。
- 出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーおよびオーダー/スケジュールラインには、共通の出荷 ID が割り当てられます。この ID に基づいて、完了した出荷を顧客に請求できます。関連するオーダー/スケジュールラインと販売出荷コストオーダーは、まとめて請求に発行できます。

出荷基準の追加コスト - 手順

出荷基準の追加コストの手順では、次のステップが実行されます。

ステップ 1: 販売出荷コストオーダーの生成

出荷 (ライン) で有効な追加コストラインのある追加コストセットが検出された場合、出荷 - ライン (whinh4131m000) セッションで出荷依存および品目依存の追加コストが個別の出荷ラインとして出荷に追加されます。追加出荷原価ラインが倉庫管理で生成されます。出荷が確認されると、販売オーダー (tdsls4100m000) セッションで [出荷] 発生元がある販売オーダーが生成されます。

これらの販売オーダーには、次のことが当てはまります。

- 販売オーダータイプとオーダーシリーズは販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [出荷コストオーダータイプ] フィールドと [出荷コストオーダーシリーズ] フィールドから取得されます。
- 販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [出荷] フィールドにはこれらのオーダーが自動的に入力されます。
- この販売オーダーに表示できるのは、原価品目とサービス品目のみです。
- 生成された販売オーダーラインの [追加コストライン] チェックボックスはオンになります。
- 追加コスト金額が [金額] フィールドに表示され、販売オーダーラインの [価格] フィールドは空になります。販売納入 (tdsls4101m200) 活動が実行されるまでは [金額] を変更することができます。この後、納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションまたは販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションで納入済額を変更できます。

ステップ 2: 販売出荷コストオーダーの承認

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [出荷基準コストオーダーの自動承認] チェックボックスによって、販売出荷コストオーダーをどのように承認する必要があるかが決まります。

ステップ 3: 追加コストライン品目の出庫

品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスの値に基づいて、原価品目の出庫が倉庫管理または販売で実行されます。

そのため、販売オーダーラインに関して販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) または販売納入 (tdsls4101m200) 活動のいずれかを実行する必要があります。

販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の前に販売納入 (tdsls4101m200) が実行されていない場合、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションの実行中は、活動が [実行] に設定されます。そのため、販売納入 (tdsls4101m200) を実行することは任意です。

ステップ 4: 販売出荷コストオーダーの請求への発行

出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーおよびオーダー/スケジュールラインには、共通の出荷 ID が割り当てられます。この ID に基づいて、完了した出荷を顧客に請求できます。販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションで [出荷] チェックボックスをオンにすると、出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーとオーダー/スケジュールラインが請求にまとめて発行されます。

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] フィールドによって、販売出荷コストオーダーをどのように請求に発行する必要があるかが決まります。

出荷 ID は、次のセッションで表示できます。

- 販売出荷コストオーダー
販売オーダー (tdsls4100m000)
- 販売出荷コストオーダーライン
リンクオーダーラインデータ (tdsls4102s200)
- 販売オーダーライン
販売オーダー実際納入ライン (tdsls4106m000)
- 販売スケジュールライン
販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000)

ステップ 5: 追加コストラインの処理

販売オーダーと販売スケジュールは、納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションおよび納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで追加コストラインと一緒に処理されます。

出荷/出荷ラインの追加コストの計算

出荷/出荷ラインの追加コストの計算は、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [追加コスト計算方法] フィールドの値に基づきます。出荷の場合は、[追加コスト計算方法] を [ヘッダ基準] にする必要があり、出荷ラインの場合は、[ライン基準] にする必要があります。

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの [出荷の追加コストを計算] チェックボックスがオンの場合は、販売オーダーと販売スケジュールの追加コストが計算されます。

- 販売オーダー
取引先 (または品目、あるいは両方) のコストセットを使用して追加コストが計算されます。
- 販売先取引先 (tccom4110s000) セッションで [追加コスト計算方法] が [ヘッダ基準] の場合、追加コストラインは出荷ごとの合計に基づき、発生元出荷ラインへのリンクは保存されません。
- [追加コスト計算方法] が [ライン基準] の場合は、追加コストが発生元オーダーラインごとに計算され、発生元出荷ラインへのリンクが保存されます。
- 販売スケジュール
取引先 (または品目、あるいは両方) のコストセットを使用して [ヘッダ基準] 追加コストが計算されます。追加コストラインは出荷ごとの合計に基づき、発生元出荷へのリンクは保存されません。
- 契約のコストセットの [ライン基準] 追加コストが計算されます。この計算は、常に、[追加コスト計算方法] とは無関係です。生成された追加コストラインは発生元オーダーライン

にリンクされます。コストを計算する前に、すべての出荷ラインの数量を追加できます。これは、オーダーラインごとに複数の出荷ラインがある在庫内のシリアルに適用できます。

出荷の確認

確認済出荷ラインで、追加コストラインの状況が [未計算] の場合は、追加コストが再計算されます。状況が [修正済] の場合は、追加コストを再計算するか、再計算をスキップするかが LN で確認されます。追加コストの再計算後、出荷 (whinh4130m000) セッションの [追加コスト] フィールドは [計算済] に設定されます。

出荷の構成

関連する追加コストラインは、出荷の構成 (whinh4231m000) セッションで選択されたオプションに従って処理する必要があります。

適切なメニューで、次の項目をクリックします。

- [ライン分割] : 発生元の出荷ラインの状況が [修正済] にリセットされ、追加コストラインが削除されます。発生元ラインの確認中に、追加コストが再計算されます。
- [出荷へ移動] : 発生元出荷ラインの追加コストが新しい出荷ラインに移動されます。

梱包票および納品書

梱包票の出力 (whinh4475m000) セッションおよび納品書の出力 (whinh4477m000) セッションでは、ヘッダ基準の追加コストが最初のラインとして出力されます。ライン基準の追加コストはリンクされた出荷ラインの下に出力されます。

販売スケジュール計画倉庫オーダ

計画済倉庫オーダ

計画済倉庫オーダを使用して、スケジュール更新と改訂を倉庫オーダから分離し、販売スケジュールラインを数量と日付によって調整できます。

注意

- 計画済倉庫オーダを使用するには、販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスをオンにする必要があります。販売スケジュールの承認時には、計画済倉庫オーダが作成されます。
- 販売スケジュールラインで完全パッケージ資材の出荷のみ許可されている場合は、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションで、梱包定義を指定し、扱い単位テンプレート (whwmd4160m000) セッションの [完全梱包のみ] チェックボックスをオンにします。この場合、通常は、計画済倉庫オーダのオーダ数量がリンクされた販売スケジュールラインの合計になりませんが、パッケージ定義に指定された数量に準じて調整されます。
- 倉庫管理の倉庫オーダ (出庫ライン) と販売のスケジュールラインとの間には多対多の関係が存在する可能性があります。

計画済倉庫オーダの作成

[確定] または [即時] の所要量タイプの販売スケジュールラインが承認されると、次のステップが実行されます。

1. 販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションで、販売スケジュールと同じ番号の計画済倉庫オーダが作成されます。参照スケジュールの場合、参照配分は計画済倉庫オーダの参照配分 (tdsls3522m000) セッションの計画倉庫オーダラインを下回るように作成されます。
2. 販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションで、計画済倉庫オーダと販売スケジュールライン (改訂) の間のリンクが作成されます。
3. 販売スケジュールラインが数量別に統合できるかどうかチェックされます。この場合、複数のスケジュールラインが1つの計画済倉庫オーダにまとめられます。計画済倉庫オーダのオーダ数量はグループ化された数量であり、同じ計画済倉庫オーダが各種スケジュールラインにリンクされます。詳細は、次の情報を参照してください: スケジュールラインの計画済倉庫オーダへの統合 (ページ 79)
4. 販売スケジュールラインが日付別に統合できるかどうかチェックされます。この場合、計画済倉庫オーダの[所要開始日] または [計画入庫日] が事前定義された納入時点に変更されます。これにより納入が減少します。また、販売スケジュールの承認中および承認後は、販売スケジュールラインを計画済倉庫オーダに統合するオプションをマニュアルで指定することもできます。詳細は、次の情報を参照してください: スケジュールラインの計画済倉庫オーダへの統合 (ページ 79)

注意

次の特徴を持つ販売スケジュールラインの場合、計画済倉庫オーダは作成されません。

- 販売スケジュールラインが実際のオーダを含まない資材発行にリンクされている。これらのスケジュールラインの販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [確定所要量の資材発行を使用] チェックボックスは、オフになっています。
- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションの [顧客の所要量タイプ] フィールドと [所要量タイプ] フィールドの値が異なる

計画済倉庫オーダの処理

作成後、計画済倉庫オーダでは次のステップが実行されます。

ステップ 1: 計画済倉庫オーダを倉庫管理に発行します。

計画オーダの実際の倉庫オーダへの発行は、次のように実行されます。

- スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [非参照販売スケジュールをオーダに自動発行] チェックボックスまたは [参照販売スケジュールをオーダに自動発行] チェックボックスがオンの場合は自動
- 販売スケジュールの請求への発行 (tdsls3207m000) セッションおよびピックアップシートを倉庫に発行 (tdsls3207m100) セッションではマニュアル

ステップ 2: 計画済倉庫オーダの納入を実行する

詳細は、次の情報を参照してください: 計画済倉庫オーダの納入 (ページ 86)

ステップ 3: 計画済倉庫オーダを請求に発行する

請求への発行は次のように実行されます。

- 販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションでは計画済倉庫オーダの実際納入/請求ライン別
- 販売オーダ/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションでは計画済倉庫オーダの範囲

ステップ 4: 計画済倉庫オーダを処理する

納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで、[請求済] 計画済倉庫オーダにリンクされた販売スケジュールが処理された場合、計画済倉庫オーダも処理されます。

処理中に、取引高履歴が記録され、契約が更新され、スケジュールラインの状況が更新されます。

注意

販売スケジュール (tdsls3611m000) セッションを使用して、これらのステップをすべて実行できます。

計画済倉庫オーダの更新

新しい販売発行が処理されると、販売スケジュールラインの更新または新しいスケジュールラインの改訂により、計画済倉庫オーダと計画済倉庫オーダリンクを更新できます。スケジュールラインの更新または新しいスケジュールラインの改訂がどのように処理されるかは、計画済倉庫オーダの状況によって決まります。また、該当する場合、倉庫オーダの状況によって決まります。

詳細は、次の情報を参照してください: 計画済倉庫オーダの更新 (ページ 83)

スケジュールラインの計画済倉庫オーダへの統合

計画済倉庫オーダを使用する場合、販売スケジュールラインを数量別または日付別に統合できます。

数量別の統合とは、複数のスケジュールラインを 1 つの計画済倉庫オーダにまとめることを意味します。計画済倉庫オーダのオーダ数量はグループ化された数量であり、同じ計画済倉庫オーダが各種スケジュールラインにリンクされます。

日付別の統合とは、スケジュール品目の出荷が計画済倉庫オーダの事前定義された納入日時に統合されることを意味します。

マスタデータ

販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションで、これらの統合フィールドを指定する必要があります。

- [納入パターン]
このフィールドが指定されている場合、LN によって、数量別および日付別またはどちらか一方により、販売スケジュールラインが自動的に統合されます。
- [参照の統合を許可]
同じ [出荷参照] で参照スケジュールラインを数量別に統合できるかどうかを決定します。

- [統合中の追加情報を無視]
追加情報フィールドの内容が異なるスケジュールラインを統合できるかどうかを決定します。

所要量の数量別統合

数量別に統合すると、特定の販売スケジュールの複数のスケジュールラインを 1 つの計画済倉庫オーダにまとめることができます。

販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションでは、異なることのある次のフィールドを除き、販売スケジュールラインのフィールドが同じ場合、スケジュールラインを同一の計画済倉庫オーダに組み合わせます。

- 日付
- 数量
- [参照]
- [顧客スケジュール番号]
- [梱包参照 A]
- [梱包参照 B]
- [追加フィールド] ([統合中の追加情報を無視] チェックボックスがオンの場合)

スケジュールラインの、たとえば、価格情報または販売単位が異なる場合は、それらを統合できません。この場合、同じ出荷参照で複数の計画済倉庫オーダを作成できます。

注意

参照スケジュールラインは、出荷参照が同一の場合にのみ、1つの計画済倉庫オーダに統合できます。

販売スケジュールラインの [スケジュールラインテキスト] チェックボックスがオンの場合、このスケジュールラインは数量別に統合できません。

数量別の統合には以下が適用されます。

- 統合の基礎情報として、計画済倉庫オーダにリンクされている先頭のスケジュールラインから情報が取得されます。つまり、その他のスケジュールラインからの情報は無効になります。
- 受領するスケジュール改訂に対する新しい情報のために統合結果が長期間のうちに変更されると、予測外の不足納入または超過納入の状況が発生し、予測外の計画済倉庫オーダが発生します。

例

スケジュール SCH0001 では、最初の改訂には次のデータが含まれます。

スケジュールライン	オーダー数量	納入地点
10	15	001
20	35	001

スケジュールライン 10 と 20 は、オーダー数量が 50 の 1 つの計画済倉庫オーダー (SCH0001) に統合されます。

2 番目のスケジュール改訂には次のデータが含まれます。

スケジュールライン	オーダー数量	納入地点
10	17	001
20	37	002

納入地点が変更したために、これらのスケジュールラインは数量別に計画済倉庫オーダーに統合できません。

(計画済) 倉庫オーダーの状況に基づき、以下が適用されます。

- 更新可能
納入地点 001 の既存の計画済倉庫オーダーの数量は減少し、17 に設定されます。
- 先頭の計画済倉庫オーダーリンクの数量は減少し、改訂数量が更新され、2 番目の計画済倉庫オーダーリンクが削除されます。
- 2 番目のスケジュールラインに対して、2 番目の計画済倉庫オーダーとリンクが作成されます。
- 更新不可能
納入地点 001 の最初の計画済倉庫オーダーは倉庫管理で処理されます。
- 納入地点 001 の先頭の新しいスケジュールラインの数量は無視されます。計画済倉庫オーダーリンクの改訂のみが更新されます。
- 2 番目のスケジュールラインに対して、新しい計画済倉庫オーダーと計画済倉庫オーダーリンクが作成されます。その結果、超過納入となります。

注意

新しいスケジュール改訂または更新により予測外の (超過) 納入となる場合、常に警告メッセージが表示されます。これにより、必要に応じて、マニュアルによる介入が可能になります。

所要量の日付別統合

日付別の統合とは、スケジュール品目の納入日時が計画済倉庫オーダーの固定納入日時に変更されることを意味します。

販売スケジュールの承認時に、販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションの次の日付は、パターンで定義された納入時のいずれかに変更できます。

- [出荷基準]
[所要開始日]
- [入庫基準]
[計画入庫日]

この結果、計画済倉庫オーダの日付は、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [納入パターン] フィールドに指定された希望納入時に従った日付となります。

マニュアル統合オプション

スケジュールラインの自動統合は計画済倉庫オーダの数を大幅に削減しますが、引き続き、計画済倉庫オーダの数が多すぎるとみなされる場合があります。

計画済倉庫オーダの数をさらに削減、または管理するために、スケジュールの承認時または承認後に統合オプションをマニュアルで指定できます。既存または新しい計画済倉庫オーダの場合、過去の所要量を含め、特定の所要開始日のスケジュールライン所要量を 1 つの計画済倉庫オーダに統合できます。

承認時には、販売スケジュールの承認 (tdsls3211m000) セッションおよびピックアップシートの承認 (tdsls3211m200) セッションを使用して統合オプションを指定できます。

承認後には、計画済倉庫オーダの統合 (tdsls3220m000) セッションおよび計画済倉庫オーダの統合 (ピックアップシート) (tdsls3220m100) セッションを使用して統合オプションを指定できます。

次の統合オプションを指定できます。

[納入パターンを無視]	-
[過去の所要開始日の移動]	[新規所要開始日]
[非パターン所要開始日の移動]	[新規所要開始日]
[計画済倉庫オーダの結合]	[新規所要開始日]
[オリジナル所要開始日 - 開始]	[オリジナル所要開始日 - 終了]

例

納入パターン: 11 月 7 日、水曜日、午前11:00 に出荷

本日: 11 月 1 日

スケジュールライン 数量	開始日	所要量
1 3	10月31日、水曜日、午前7:00	過去
2 5	11月5日、月曜日、午前7:00	パターンなし
3 2	11月7日、水曜日、午前11:00	パターン

設定に応じて、たとえば、11月5日、月曜日、午前11:00出荷で数量10の1つの計画済倉庫オーダが作成されます。

計画済倉庫オーダの更新

スケジュールラインの計画済倉庫オーダが存在する場合、スケジュールラインは新しい販売発行を処理することで更新できます。

次の販売スケジュールに対して販売発行を処理すると、次の結果が示されます。

- 非参照スケジュール
新しい販売スケジュール改訂番号
- 参照出荷スケジュール
スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで [参照出荷スケジュール用のスケジュール改訂] チェックボックスがオンの場合は、新しい販売スケジュール改訂番号
- スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [参照出荷スケジュール用のスケジュール改訂] チェックボックスがオフの場合、更新されたスケジュールライン
- 連続出荷スケジュール
スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで [連続出荷スケジュールのスケジュール改訂] チェックボックスがオンで、特定の発行のすべての発行ラインで品目、販売オフィス、出荷先取引先、および顧客オーダ番号が同じ場合、新しい販売スケジュール改訂番号
- スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [連続出荷スケジュールのスケジュール改訂] チェックボックスがオフの場合、更新されたスケジュールライン
- ピックアップシートのスケジュール
スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで [ピックアップシートにリンクするスケジュールのスケジュール改訂] チェックボックスがオンの場合、新しい販売スケジュール改訂番号
- スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [ピックアップシートにリンクするスケジュールのスケジュール改訂] チェックボックスがオフの場合、更新されたスケジュールライン

(計画済) 倉庫オーダの更新

新しいスケジュールラインの改訂またはスケジュールラインの更新を承認する場合、LNにより状況が [ファイナライズ済] または [取消済] 以外の、既存の計画済倉庫オーダが検索されます。

次のデータに基づいて、計画済倉庫オーダが選択されます。

- 非参照 [出荷基準] スケジュール
販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションの [スケジュール]、[スケジュールタイプ]、および [所要開始日]
- 非参照 [入庫基準] スケジュール
販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションの [スケジュール]、[スケジュールタイプ]、および [所要計画入庫日]
- 参照スケジュール
同じスケジュールとスケジュールタイプの場合、販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションからの [出荷参照]、[顧客スケジュール番号]、および [参照]
- ピックアップシート
同じスケジュールとスケジュールタイプの場合、販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションからの [販売先取引先]、[出荷先取引先]、および [出荷参照]

数量や関連する情報を更新するために、まず最終計画済倉庫オーダが選択されます。既存の計画済倉庫オーダが更新できない場合、新しい計画済倉庫オーダを作成できます。

次のパラメータは、計画済倉庫オーダを作成および更新する処理を制御します。

- 倉庫オーダタイプ (whinh0110m000)
[出庫オーダラインの更新範囲]
- スケジュール条件 (tctrm1131m000)
[新しい計画倉庫オーダを常に自動更新および作成]
- [数量増加に対してのみ追加計画倉庫オーダを作成]

既存の計画済倉庫オーダは更新できる

承認の後、スケジュールラインの更新または新しいスケジュールラインの改訂は、次のように処理されます。

- 計画済倉庫オーダは、販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションで更新されます。
- 既存の計画済倉庫オーダリンクは、販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションで更新されます。
- 倉庫オーダ (使用可能な場合) は、出庫オーダライン (whinh2120m000) セッションで更新されます。

注意

数量がゼロのスケジュールラインを承認すると、計画済倉庫オーダとリンクされた倉庫オーダの [状況] が [取消済] に設定されます。非参照スケジュールの新しい改訂が、既存の [出荷基準] スケジュールの [所要開始日] と [入庫基準] スケジュールの [計画入庫日] に一致しないときは、計画済倉庫オーダも取り消されます。

既存の計画済倉庫オーダは更新できない - 新しい計画済倉庫オーダの作成が許可される

承認の後、スケジュールラインの更新または新しいスケジュールラインの改訂は、次のように処理されます。

- 改訂のあるスケジュール
既存の計画済倉庫オーダは更新できませんが、既存の計画済倉庫オーダリンクの [スケジュール改訂] は販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションで更新されます。このため、既存の計画済倉庫オーダは最新の改訂にリンクされます。
- 新しい計画済倉庫オーダは、販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションで作成され、[オーダ数量] には新しいオリジナルオーダ数量と古いオリジナルオーダ数量の差が表示されます。
- 販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションで、新しい計画済倉庫オーダと新しい販売スケジュールラインの改訂の間に新しいリンクが作成されます。
- 改訂のないスケジュール
既存の計画済倉庫オーダと計画済倉庫オーダリンクの改訂は更新できません。
- 新しい計画済倉庫オーダは、販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションで作成され、[オーダ数量] には新しいオリジナルオーダ数量と古いオリジナルオーダ数量の差が表示されます。
- 販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションで、新しい計画済倉庫オーダと、同じ販売スケジュールラインの改訂との間に、リンクが以前の計画済倉庫オーダ (改訂 1) として作成されます。

注意

改訂された連続出荷スケジュールについて計画済倉庫オーダを更新できない場合、納入が完了した数量または残数量の新しい計画済倉庫オーダを作成することはできません。たとえば、出荷順序 (whinh4520m000) セッションで出荷順序情報を更新するなど、マニュアルで処理する必要があります。

スケジュール改訂/更新を倉庫処理の更新に使用できず、納入処理でエラーが発生するときは、メッセージが表示されます。必要な場合、納品処理はマニュアルで更新できます。

計画済倉庫オーダの更新のシミュレート

販売スケジュール (改訂) を承認する前に、スケジュールの承認をシミュレートして、既存の計画済倉庫オーダが予定どおり更新されているか確認できます。これにより、変更される内容を確認し、たとえば、マニュアルで変更するか、またはこの販売スケジュール (改訂) を承認せず次の変更スケジュール (改訂) まで待つことができます。

スケジュールのタイプに応じて、販売スケジュールの承認は次のようにシミュレートできます。

- 販売スケジュールの承認 (tdsls3211m000) セッションおよびピックアップシートの承認 (tdsls3211m200) セッションで [承認のシミュレート] チェックボックスをオンにする
- 販売スケジュール (tdsls3611m000)、販売スケジュール (tdsls3111m000)、およびピックアップシート (tdsls3107m100) セッションの 適切なメニュー で [承認のシミュレート] をクリックする
- 改訂のない参照スケジュール について、販売発行の処理 (tdsls3208m000) セッションで [承認のシミュレート] チェックボックスをオンにする

計画済倉庫オーダを開く

販売発行を新しいスケジュール改訂に変換する場合、以前と同じ販売スケジュールライン (所要量) 番号が送信されることが想定されます。特定の販売スケジュールラインが、新しい販売スケジュール改訂に対して送信されない場合があります。この場合、この古い販売スケジュールラインへの計画済倉庫オーダリンクが「オープン」のままになります。

この「オープン」の計画済倉庫オーダをまだ更新できる場合、この計画済倉庫オーダの [オーダ数量] は、以前の改訂の販売スケジュール計画倉庫オーダリンク (tdsls3521m000) セッションにある販売スケジュールラインの [オーダ数量] に応じて減らされます。計画済倉庫オーダの数量がゼロになると、その状況は [取消済] に設定されます。

計画済倉庫オーダの納入

状況が [倉庫管理へ発行済] または [部分納入済] の計画済倉庫オーダの納入が実行されると、レコードが販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000) セッションに挿入されます。計画済倉庫オーダ、倉庫オーダリンク、およびスケジュールラインが納入情報で更新されます。

注意

参照スケジュールの場合、参照配分は販売スケジュール実際納入ライン参照配分 (tdsls3542m000) セッションの実際納入ラインの下で使用可能です。

超過納入

オリジナルオーダより多く納入され、複数のスケジュールラインが 1 つの計画済倉庫オーダにリンクされている場合、超過納入が最新の計画済倉庫オーダリンクと関連するスケジュールラインに登録されます。

例

スケジュールライン	オーダ数量
10	10
20	30

スケジュールライン 10 と 20 は、オリジナルオーダ数量が 40 の 1 つの計画済倉庫オーダに統合されます。

数量 50 が納入された場合、以下が適用されます。

- 納入数量 10 がスケジュールライン 1 の計画済倉庫オーダリンクに登録されます。
- 納入数量 40 がスケジュールライン 2 の計画済倉庫オーダリンクに登録されます。

出荷済合計金額が最初に注文された合計スケジュール金額を超えている場合、取引先残高が調整されます。

不足納入

在庫不足のために、計画済倉庫オーダのオリジナルオーダ数量が出荷できない場合、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの次のフィールドにより不足の処理方法が決定されます。

- [出荷規則]
- [出荷および繰越]

[出荷規則]

- [出荷ライン完了]
計画済倉庫オーダは、全体として納入される必要があります。在庫が不足すると、計画済倉庫オーダの出荷が延期になります。
- [出荷ラインおよび取消]
有効在庫が出荷されます。在庫が十分な場合は出荷完了になります。在庫が不足すると、残数量の計画済倉庫オーダが取り消されます。
- [なし]
出荷上の制約はありません。[出荷および繰越] フィールドを定義できます。

[出荷および繰越]

- [No]
品目在庫が不足すると、計画済倉庫オーダのバックオーダになります。
- [繰越または取消]
残りの所要数量は、同じスケジュールのもっとも早い計画済倉庫オーダに転送されます。次の計画済倉庫オーダをこれ以上更新できない場合、残りの所要数量について新しい計画済倉庫オーダが作成されます。新しい計画済倉庫オーダは、オリジナル計画済倉庫オーダにリンクされます。
- 計画済倉庫オーダが検出されない場合、計画済倉庫オーダの残りの所要数量は取り消されます。そのため、[取消済数量] は販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションで入力されます。
- [繰越またはバックオーダ作成]
残りの所要数量は、同じスケジュールのもっとも早い計画済倉庫オーダに転送されます。次の計画済倉庫オーダをこれ以上更新できない場合、残りの所要数量について新しい計画済倉庫オーダが作成されます。新しい計画済倉庫オーダは、オリジナル計画済倉庫オーダにリンクされます。
- 次の計画済倉庫オーダが見つからない場合、品目の在庫不足によって計画済倉庫オーダに対するバックオーダが生じます。

[出荷および繰越] が [No] に設定されている場合

倉庫管理から最終出荷を入庫し、納入数量が計画済バックオーダのオーダ数量より少ない場合、オリジナル計画済倉庫オーダの新しい計画済倉庫オーダが販売スケジュール計画倉庫オーダ (tdsls3520m000) セッションで作成されます。

以下が新しい計画済倉庫オーダに適用されます。

- [バックオーダ (Y/N)] チェックボックスがオンになっています。
- [状況] は [計画済] になっています。
- オリジナル計画済倉庫オーダを参照するために、[親倉庫オーダライン] と [親オーダの倉庫オーダライン連番] フィールドに入力します。

- [所要開始日] と [計画在庫日] はオリジナル計画済倉庫オーダーからデフォルト値が取得されます。
- スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [参照スケジュール用にバックオーダーを自動発行] チェックボックスまたは [非参照スケジュール用にバックオーダーを自動発行] チェックボックスがオンの場合、計画済倉庫オーダーは自動的に倉庫管理に発行されます。

[出荷および繰越] が [繰越または取消] または [繰越またはバックオーダー作成] に設定されている場合

倉庫管理から最終出荷を受信し、納入数量が計画済倉庫オーダーのオリジナルオーダー数量より少ない場合、次のステップが実行されます。

1. 残りの所要数量は、同じスケジュールのもっとも早い計画済倉庫オーダーに転送されます。
[オーダー数量] と [繰越数量] は販売スケジュール計画倉庫オーダー (tdsls3520m000) セッションで更新できます。また、オリジナル計画済倉庫オーダーを参照するために、[親倉庫オーダーライン] と [親オーダーの倉庫オーダーライン連番] フィールドに入力します。計画済倉庫オーダーリンクの [オーダー数量] と関連するスケジュールラインが更新されます。次の倉庫オーダーを出荷すると、超過納入として処理されます。これは、最新の計画済倉庫オーダーリンクと最新のスケジュールラインが最初のオーダーより多い納入数量で更新されることを意味します。
2. 次の計画済倉庫オーダーをこれ以上更新できない場合、残りの所要数量について新しい計画済倉庫オーダーが作成されます。新しい計画済倉庫オーダーは、オリジナル計画済倉庫オーダーと最新のスケジュールラインにリンクされます。
[オーダー数量] は、オリジナル計画済倉庫オーダーの残りの所要数量です。
3. 次の計画済倉庫オーダーが見つからない場合、[出荷および繰越] フィールドの設定によって次のようになります。
 - [繰越または取消] に設定されている場合、計画済倉庫オーダーの残りの所要数量は取り消されます。[取消済数量] は販売スケジュール計画倉庫オーダー (tdsls3520m000) セッションで入力されます。
 - [繰越またはバックオーダー作成] に設定されている場合、残りの所要数量について新規計画済倉庫オーダーが作成されます。新しい計画済倉庫オーダーは、オリジナル計画済倉庫オーダーにリンクされます。

注意

計画済倉庫オーダーが次のために作成された場合、バックオーダーは作成できません。または在庫不足は繰り越せません。

- ピックアップシート
- 連続出荷スケジュール
- 倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [出荷ごとに固有の出荷参照] チェックボックスがオンになっている倉庫オーダーにリンクした参照スケジュール
- 統合済参照のある参照スケジュール

これらのスケジュールについては、計画済倉庫オーダーの残りの所要数量は取り消されます。

販売スケジュール手順

販売スケジュール手順

販売スケジュールの主な手順は次のとおりです。

1. 販売発行の作成と更新
2. 販売スケジュールの作成と更新
3. 販売スケジュールの権限の決定と使用
4. 販売スケジュール累計の決定と使用
5. 販売スケジュールの承認
6. 倉庫管理への販売スケジュールまたは計画済倉庫オーダの発行
7. 請求への販売スケジュールまたは計画済倉庫オーダの発行
8. 販売スケジュールの処理

ステップ 1: 販売発行の作成と更新

販売スケジュール手順では、販売先取引先は販売発行を使用して、長期的および短期的なスケジュール所要量について通知します。これらの所要量は電子データ交換 (EDI) やビジネスオブジェクト文書 (BOD) を使用して受信できますが、マニュアルでも指定できます。

販売発行でのスケジュール所要量は、顧客の外部表示を示します。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売発行 (ページ 92)

ステップ 2: 販売スケジュールの作成と更新

販売スケジュール所要量は販売発行の処理 (tdsls3208m000) セッションで、マニュアルで販売スケジュールへと処理できます。または、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [販売スケジュール発行の自動処理] チェックボックスがオンの場合、自動的に処理できます。販売スケジュールはマニュアルで指定することもできます。

販売スケジュールには、次の条件が該当します。

- 販売スケジュールでのスケジュール所要量は、発注先の内部表示を示します。
- 販売スケジュールラインは、スケジュールに使用される、時間ごとの [所要量タイプ] を表します。この所要量タイプには、[即時]、[確定]、または [計画済] を指定できます。
- 非参照スケジュールの場合、スケジュールの更新は販売スケジュールの改訂番号で処理されます。参照スケジュールの場合、スケジュールの更新は、単純にスケジュールを更新するか、販売スケジュールの改訂番号によって処理できます。
- 販売スケジュールラインは、所要数量がゼロでも受領できます。この場合、該当する販売スケジュールラインは LN により直接取り消されます。

販売スケジュールデータは、次のセッションで表示できます。

- 販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションの販売スケジュール
- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションの販売スケジュールライン
- ピックアップシート (tdsls3107m100) セッションのピックアップシート
- ピックアップシート (tdsls3107m200) セッションのピックアップシートライン

- 連続出荷情報 (tdsls3517m000) セッションの連続出荷情報

詳細は、次の情報を参照してください:

- EDI と販売スケジュール (ページ 92)
- 販売スケジュールラインの所要量タイプ (ページ 101)
- 販売スケジュールの改訂 (ページ 99)
- 参照販売スケジュール (ページ 94)
- ピックアップシート (ページ 96)
- 販売スケジュールラインのゼロ所要数量 (ページ 103)

ステップ 3: 販売スケジュールの権限の決定と使用

販売スケジュール手順では、所要量タイプに基づいて商品を出荷します。ただし、[確定] 所要量タイプは、以前に受領された [計画済] 所要量タイプと差があってもかまいません。権限が使用されている場合、[確定] 所要量タイプが送信される前に、商品を製造する許可、または商品が実際に必要となるまで特定の数量レベルまで原材料を購入する許可が販売先取引先より与えられます。権限の本質は、商品が必要なくなった場合のリスクを販売先取引先が請負うことにあります。つまり、商品が実際にコールオフされるかどうかに関係なく、加工および/または原材料に対する支払が生じます。

権限数量は、資材発行で受領したスケジュールに対してのみ計算できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの権限 (ページ 105)

ステップ 4: 販売スケジュール累計の決定と使用

販売スケジュール手順では、累計 (CUM) を使用して販売スケジュールの累計数量がモニタされます。

販売スケジュール累計には、次のタイプがあります。

- 出荷済累計
特定の販売スケジュールに関して出荷した合計累計数量。
- 入庫済累計
出荷先取引先が特定の販売スケジュールに関してすでに受領した合計累計数量。
- 請求済累計
特定の販売スケジュールに関して請求した合計累計数量。

非参照販売スケジュールの場合、累計により次のことが可能になります。

- 販売スケジュールの納入の過不足をチェックおよび調整する
- 取引先の入庫済累計が出荷済累計に一致するかどうかをモニタする。一致しない場合、不一致を解決できます。

LN:

- [資材発行]、参照スケジュール、ピックアップシート、および納入契約の超過納入または不足納入はチェックまたは調整されません。
- [資材発行] および [出荷スケジュール] の入庫済累計と出荷済累計だけが照合されます。
- [ピックアップシート] の販売スケジュール累計は計算されません。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 販売スケジュール累計 (ページ 109)

- 販売スケジュールの調整 (ページ 117)
- 販売スケジュールの調整 (ページ 123)

ステップ 5: 販売スケジュールの承認

販売スケジュールを実際に処理できるようにするには、[作成済] 状況の販売スケジュールを承認する必要があります。販売スケジュールは、承認されると [承認済] 状況になります。

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオンの場合、販売スケジュールが承認されると、計画済倉庫オーダが作成されます。

非参照販売スケジュールの場合、承認処理時には次のようになります。

- 販売スケジュールの納入の過不足をチェックおよび調整できます。
- LN により販売スケジュールが調整されます。調整は、取引先の [入庫済累計] が [出荷済累計] と一致するかどうかをチェックすることを意味しています。累計が一致しない場合、解決する必要がある不一致が生成されます。

詳細は、次の情報を参照してください: :

- 販売スケジュールの承認 (ページ 120)
- 計画済倉庫オーダ (ページ 77)
- 販売スケジュールの調整 (ページ 117)
- 販売スケジュールの調整 (ページ 123)

ステップ 6: 倉庫管理への販売スケジュールの発行

販売スケジュールの承認または計画済倉庫オーダは倉庫管理に発行する必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールと倉庫 (ページ 133)

ステップ 7: 請求への販売スケジュールの発行

販売スケジュールラインまたは計画済倉庫オーダによってオーダされている品目を (一部) 出荷する場合、納入済商品を請求できます。請求書を送付するには、販売スケジュールまたは計画済倉庫オーダを請求に発行する必要があります。

請求訂正記録を請求に発行することもできます。たとえば、出荷時に出荷済品目が紛失し、それらの紛失した品目に対して取引先に支払わせたくない場合などです。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールと請求 (ページ 135)

ステップ 8: 販売スケジュールの処理

販売スケジュールラインの請求書が送付された後、その販売スケジュールラインの状況は [請求済] になります。[請求済] 状況のラインのある販売スケジュールは、納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションを使用して処理できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの処理と削除 (ページ 137)

注意

- 販売スケジュール (tdsls3611m100) セッションを使用して、注意が必要な販売スケジュールのみを表示し、そのスケジュールラインに適切なアクションを実行できます。たとえ

ば、未承認または未納入で期日が迫っているスケジュールライン、または期日（[開始日]）を過ぎたスケジュールラインを表示します。

- ある品目の取引先との関係がすでに終了している場合、または取引先との間でロジスティック合意条件を変更する場合は、販売スケジュールを終了できます。詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの終了 (ページ 139)

EDI と販売スケジュール

販売先取引先または出荷先取引先から送信された受信 EDI メッセージは、販売先取引先の所要量を納入するために販売スケジュールを処理する際の基準になる情報を提供します。

次の EDI メッセージを使用して、販売先取引先または出荷先取引先からデータを販売スケジュールにインポートします。

資材発行

資材発行メッセージには、BEM MRL001 (BEMIS) などがあります。このメッセージでインポートされたデータには、取引先 (たとえば、MRP) からの長期計画の情報が含まれています。

出荷スケジュール

出荷スケジュールメッセージには BEM SHP001 (BEMIS) などがあります。このメッセージでインポートされたデータには、短期のオーダ情報が含まれています (たとえば、次の 2 週間の所要量)。

連続出荷スケジュール

連続出荷スケジュールメッセージには BEM SEQ001 (BEMIS) などがあります。このメッセージには、BEM SHP001 メッセージと同じデータが含まれていますが、さらに資材を納入ドックで積荷降する際の指定の順序も含まれています。

注意

受信した EDI メッセージは、自動または対話式で処理できます。これまで説明した EDI メッセージが処理されると、受信したデータが販売発行および販売スケジュールセッションに渡されます。

販売発行

販売発行は、顧客の販売スケジュール要件を発行タイプ別にグループ化するために使用されます。販売発行は通常、電子データ交換 (EDI) によって受信されますが、マニュアルで指定したり、ビジネスオブジェクト文書 (BOD) で受信したりできます。販売発行または別個の発行ラインは処理され、販売スケジュールに変換できます。販売発行は、スケジュール所要量に関する外部顧客を表示し、販売スケジュールは内部発注先を表示します。

販売発行改訂により、取引先に送られた更新が識別されます。

次の特徴の特定の組合せについて作成された最初の販売発行は、販売発行改訂番号 1 になります。

- [販売先取引先]
- [出荷先取引先]
- [出荷先住所]
- [発行タイプ]
- [出荷または入庫基準]

- [スケジュール数量タイプ]
- [販売発行発生元]
- [顧客発行]

これらの特徴について新規の販売発行改訂が作成されるときは、改訂番号 2 を使用して販売発行改訂が作成され、以下同様に改訂番号が割り当てられます。

注意

販売先取引先 (tccom4110s000) セッションで [販売スケジュール発行の自動処理] チェックボックスがオフの場合、販売発行の処理 (tdsls3208m000) セッションで販売スケジュールが変換される前に販売発行を更新できます。[販売スケジュール発行の自動処理] チェックボックスがオンの場合、販売発行は自動的に販売スケジュールに変換されます。つまりその後更新ができなくなります。

販売発行タイプと販売スケジュールタイプ

販売発行と販売スケジュールは、次に特定のタイプになります。販売発行に含めることができるのは、同じタイプの販売スケジュールのみです。

利用可能なタイプは次のとおりです。

- [資材発行]
取引先から提供された長期および中期 (一般に数ヶ月) の計画情報。一般に、資材発行は計画発行と考えることができます。ただし、非参照スケジュールの場合、資材発行に実際のオーダが含まれる場合があります。この場合、発行は出荷能力のある資材発行と呼びます。
- [出荷スケジュール]
送信された短期で詳細な情報と固定情報を含む出荷発行。この情報は、ジョブショップの所要量、その他のオーダなどに基づいて収集されます。出荷スケジュールにはオーダ処理情報が含まれ、実際納入に関する情報を取得できます。この販売スケジュールタイプは非参照販売スケジュールおよび参照販売スケジュールに使用できます。
- [連続出荷スケジュール]
通知された短期の (通常 20 日間で、5 日間は固定) 連続出荷情報。連続出荷スケジュールは、所要量の生産または納入についての正確な情報を持つ資材発行または出荷スケジュールの補足情報です。これらのスケジュールには、製造順序や納入順序のほか、出荷後の積荷降のオーダ、場所、時間などを含めることができます。この販売スケジュールタイプは販売スケジュールが非参照の場合のみ使用できます。
- [ピックアップシート]
短期では、集荷情報は取引先から供給されます。ピックアップシートは、特定の日に顧客に輸送するために、特定の運送業者が発注先のサイトで集荷する品目リストを含む文書です。通常、これらは 1 日の所要量です。[ピックアップシート] タイプの販売発行は、[出荷スケジュール] タイプの参照販売スケジュールに変換されます。

注意

特定品目と取引先の組合せに対して受信可能な販売スケジュールタイプは、次のいずれかです。

- 販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [スケジュールメッセージタイプ] グループボックス内のフィールド設定
- 品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションの [EDI メッセージ] フィールド

販売発行データは、次のセッションで表示できます。

販売発行タイプ	販売発行	発行ライン	発行ライン詳細
[資材発行]	販売発行概要 (tdsls3512m000)	販売発行ライン (tdsls3508m000)	販売発行ライン詳細 (tdsls3515m000)
[出荷スケジュール]	販売発行概要 (tdsls3512m000)	販売発行ライン (tdsls3508m000)	販売発行ライン詳細 (tdsls3515m000)
[連続出荷スケジュール]	販売発行概要 (tdsls3512m000)	販売発行ライン-連続出 荷スケジュール (tdsls3116m000)	
[ピックアップシート]	販売発行概要 (tdsls3512m000)	資材発行ライン-ピック アップシート (tdsls3109m000)	販売発行ライン詳細 - ピックアップシート (tdsls3116m100)

注意

販売発行 (tdsls3612m100) セッションおよび販売発行 (tdsls3612m000) セッションを使用して、販売発行データを表示、入力、およびメンテナンスすることもできます。

販売発行ライン

販売発行ラインが販売スケジュールと販売スケジュールラインのどちらを参照するかは、発行タイプによって決まります。発行タイプによって、参照は次のようになります。

- [資材発行] または [出荷スケジュール] の場合、販売発行ラインは販売スケジュールを参照します。
- [連続出荷スケジュール]、販売発行ラインは、販売スケジュールヘッダ、販売スケジュールラインおよび連続出荷情報を参照します。
- [ピックアップシート]、販売発行ラインは、運送業者および出荷参照の組合せを参照します。

販売発行ライン詳細

発行タイプによって、参照は次のようになります。

- [資材発行] または [出荷スケジュール]、販売発行ライン詳細は販売スケジュールラインを参照します。
- [ピックアップシート]、販売発行ライン詳細は、販売スケジュールヘッダ、販売スケジュールライン、およびピックアップシートラインを参照します。

参照販売スケジュール

参照販売スケジュールに関して、スケジュール所要量が (出荷) 参照に基づいて通信されます。

- [参照] は、特定の所要量を識別するために使用します。その所要量は、取引先が組立ラインの特定のラインステーションで特定の順番に要求するものです。
- [出荷参照] は、出荷の識別に使用されます。ピックアップシートを使用している場合は、出荷参照で、リンクされた販売スケジュールラインのピックアップシートも識別できます。

参照販売スケジュールの場合、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションの [参照スケジュール] チェックボックスがオンになります。

注意

- 販売スケジュールラインは、[参照] ごとに 1 つ作成できます。
- [出荷参照] ごとに、販売スケジュールラインが複数存在できます。

マスタデータ

参照スケジュールを使用するには、次のマスタデータの設定が必要です。

- 品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000)
[参照スケジュール] チェックボックスをオンにします。
- [EDI メッセージ] フィールドを [出荷スケジュール]、[出荷スケジュールのみ]、または [連続出荷スケジュール] に設定します。
- 販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000)
[参照スケジュール] チェックボックスをオンにします。
- [出荷スケジュールの使用] チェックボックス、[連続出荷スケジュールの使用] チェックボックス、または [ピックアップシートの使用] チェックボックスをオンにします。

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスによりマスタデータを取得するセッションが決定されます。

スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [参照出荷スケジュール用のスケジュール改訂] チェックボックスにより、参照スケジュールの更新の処理方法が決まります。

- このチェックボックスがオンの場合、新しい販売スケジュール改訂番号が作成されます。
- このチェックボックスがオフの場合、販売スケジュールが更新されます。更新を追跡するため、販売スケジュールラインの更新は改訂として販売発行ライン詳細 (tdsls3515m000) セッションに保存されます (スケジュールラインがマニュアルで指定または更新されていない限り)。このセッションの適切なメニューから、販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションを開始し、販売発行ライン詳細レコードが参照する販売スケジュールラインを表示できます。

注意

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) の [スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオンの場合、計画済倉庫オーダラインを複数の参照スケジュールラインにリンクできます。参照は計画済倉庫オーダの参照配分 (tdsls3522m000) セッションおよび販売スケジュール実際納入ライン参照配分 (tdsls3542m000) セッションに保存されます。

ピックアップシートの参照出荷スケジュール

[出荷スケジュール] タイプの参照販売スケジュールはピックアップシートに対して作成できます。

詳細は、次の情報を参照してください: ピックアップシート (ページ 96)

参照連続出荷スケジュール

[連続出荷スケジュール] タイプの参照販売スケジュールは連続出荷スケジュールに対して作成できます。

[連続出荷スケジュール] タイプの参照販売スケジュールラインが作成された場合、次の情報が挿入されます。

- 連続出荷情報 (tdsls3517m000) セッションの連続出荷情報によって、出荷先取引先が特定のラインステーションの組立ラインで品目を必要とする順番についての情報が通知されます
- 倉庫管理に発行後の出荷順序 (whinh4520m000) セッションの連続出荷の詳細このセッションでは、各参照の出荷順序データを表示できます。商品は、このセッションで指定されている順番で出荷する必要があります。出荷順序情報の最後の改訂のみ表示されます。

販売スケジュールラインごとに出荷順序詳細ラインが1つずつ作成されます。出荷順序詳細の詳細は、販売スケジュールと倉庫 (ページ 133)を参照してください。

連続出荷スケジュールの更新を受信した場合、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの[連続出荷スケジュールのスケジュール改訂] チェックボックスで更新の処理方法を決定します。

- このチェックボックスがオンの場合、新しい販売スケジュール改訂番号が作成されます。
- このチェックボックスがオフの場合、販売スケジュールが更新されます。更新を追跡するために、販売スケジュールラインの更新は改訂として連続出荷情報 (tdsls3517m000) セッションに保存されます。

参照販売スケジュールの詳細

参照販売スケジュールは、マニュアルまたは自動で承認できます。詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの承認 (ページ 120)

注意

参照販売スケジュールに調整は実行されません。

ピックアップシート

ピックアップシートは、単一出荷の出荷先顧客と指定日付について、運送業者が発注先サイトでピックアップする必要がある品目のリストです。このシートは、出荷参照と呼ばれる特別な参照番号によって識別されます。これは、顧客が作成する情報です。この参照番号は、ピックアップシート、出荷、および支払を識別するために使用します。多くの場合、出荷データにはピックアップシートの所要量のリストが含まれていますが、ピックアップシートで要求された商品は、いくつかの販売スケジュールに分けられます。

ピックアップシートを使用できるのは、販売スケジュールがリンクされている販売契約で販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの次のチェックボックスがオンになっている場合のみです。

- [参照スケジュール]
- [出荷参照の使用]
- [ピックアップシートの使用]

販売スケジュール要件は、次の特徴に基づいてピックアップシートでグループ化されます。

- [販売先取引先]

- [出荷先取引先]
- [出荷参照]
- [運送業者/LSP]
- [開始日]
- [終了日]

ピックアップシートには次の条件があります。

- 超過納入は認められません。
- 販売スケジュールにリンクされている契約によって、販売スケジュールに、ピックアップシートの所要量を含められるかが決まります。
- ピックアップシートは確定事項とみなされるため、アプリケーションから更新または調整できません。ただし、承認済みではないピックアップシートはマニュアルで修正できます。

ピックアップシート手順

ステップ 1: 販売発行の作成と更新

ピックアップシートは、次のセッションを使用して受信または指定できます。

- 販売発行概要 (tdsls3512m000)
- 資材発行ライン - ピックアップシート (tdsls3109m000)
- 販売発行ライン詳細 - ピックアップシート (tdsls3116m100)

ステップ 2: ピックアップシートの作成と更新

[ピックアップシート] タイプの販売発行は、販売発行の処理 (tdsls3208m000) セッションの [出荷スケジュール] タイプの参照販売スケジュールへマニュアルまたはアプリケーションで処理できます。これは、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [販売スケジュール発行の自動処理] チェックボックスの設定を基に処理されます。

ピックアップシートの販売スケジュールが作成されると、以下が実行されます。

- 販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで、販売スケジュールの [参照スケジュール] と [ピックアップシートにリンク] チェックボックスがオンになります。
- ピックアップシート (tdsls3107m100) セッションで、取引先、運送業者、および参照データを含むピックアップシートヘッダ情報が参照可能になります。
- ピックアップシート (tdsls3107m200) セッションで、品目、数量、および日付データを含むピックアップシートライン情報が参照可能になります。ピックアップシートラインは販売スケジュールラインを参照します。ピックアップシートラインをダブルクリックすると販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションのラインデータが表示されます。

更新されたスケジュールを受信した場合、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [ピックアップシートにリンクするスケジュールのスケジュール改訂] チェックボックスに従って、スケジュールを更新する処理が決定されます。

- このチェックボックスがオンの場合、販売スケジュール改訂番号が作成されます。
- このチェックボックスがオフの場合、販売スケジュールが更新されます。販売スケジュールラインの更新は改訂として販売発行ライン詳細 - ピックアップシート (tdsls3116m100) セッションに保存されます。

ステップ 3: ピックアップシートの承認

ピックアップシートライン数量を納入するには、[作成済] 状況のピックアップシートを承認する必要があります。ピックアップシートは、アプリケーションによって承認されるか、ピックアップシートの承認 (tdsls3211m200) セッションでマニュアルで承認できます。これは、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションまたは販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの[参照済販売スケジュールの自動承認] チェックボックスの設定によって決まります。

ピックアップシートが承認されると、販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの[スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオンの場合、計画済倉庫オーダが作成されます。

注意: 1 つのピックアップシートは複数の販売スケジュールにリンクできます。また、関連するラインに異なる販売スケジュールの販売スケジュールラインを含めることができます。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 販売スケジュールの承認 (ページ 120)
- 計画済倉庫オーダ (ページ 77)

ステップ 4: 倉庫管理へのピックアップシートの発行

承認済ピックアップシートまたはピックアップシートの計画済倉庫オーダは、倉庫管理に発行されます。これらのシートは、ピックアップシートを倉庫に発行 (tdsls3207m100) セッションを使用してマニュアルで発行することもできます。これは、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの[参照販売スケジュールをオーダに自動発行] チェックボックスの設定によって決まります。

倉庫管理では、ピックアップシート数量を最終輸送オーダに転換でき、それが運送業者に通信されます。この輸送オーダに基づき、輸送計画と経路が最適化され、ピックアップシートの運送業者用コピーが作成されます。

また、ピックアップシートを処理して、出荷を準備し、適切な納入文書を作成し、商品を発送ゾーンに転送できます。輸送用に品目がピックアップされると、運送業者は、発送確定済商品の数量、顧客品目コード、扱い単位を確認し、商品を顧客に転送します。オプションで、顧客に商品の発送を通知できます。

商品の一部しか納入できない場合は、バックオーダを作成できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールと倉庫 (ページ 133)

ステップ 5: 支払いの受領

商品の入庫に基づいて発生する支払は、通常自己請求によって実行されます。支払通知は、あなたと運送業者に送付されます。

詳細は、次の情報を参照してください: 自己請求

[出荷参照] に基づき、販売オーダ/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションを使用して、ピックアップシートまたはピックアップシートの計画済倉庫オーダを請求にすることもできます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールと請求 (ページ 135)

ステップ 6: 販売スケジュールの処理

納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで、[請求済] 状況の販売スケジュールを処理できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの処理と削除 (ページ 137)

販売スケジュールの改訂

販売スケジュール改訂番号は、販売スケジュールの改訂を識別するために使用されます。それらの改訂は、取引先によって送付された販売スケジュールの更新を示しています。

注意

デフォルトでは、非参照販売スケジュールの改訂番号が使用されます。

参照スケジュールについては、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの次のチェックボックスにより、改訂番号を適用するかどうかが決まります。

- [参照出荷スケジュール用のスケジュール改訂]
- [連続出荷スケジュールのスケジュール改訂]
- [ピックアップシートにリンクするスケジュールのスケジュール改訂]

最初の実販売スケジュールが、次のフィールドの特定の組合せについて作成されると、その値が販売スケジュール改訂番号に割り当てられます。

- [販売先取引先]
- [出荷先取引先]
- [品目]
- [販売オフィス]
- [請求先取引先]
- [回収先取引先]
- [スケジュールタイプ]
- [参照スケジュール]
- [契約]
- [契約位置]
- [契約オフィス]
- [顧客オーダ] (販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションで [顧客オーダをスケジュールに使用] チェックボックスがオンになっており、販売契約ライン (tdsls3501m000) セッションで [偏差のある顧客オーダへのアクション] が [ブロック] に設定されている場合)
- [顧客契約参照] (販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションで [顧客契約参照をスケジュールに使用] がオンになっている場合)

これらのフィールドについて新しい販売スケジュールを受信すると、販売スケジュール改訂が作成されて改訂番号は 2 になります。その後も同様に改訂番号が割り当てられます。

連続出荷スケジュールの場合、特定の発行のすべての発行ラインで品目、販売オフィス、出荷先取引先、顧客オーダ番号、および顧客契約参照が同一の場合にだけ、新しいスケジュール改訂が作成されます。

新しい販売スケジュールの改訂が承認された場合、前の販売スケジュール改訂と所要量は有効ではなくなります。この販売スケジュールの改訂はアプリケーションによって交換されます。古い販売スケジュール改訂にリンクされた販売スケジュールラインには、スケジュールラインの現在

の状況とリンクされた出庫オーダーラインの存在に基づいて、[交換済] 状況を割り当てることができます。

許可されている交換

販売スケジュール改訂が交換される場合、関連する販売スケジュールラインの状況が [作成済]、[調整済]、または [承認済] であれば、販売スケジュールラインの状況が [交換済] に設定されます。

注意

販売スケジュールラインが承認済のとき、次の場合に、承認処理の結果が取り消されます。

- スケジュールラインの状況が [承認済]
- スケジュールラインの状況が [オーダー生成済] で、スケジュールラインの出庫処理がまだ開始されていない場合

許可されていない交換

販売スケジュール改訂が交換され、リンクされた販売スケジュールラインの状況が [納入済]、[請求への発行]、または [請求済] であれば、これらの販売スケジュールラインの状況が [処理済] に設定されるように、販売スケジュール手順を終了する必要があります。

これらのスケジュールラインは、現在の改訂が無効となっても、前の改訂に基づいて処理する必要があります (処理が進行し過ぎているため)。

制限のある交換

販売スケジュールラインが倉庫管理に発行された場合、関連する出庫オーダーラインによって販売スケジュールラインを交換できるかどうかが決まります。

倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [出庫処理] タブを使用して、出庫オーダーラインの更新、取消、および削除を許可する期間を指定できます。

販売スケジュール状況

販売スケジュールを交換する場合、関連する販売スケジュールラインの状況に基づいて、販売スケジュール状況が更新されます。

- いずれかの販売スケジュールラインの状況が [処理済] または [交換済] ではない場合、販売スケジュールの状況が [交換処理中] に設定されます。
- すべての販売スケジュールラインの状況が [処理済] または [交換済] の場合、販売スケジュールの状況が [交換済] に設定されます。

倉庫オーダーから販売スケジュール改訂を分離する場合、計画済倉庫オーダーを使用できます。計画済倉庫オーダーは販売スケジュールラインの改訂を処理し、販売スケジュールライン (改訂) と、計画済倉庫オーダーが発行される実際倉庫オーダーとの間のリンクを維持します。詳細は、次の情報を参照してください: 計画済倉庫オーダー (ページ 77)

古い販売スケジュール改訂は販売スケジュール改訂の削除 (tdsls3212m000) セッションで削除できます。

販売スケジュールの改訂間の差異は、販売スケジュール差異の出力 (tdsls3415m000) セッションで出力できます。

販売スケジュールラインの所要量タイプ

所要量タイプは、スケジュールに使用される、時間ごとの所要量を表します。

販売スケジュールラインでは、次の所要量タイプを通信できます。

- [即時]
これらのスケジュール所要量には、作成時点での過去の開始日があります。このため、納入数量の不足となります。これらの所要量はできるだけ早く出荷する必要があります。
- [確定]
これらのスケジュール所要量は、出荷可能な実際オーダーとして処理されます。
- [計画済]
これらのスケジュール所要量は、計画目的のみで送付されます。

注意

- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションの [所要量タイプ] フィールドの値により、販売スケジュールラインを承認したときに実行されるアクションが決まります。販売スケジュールの承認の詳細については、販売スケジュールの承認 (ページ 120) を参照してください。
- [所要量タイプ] が [確定] でも、販売スケジュールラインの [開始日] が システム日付 より前の場合、[所要量タイプ] が [即時] に決定されます。

スケジュールタイプと所要量タイプ

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスにより、販売スケジュールのタイプと入庫可能な所要量を決定するためのデータを、どのセッションから取得するのかが決定されます。

- [スケジュールに契約を使用] はオフになっています。
データは品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションから取得されます。
- [スケジュールに契約を使用] はオンになっています。
データは販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションから取得されます。

品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000)

[所要量タイプ] は、次のように決定されます。

[スケジュールタイプ]	[EDI メッセージ]	[所要量タイプ]
[出荷スケジュール]	[出荷スケジュールのみ]	[確定] または [即時]
[資材発行]	[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール]	[計画済]
[資材発行]	[資材発行]	[処理タイムフェンス]

販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000)

[所要量タイプ] は、次のように決定されます。

スケジュールメッセージタイプ					[スケジュールタイプ]	[所要量タイプ]
[資材発行の使用]	[確定所要量の資材発行の使用]	[出荷スケジュールの使用]	[連続出荷スケジュールの使用]	[ピックアップシートの使用]		
あり	なし	あり	あり	あり	[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール]	[確定] または [即時]
あり	なし	あり	あり	あり	[資材発行]	[計画済]
あり	あり	適用なし	適用なし	適用なし	[資材発行]	[処理タイムフェンス] に依存
なし	なし	あり	適用なし	適用なし	[出荷スケジュール]	[確定] または [即時]
なし	適用なし	なし	あり	なし	[連続出荷スケジュール]	[確定] または [即時]
なし	なし	適用なし	適用なし	あり	[出荷スケジュール]	[確定] または [即時]

[処理タイムフェンス]

資材発行のみを使用する場合は、[所要量タイプ] は [処理タイムフェンス] フィールドの値によって決まります。

- [全ライン]
[所要量タイプ] は、[確定] です。

- [FAB 期間のライン]
販売スケジュールラインの [開始日] が FAB 期間の終了日より前の場合、[所要量タイプ] は [確定] になります。
- 販売スケジュールラインの [開始日] が FAB 期間の終了日より後の場合、[所要量タイプ] は [計画済] になります。
- [確定期間のライン]
[所要量タイプ] は [顧客の所要量タイプ] と一致しています。

凡例

- [処理タイムフェンス] は、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションと販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションで指定されます。
- [EDI メッセージ] は、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションで指定されます。
- [スケジュールメッセージタイプ] は、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションで指定されます。
- [スケジュールタイプ] は、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで指定されます。
- [顧客の所要量タイプ] は、販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションで指定されます。
- FAB 期間は、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで指定された販売スケジュールの [生成日] に、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションまたは販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [FAB 期間] フィールドで指定された日数を加えた期間です。

販売スケジュールラインのゼロ所要数量

販売スケジュールラインは、所要数量がゼロでも受領することができます。販売スケジュールライン数量は、販売スケジュール手順が完了したときに 0 に変更できます。販売スケジュールの所要数量が 0 になると、販売スケジュールラインまたは計画済倉庫オーダの取消が実行されます。

販売スケジュールラインは、次の場合に所要数量がゼロになることがあります。

- 販売スケジュールが「調整済」になっている。詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの調整 (ページ 117)
- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションで、所要数量をマニュアルでゼロに減らした
- 処理された販売発行には、スケジュールラインの数量 0 が含まれています。

販売スケジュールラインまたは計画済倉庫オーダを取消できるかどうかは、販売スケジュールラインまたは計画済倉庫オーダの現在の状況によって決まります。

許可されている取消

状況が [作成済]、[調整済]、または [承認済] の販売スケジュールラインおよび状況が [計画済] の計画済倉庫オーダは、常に取り消すことができます。

注意

販売スケジュールラインがすでに承認処理で承認されていると、スケジュールラインが次の場合、承認処理の結果は取り消されます。

- [承認済] 状況の場合
- [オーダ生成済] 状況で、スケジュールラインの出庫処理がまだ開始されていない場合

許可されていない取消

状況が [納入済]、[請求への発行]、または [請求済] の販売スケジュールラインおよび状況が [ファイナライズ済]、[請求への発行済]、または [請求済] の計画済倉庫オーダは取り消すことができません。状況が [処理済] になるまで、販売スケジュール手順を終了する必要があります。

制限のある取消

販売スケジュールラインとリンクされた計画済倉庫オーダが倉庫管理に発行される場合、関連する出庫オーダラインによって、計画済倉庫オーダ/販売スケジュールラインを取り消すことができるかどうかが決まります。

注意

倉庫オーダタイプ (whinh0110m000) セッションの [出庫処理] タブで、いつまで出庫オーダラインの更新、取消、および削除が許可されるかを指定できます。

オーダ生成済または倉庫管理へ発行済の状況

以下は、状況が [オーダ生成済] の販売スケジュールライン、または状況が [倉庫管理へ発行済] の計画済倉庫オーダに適用されます。

- 出庫オーダラインを取り消すことができる場合、出庫オーダラインは削除され、計画済倉庫オーダ/販売スケジュールラインの状況は [取消済] になります。
- 出庫オーダラインを取り消すことができる場合、出庫オーダラインと計画済倉庫オーダは [取消済] に設定され、販売スケジュールラインの状況は [取消処理中] になります。
- [取消済] に設定されている出庫オーダラインの状況が [出荷済] の場合、販売スケジュールラインの状況は [取消済] になります。

一部出荷または部分納入済の状況

以下は、状況が [一部出荷] の販売スケジュールラインまたは状況が [部分納入済] の計画済倉庫オーダに適用されます。

- 残りの数量の出庫オーダラインを削除できる場合は、計画済倉庫オーダの状況は [ファイナライズ済] になり、販売スケジュールラインの状況は [納入済] になります。
- 残りの数量の出庫オーダラインを取り消すことができない場合は、出庫オーダラインの状況は [取消済] になり、販売スケジュールラインは [一部出荷] 状況のままとなります。[取消済] の出庫オーダラインが [出荷済] 状況になると、販売スケジュールラインは [納入済] 状況になります。
- 計画済倉庫オーダ数量の取り消された部分が計画済倉庫オーダ上で更新され、[取消済数量] として更新されます。計画済倉庫オーダにリンクされている販売スケジュールラインの状況は [納入済] になります。

- 取り消された計画済倉庫オーダにリンクされた販売スケジュールラインには、取消履歴レコードが存在します。これらの履歴レコードの取消済数量の合計は、リンクする計画済倉庫オーダの取消済数量と同じです。

販売スケジュールの累計および権限

販売スケジュールの権限

販売スケジュール品目は、所要量タイプに基づいて出荷されます。ただし、[確定] 所要量タイプは、以前に受領された [計画済] 所要量タイプと差があってもかまいません。

権限を使用する場合、販売先取引先は、[確定] 所要量タイプを通知する前に、一定の数量レベルまで商品を加工するか、または原料を購入する許可を付与します。このプロセスを使用すると、販売先取引先は、商品がコールオフされたかどうかに関係なく、加工または原料もしくは両方について支払う必要があります。

利用できる権限のタイプは次のとおりです。

- FAB 権限
販売スケジュールで必要とされる品目の数量の製造を開始する有効な権限
- 高度 FAB 権限
特定の販売スケジュールに関して取引先から与えられる最高の FAB 権限で、最新の累計リセット日からカウントされます。取引先は、製造されたが出荷されていない品目のこの数量について支払の義務があります。
- RAW 権限
販売スケジュールで要求されている品目数量の製造に必要な原材料を購入するための権限
- 高度 RAW 権限
特定の販売スケジュールに関して取引先から与えられる最高の RAW 権限で、最新の累計リセット日からカウントされます。取引先は、品目のこの数量について購入した原材料について支払の義務があります。

注意

- 販売では、取引先から権限を受け取るため、FAB または RAW 権限値は計算されません。
- FAB 権限と RAW 権限は資材発行についてのみ通知されます。
- 高度 FAB 権限と高度 RAW 権限は、販売先取引先から通知されません。送付済の FAB/RAW 権限で最も高いものが検索され、これらの値が計算されます。

権限を受け取るには

販売先取引先から販売スケジュールに関する FAB/RAW 権限を受け取ります。このため、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで受け取った FAB/RAW 権限は、取引先の購買発行ラインにリンクされている FAB/RAW 権限を反映します。販売スケジュールが承認されると、FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000) セッションで受け取った FAB/RAW 権限が保存されます。

取引先が、LN を使用する場合、FAB/RAW 権限を決定する方法の詳細については購買スケジュール権限 (ページ 47)を参照してください。

権限をリセットするには

権限をどのようにいつリセットするのかは、スケジュール条件 (tctrm1131m000) の [累計の同期] チェックボックスの値によって異なります。

累計の同期はオンになっています。

外部構成要素から受信した累計データに基づいて累計を同期してリセットする場合、出荷累計は、販売発行を販売スケジュール (改訂) へ処理するとき、外部構成要素から受信した出荷累計と比較され同期されます。

出荷済累計レコードが検出された後、販売発行ライン (tdsls3508m000) セッションの [顧客累計リセット日] は、出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションの [累計リセット日] の後にすることができます。この場合、権限をリセットする必要があります。

FAB および RAW 権限をリセットするには

権限をリセットするには、リセット数量を計算する必要があります。

この数量は次のとおり計算されます。

出荷済累計 (tdsls3532m000) の [出荷済累計] - 販売発行ライン (tdsls3508m000) の [出荷済累計]

FAB/RAW 権限のリセットの例については、累計基準の外部構成要素データを同期するには (ページ 114) を参照してください。

累計の同期はオフになっています。

FAB 権限と RAW 権限は、長期にわたると、非常に高い値に増加することがあります。これらの値を減らすには、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで FAB/RAW 権限をリセットします。年度が変わる場合は、権限を正確にリセットできません。このため、リセット日の後に、FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000) セッションで更新を保存することができます。リセット後の数量を計算することによって、リセット処理にこの値を含めることができます。

FAB/RAW 権限を正常にリセットするには、次の条件を満たす必要があります。

- 累計のリセット (tdsls3230m000) セッションと累計のリセット (tdpur3230m000) セッションで FAB/RAW 権限をリセットする際、発注先と顧客は、同じ 累計リセット日 を使用する必要があります。
- リセットは、顧客が送付した発行を発注先が受信して承認した場合のみ実行できます。そうでない場合、リセット日の後に処理される発行はリセット日が異なるため、発注先はこれを承認できません。
- 発注先は、受領する発行を更新することはできません。また、マニュアルで新しい発行を作成することもできません。これは、リセットで誤った数量になる場合があるためです。

注意

- 状況が [不一致] で、[処理日] が累計リセット日より前の調整レコードが存在する場合、販売スケジュールの FAB/RAW 権限をリセットすることはできません。販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションでは、販売スケジュール調整レコードを表示できます。
- 販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションに保存されている特定の販売スケジュール改訂の FAB/RAW 情報は、リセット処理中に更新されることはありません。履歴情報として保持されます。

FAB および RAW 権限をリセットするには

ステップ 1: リセット数量を決定するには

FAB/RAW 権限をリセットする場合、まずリセット数量が決定されます。リセット数量は、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで指定した [累計リセット日] より前の最後の FAB/RAW 権限レコードから取得されます。リセット数量の数量は、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションまたは販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションで指定した [累計モデル使用] により決まります。

[累計モデル使用] に応じて、次のように決まります。

- [オーダ基準] の場合、[優先所要累計] がリセット数量です。
- [入庫基準] の場合、[入庫済累計] がリセット数量です。

ステップ 2: 新しい FAB/RAW 権限レコードを作成するには

次の場合、FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000) セッションで新しい FAB/RAW 権限レコードが作成されます。

- [リセット日] が、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで指定された [累計リセット日] と等しい場合
- [優先所要累計] または [入庫済累計] がリセットされた場合
[累計モデル使用] に応じて、次のように決まります。
 - [オーダ基準] の場合、[優先所要累計] がリセット数量で減算されます。
 - [入庫基準] の場合、[入庫済累計] がリセット数量で減算されます。

高度 FAB 権限および高度 RAW 権限をリセットするには

高度 FAB 権限および高度 RAW 権限は、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッション/販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [権限の処理] パラメータの設定に基づいてリセットされます。

- [翌期繰越]
高度 FAB 権限と高度 RAW 権限からリセット数量が差し引かれます。
- [リセット]
高度 FAB 権限と高度 RAW 権限は、FAB 権限と RAW 権限の値と等しくなっています。

繰越

[累計リセット日] より後の発行日で、すでに FAB/RAW 権限レコードが存在している場合、これらのレコードが次のように調整されてコピーされます。

- [FAB 権限]、[高度 FAB 権限]、[RAW 権限]、および [高度 RAW 権限] がリセット数量で減算されます。
- 古い [リセット日] が、新しい [リセット日] で置き換えられます。

リセット

[累計リセット日] より後の発行日ですでに FAB/RAW 権限レコードが存在している場合、次の処理が実行されます。

- これらのレコードの [FAB 権限] および [高度 FAB 権限] が、FAB リセット数量で減算されます。
- これらのレコードの [RAW 権限] および [高度 RAW 権限] が、RAW リセット数量で減算されます。
- 古い [リセット日] が、新しい [リセット日] で置き換えられます。

例

- FAB 期間 = 4 週間
- 累計モデル = [オーダー基準]
- リセット日 = 第 3 週開始
- スケジュールラインはリセットが実行される前に生成される
- スケジュールライン 2 は第 3 週に入庫する
- スケジュールライン 3 は第 5 週に入庫する

週	ライン 1 -		ライン 2 -		ライン 3 -		リセット後の累計
-	数量	累計	数量	累計	数量	累計	-
1	20	20	-	20	-	20	20
2	20	40	-	40	-	40	40
3	20	60	5	45	-	45	5
4	20	80	5	50	-	50	10
5	20	100	5	55	20	70	30
6	20	120	55	110	5	75	35
7	-	-	5	115	5	80	40
8	-	-	5	120	5	85	45
9	-	-	-	-	5	90	50
10	-	-	-	-	5	95	55

[翌期繰越] を行う権限

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	10
FAB	80	110	85	45
高度 FAB	80	110	110	70

リセット日は第 3 週に開始されます。[オーダー基準] 累計モデルのため、リセットは優先所要累計に基づいて実行されます。第 2 週終わりのリセット数量は 40 です。「権限」が [翌期繰越] の場合、権限累計はリセット日 (第 3 週) から -40 で更新されます。

ただし同じ例でも、繰越以外の権限リセットの場合、高度 FAB は更新されずに FAB 数量と等しくなります。計算は次のようになります。

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	10
FAB	80	110	85	45
高度 FAB	80	110	110	45

販売スケジュール累計

累計 (CUM) は、会計年度初日から今日までの出荷済、入庫済、および請求済数量についての合計です。累計を使用して、販売スケジュールが需要に比べてスケジュールが進んでいるか遅れているかを追跡できます。

販売スケジュール累計には、次のタイプがあります。

- 出荷累計
特定の販売スケジュールに関して出荷した合計累計数量。出荷済累計は出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションと販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで表示できます。
- 入庫累計
出荷先取引先が特定の販売スケジュールに関してすでに受領した合計累計数量。入庫済累計は出荷済累計 (tdsls3532m000) セッション、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッション、および FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000) セッションで表示できます。
- 請求累計
特定の販売スケジュールに関して請求した合計累計数量。請求済累計は請求済累計 (tdsls3533m000) セッションと販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで表示できます。

注意

販売スケジュールが条件合意にリンクされた販売契約に基づく場合、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで次の操作をします。

- [出荷済累計の更新方法] フィールドを使用して、いつ出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションで出荷済累計を更新するかを定義します。
- [最終出荷 ID の定義方法] フィールドを使用して、入庫累計の計算に使用する最終出荷の設定方法を定義します。

スケジュール累計の同期

- 累計モデル基準
顧客および発注先の両方が LN を使用してスケジュール所要量を通信する場合、出荷累計はマニュアルで更新します。累計データは、オーダ基準または入庫基準の累計モデルに基づいて同期されます。詳細は、次の情報を参照してください: 累計モデルにもとづいて累計を同期するには (ページ 110)
- 外部構成要素データ基準
外部構成要素がスケジュール所要量を LN に送信する場合、出荷累計は外部構成要素によって更新できます。この場合、外部構成要素から受領された累計データを使用して累計が同期されます。詳細は、次の情報を参照してください: 累計基準の外部構成要素データを同期するには (ページ 114)

販売スケジュール累計の使用

販売スケジュール手順では、累計は次の目的で使用されます。

- 合計累計数量を追跡するため
- 販売スケジュールの納入の過不足をチェックおよび調整するため詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの調整 (ページ 117)
- 取引先の入庫済累計が出荷済累計と一致するかどうかをモニタするには一致しない場合、不一致が生成され、この不一致は解決する必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: 販売スケジュールの調整 (ページ 123)

注意

- 参照販売スケジュール、資材発行、ピックアップシート、および納入契約の超過納入または不足納入はチェックまたは調整されません。
- 外部構成要素データに基づいて販売スケジュール累計を同期すると、引き続き調整機能を実行できます。ただし、スケジュール調整は外部構成要素によっても処理される可能性があるため、これは論理的ではありません。
- 外部構成要素データに基づいて累計を同期する場合、販売スケジュール調整機能は適用されません。

累計モデルにもとづいて累計を同期するには

顧客と発注先の両方が LN を使用してスケジュール所要量を通信する場合、累計はオーダ基準または入庫基準の累計モデルにもとづいて同期され、その定義は品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) または販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [累計モデル使用] フィールドで行うことができます。

これらモデルの使用の詳細は、販売スケジュールの調整 (ページ 117) を参照してください。

注意

販売スケジュールが条件契約にリンクする販売契約に基づく場合、また、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで、[累計の同期] チェックボックスがオンになっている場合、累計は外部構成要素から受信した累計データにもとづいて同期されリセットされます。詳細は、次の情報を参照してください: 累計基準の外部構成要素データを同期するには (ページ 114)

累計をリセットするには

長期にわたると、累計は非常に高い値に増加することがあります。これらの値を減らすには、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで累計をリセットします。通常このリセットは年末に実行されますが、累計は年の変わり目では正確にリセットできません。このため、リセット日の後に、累計セッションで更新を保存することができます。リセット後の数量を計算することによって、リセット処理にこの値を含めることができます。

累計を正常にリセットするには、次の条件を満たす必要があります。

- 発注先と顧客は、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションと累計のリセット (tdpur3230m000) セッションで累計をリセットする際、同じ累計リセット日を使用する必要があります。
- リセットは、顧客が送付した発行を発注先が受信して承認した場合のみ実行できます。そうでない場合、リセット日の後に処理される発行はリセット日が異なるため、発注先はこれを承認できません。
- 発注先は、受領する発行を更新することはできません。また、マニュアルで新しい発行を作成することもできません。これは、リセットで誤った数量になる場合があるためです。

注意

- [不一致] 状態で、[処理日] が累計リセット日より前の調整レコードが存在する場合、販売スケジュールの販売スケジュール累計をリセットすることはできません。販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションでは、販売スケジュール調整レコードを表示できます。
- 販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションに保存されている特定の販売スケジュール改訂の累計は、リセット処理中には更新されません。履歴情報として保持されます。

リセット数量を計算するには**ステップ 1: リセット数量を決定するには**

累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで累計をリセットする場合、LN によりまずリセット数量が決定されます。リセット数量は、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで指定した [累計リセット日] より前の最後の累計レコードから、LN により取得されます。リセット数量になる数量は、[累計モデル使用] によって決まります。

[累計モデル使用] に応じて、次のように決まります。

- [オーダ基準] の場合、[優先所要累計] がリセット数量です。
- [入庫基準] の場合、[入庫済累計] がリセット数量です。

ステップ 2: 新しい累計レコードを作成するには

LN により次の新しい累計レコードが作成されます。

- 出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションで出荷済累計レコードが作成されます。
- 請求済累計 (tdsls3533m000) セッションで請求済累計レコードが作成されます。

新しい累計レコードの場合、次の設定が適用されます。

- [累計リセット日] は、累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで指定した [累計リセット日] と等しくなります。
- [状況] は、[リセット] です。

出荷済累計をリセットするには

新しい出荷済累計の場合、LN により次の数量がリセット数量で減算されます。

- [出荷済累計]
- [入庫済累計]

[累計リセット日] より後の取引日の出荷済累計レコードがすでにある場合、LN によりそれらのレコードが次のように調整されてコピーされます。

- [出荷済累計] と [入庫済累計] もリセット数量で減算されます。
- 古い [累計リセット日] が、新しい [累計リセット日] で置き換えられます。

請求済累計をリセットするには

新しい請求済累計レコードの場合、LN により [累計請求数量] がリセット数量で減算されます。

[累計リセット日] より後の請求日の請求済累計レコードがすでにある場合、LN によりそれらのレコードが次のように調整されてコピーされます。

- [累計請求数量] も、リセット数量で減算されます。
- 古い [累計リセット日] が、新しい [累計リセット日] で置き換えられます。

例 1 - [オーダ基準] 累計モデルの累計をリセットするには

- リセット日 = 第 3 週開始
- スケジュールラインはリセットが実行される前に生成される
- スケジュールライン 2 は第 3 週に入庫する
- スケジュールライン 3 は第 5 週に入庫する

週	ライン 1	リセット前の優先 所要累計	ライン 2	リセット前の 優先所要累計	ライン 3	リセット前の 優先所要累計	リセット後の 優先所要累計
1	20	20	-	20	-	20	20
2	20	40	-	40	-	40	40
3	20	60	5	45	-	45	5
4	20	80	5	50	-	50	10

5	20	100	5	55	20	70	30
6	20	120	55	110	5	75	35
7	-	-	5	115	5	80	40
8	-	-	5	120	5	85	45
9	-	-	-	-	5	90	50
10	-	-	-	-	5	95	55

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	10

リセット日は第 3 週に開始されます。[オーダー基準] 累計モデルのため、リセットは優先所要累計にもとづいて実行されます。第 2 週終わりのリセット数量は 40 です。このため、すべての累計は累計リセット日 (第 3 週) から -40 で更新されます。

例 2 - [入庫基準] 累計モデルの累計をリセットするには

前の例と同じデータを使用しますが、次のデータも考慮されます。

週	入庫済数量	リセット前の入庫済累計	リセット後の入庫済累計
1	10	10	10
2	25	35	35
3	20	55	20
4	-	55	20
5	5	60	25

リセット日は第 3 週に開始されます。[入庫基準] 累計モデルのため、リセットは所要累計にもとづいて実行されます。第 2 週終わりのリセット数量は 35 です。このため、すべての累計は累計リセット日 (第 3 週) から -35 で更新されます。

例 1 の合計は、次のようになります。

合計	累計ライン 1	累計ライン 2	累計ライン 3	リセット後の累計
累計開始	0	40	50	15

累計基準の外部構成要素データを同期するには

外部構成要素がスケジュール所要量を LN に通信している場合で、あなたが外部構成要素から取得した累計データにもとづいて累計を同期しリセットしたい場合、スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [累計の同期] チェックボックスをオンにします。

注意

[累計の同期] チェックボックスがオフの場合、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [累計モデル使用] フィールドで定義されているように、累計はオーダ基準または入庫基準の累計モデルにもとづいて更新されます。詳細は、次の情報を参照してください: 累計モデルにもとづいて累計を同期するには (ページ 110)

累計データを比較し同期するには

累計の同期に同意した場合、販売発行ライン (tdsls3508m000) セッションで新しい販売発行ラインを送信するときに、外部構成要素は [出荷済累計] と [最終出荷] を提供します。販売発行が販売スケジュール (改訂) に処理されると、出荷累計は外部構成要素から受信した出荷累計と比較され同期されます。

次のフィールドにもとづいて累計データが比較されます。

- [出荷済累計]
- [最終出荷]
- [スケジュール]

注意

- 同じ出荷番号の複数の出荷済累計レコードが検出された場合、最新の [処理日] の出荷済累計レコードが比較のために使用されます。
- 販売発行ラインの [最終出荷] で出荷済累計レコードが検出されない場合、LN により累計は同期されないが、販売発行の処理を続行できるという警告が表示されます。

出荷累計を同期するには

出荷済累計レコードが検出された後、以下が適用されます。

- 販売発行ラインの [出荷済累計] は、[出荷済累計] と一致しています。そのため、出荷済累計レコードは出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションで [一致] に設定されます。[作成済] 状況の前のレコードはすべて [一致 (フィードバックなし)] に更新されます。
- 販売発行ラインの [出荷済累計] は [出荷済累計] より多いか少なくなります。そのため、出荷済累計は修正値で修正され、外部構成要素の出荷済累計と一致させます。この出荷済累計レコードの状況は [同期] になります。[作成済] 状況の前のレコードはすべて [一致] に更新されます。

例

販売発行ライン (tdsls3508m000)				出荷済累計 (tdsls3532m000)					
出荷済累計	スケジュール	出荷	出荷済累計	スケジュール	出荷	処理日	状況	出荷済数量	新しい出荷済累計
-	DJ0001	-	10	DJ0001	XXX-1	4月1日	一致	10	10
20	DJ0001	YYY-2	15	DJ0001	YYY-2	5月1日	一致	5	15
-	DJ0001	-	-	DJ0001	YYY-2	現在の日付	同期	5	20
-	DJ0001	-	25	DJ0001	ZZZ-3	6月1日	作成済	10	30
-	DJ0001	-	50	DJ0001	VVV-4	7月1日	作成済	25	55

[同期] 状況の累計レコードには、以下が適用されます。

- 修正値 = 販売発行ライン (tdsls3508m000) セッションの出荷済累計 - 出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションの出荷済累計
- 出荷済数量 = 修正値
- 新しい出荷済累計 = 古い出荷済累計 + 修正値

累計をリセットするには

出荷済累計レコードが検出された後、販売発行ライン (tdsls3508m000) セッションの [顧客累計リセット日] は出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションの [累計リセット日] と異なる場合があります。

以下を適用することができます。

- 販売発行ラインの [顧客累計リセット日] が [累計リセット日] よりも前になっている。累計はリセットできないが販売発行の処理を継続できるという警告が表示されます。
- 販売発行ラインの [顧客累計リセット日] が [累計リセット日] より後になっている。この場合、販売スケジュールの累計は次のセッションでリセットされます。
 - 出荷済累計 (tdsls3532m000)
 - 請求済累計 (tdsls3533m000)
 - FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000)
 これらの累計レコードの状況は [リセット] になります。

注意

出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションの [処理日] にもとづいて、適用できる請求済累計レコードと権限レコードが検定されます。

リセット数量を計算するには
累計をリセットするには、リセット数量を計算する必要があります。
この数量は次のとおり計算されます。

出荷済累計 (tdsls3532m000) の [出荷済累計] - 販売発行ライン (tdsls3508m000) の [出荷済累計]

例

販売発行ライン (tdsls3508m000)

スケジュール	YYYYYY1
最新の出荷	XXXXXX1
出荷済累計	80
顧客リセット日	10/10/10

現在の累計は次のとおりです。

出荷済累計 (tdsls3532m000)		請求済累計 (tdsls3533m000)		FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000)	
スケジュール	YYYYYY1	スケジュール	YYYYYY1	スケジュール	YYYYYY1
最新の出荷	XXXXXX1	-	-	FAB 権限	100
出荷済累計	100	請求済累積	100	RAW 権限	100
顧客リセット日	9/10/10	顧客リセット日	9/10/10	顧客リセット日	9/10/10
処理日	15/11/10	処理日	15/11/10	発行日	15/11/10

販売発行を処理した後、新しい累計は次のようになります。

出荷済累計 (tdsls3532m000) 請求済累計 (tdsls3533m000) FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000)

スケジュール	YYYYYY1	スケジュール	YYYYYY1	スケジュール	YYYYYY1
最新の出荷	-	-	-	-	-
出荷済数量	-20	請求数量	-20	FAB 権限	80
出荷済累計	80	請求済累積	80	RAW 権限	80
顧客リセット日	10/10/10	顧客リセット日	10/10/10	顧客リセット日	10/10/10
処理日	0	処理日	0	処理日	0
状況	リセット	状況	リセット	-	-

注意

累計のリセット (tdsls3230m000) セッションで累計をマニュアルでリセットできません。

販売スケジュールの調整

非参照販売スケジュールが承認される前に、販売スケジュールの超過納入または不足納入をチェックできます。

注意

- 参照販売スケジュール、資材発行、ピックアップシート、および納入契約の超過納入または不足納入はチェックまたは調整されません。
- 販売スケジュールの調整は、販売スケジュール手順ではオプションのステップです。
- 外部構成要素データに基づいて販売スケジュール累計を同期すると、引き続き調整機能を実行できます。ただし、スケジュール調整は外部構成要素によっても処理される可能性があるため、これは論理的ではありません。詳細は、次の情報を参照してください: 累計基準の外部構成要素データを同期するには (ページ 114)

受領した販売スケジュール要件を調整するには、次のいずれかを実行します。

- 販売スケジュールの調整 (tdsls3210m000) セッションを開始します。
- 販売スケジュールの承認 (tdsls3211m000) セッションを [調整] チェックボックスをオンにして実行します。

注意

販売スケジュールが条件契約にリンクされた販売契約に基づく場合、また条件契約についてスケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [販売スケジュールの調整活動適用] チェックボックスと [販売スケジュールの自動調整] チェックボックスがオンになっている場合、販売スケジュールの調整は自動的に行われます。

不足納入または超過納入を特定するために実行される計算は、使用する累計モデルによって異なります。この累計モデルは、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) または販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションの [累計モデル使用] フィールドで指定されます。

次の累計モデルを使用できます。

- [オーダ基準]
- [在庫基準]

注意

すべての販売スケジュールの累計について [累計リセット日] が等しい場合のみ、超過納入または不足納入が計算可能になります。

オーダ基準

取引先と [オーダ基準] 累計モデルを使用することを合意する場合、取引先は販売スケジュールの新しい所要量を送信するときに [優先所要累計] を提供します。取引先が所要量を送信するたびに、新しい販売スケジュール改訂番号が作成されます。

[オーダ基準] CUM モデルの超過納入または不足納入を判断するため、次の計算が実行されます。

合計調整数量 = [出荷済累計] - 優先所要累計

注意

販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで、[出荷済累計] と [優先所要累計] を表示できません。

この計算結果がマイナスの場合、出荷数は取引先が必要とする数量を下回っています。このため、合計調整数量について新しい販売スケジュールラインが作成されます。この販売スケジュールラインの [所要量タイプ] は、[即時] です。

この計算結果がプラスの場合、出荷数は取引先が必要とする数量を上回っています。このため、次の販売スケジュールラインの所要数量が合計調整数量で減算されます。販売スケジュールラインの所要数量が減ると、その販売スケジュールラインの状況は [調整済] になります。合計調整数量が次の販売スケジュールラインの所要数量以上の場合、この販売スケジュールラインは取り消されます。そのため、合計調整数量のバランスが取れるまで、販売スケジュールラインが取り消され、販売スケジュールライン所要量が調整される間、[取消済] 状況が維持されます。所要数量がゼロの販売スケジュールラインの詳細は、販売スケジュールラインのゼロ所要数量 (ページ 103) を参照してください。

注意

計算結果がプラスの場合、その結果は、まず超過納入ライン (存在する場合) から差し引かれ、次に未納入のラインから差し引かれます。

例

購買管理の次のスケジュール出庫日: 9 月 18 日

日付	17-09	18-09	19-09	20-09	21-09
ライン番号	1	-	-	2	3
オーダ済	10	-	-	10	10
入庫済	10	-	-	10	0
不足分	-	-	-	-	10

ライン番号2は次のスケジュール出庫日前にすでに入庫しているため、数量10は在庫に保管されます。9月20日に10個という需要が9月19日に20個という需要に変更された場合、企業計画は在庫の10個を使用し、残りの10個については別のラインが追加されます。

日付	17-09	18-09	19-09	20-09	21-09
ライン番号	1	-	4	2	3
オーダ済	10	-	10	10	10
入庫済	10	-	0	10	0
不足分	-	-	10	-	10

購買管理から販売管理に数量が通知されると、次の出庫日以降に納入されるスケジュールライン数量は超過納入とみなされますが、次のように、スケジュール出庫日の1つのラインで通知されます。

日付	17-09	18-09	19-09	20-09	21-09
オーダ済	-	10	10	-	10

販売管理で合計出荷済数量が20の場合次の計算が実行されます。

合計出荷済累計 (20) - 優先所要累計 (10) = 10

販売管理は、次のように過剰納入を調整します。

日付	17-09	18-09	19-09	20-09	21-09
オーダ済	-	-	10	-	10

最初の販売スケジュールライン、つまり購買管理の納入済ラインの所要数量が調整されます。

入庫基準

取引先と [入庫基準] 累計モデルを使用することを合意した場合、取引先は販売スケジュールの新しい所要量を送信するときに [入庫済累計] を提供します。[入庫済累計] には取引先がこれまでに販売スケジュールで受領したすべての数量の合計が含まれています。取引先が所要量を送信するたびに、新しい販売スケジュール改訂番号が作成されます。

[入庫基準] 累計モデルについて超過納入または不足納入が判断可能になるように、次の計算が実行されます。

合計調整数量 = [出荷済累計] - [入庫済累計]

注意

販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで、[出荷済累計] と [入庫済累計] を表示できます。

この計算結果がプラスの場合、出荷数は取引先が受領した数量を上回っています。この結果、[出荷済累計] と [入庫済累計] の差異の分は輸送中であるとみなされます。このため、次の販売スケジュールラインの所要数量から合計調整数量が減算されます。販売スケジュールラインの所要数量が減ると、その販売スケジュールラインの状況は [調整済] になります。合計調整数量が次の販売スケジュールラインの所要数量以上の場合、この販売スケジュールラインは取り消されます。そのため、合計調整数量のバランスが取れるまで、販売スケジュールラインが取り消され、販売スケジュールライン所要量が調整される間、[取消済] 状況が維持されます。所要数量がゼロの販売スケジュールラインの詳細は、販売スケジュールラインのゼロ所要数量 (ページ 103) を参照してください。

この計算結果がマイナスの場合、出荷数は取引先が受領した数量を下回っています。この場合、販売スケジュールラインは調整されませんが、レポートに警告メッセージが追加されます。この理由は、[入庫基準] CUM モデルでは、取引先が差異を解決する責任を担っているからです (購買スケジュール累計 (ページ 49) も参照)。この場合、販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションでの [修正] レコードの作成を決定できます。請求書訂正に関する情報の詳細は、販売スケジュールと請求 (ページ 135) を参照してください。

調整処理が実行された後で、調整された販売スケジュールラインと新しく作成された販売スケジュールラインがまだ承認されていない場合、販売スケジュールの承認 (tdsls3211m000) セッションで承認できます。

販売スケジュールの承認

状況が [作成済] または [調整済] の販売スケジュールは、処理する前に承認しておく必要があります。承認後、販売スケジュールの状況は [承認済] になります。販売スケジュールを承認する方法は、スケジュールのタイプによって異なります。

参照スケジュールの承認

販売スケジュールが参照スケジュールの場合、販売スケジュールラインを自動的にまたはマニュアルで承認できます。

自動承認

次のセッションの [参照済販売スケジュールの自動承認] チェックボックスをオンにします。

1. スケジュール条件 (tctrm1131m000)
販売スケジュールが条件契約にリンクされた販売契約に基づく場合、このセッションをオンにします。
2. 販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000)
販売スケジュールが販売契約に基づく場合このセッションをオンにします。
3. 品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000)
販売スケジュールが品目および販売取引先情報に基づく場合、このセッションをオンにします。

注意

- 販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスは、販売スケジュールを販売契約にリンクする必要があるかどうかを決定します。
- 各参照販売スケジュールラインが作成されると、それぞれ即時に承認されます。

マニュアル承認

[参照済販売スケジュールの自動承認] チェックボックスがオフの場合、参照販売スケジュールは次のように承認できます。

- 販売スケジュールの承認 (tdsls3211m000) セッションまたは、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションの適切なメニューで販売スケジュールヘッダを使用する
- ピックアップシートの承認 (tdsls3211m200) セッションまたはピックアップシート (tdsls3107m100) セッションの適切なメニューでピックアップシートを使用する
- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションの適切なメニューで、販売スケジュールラインを使用して承認する。この場合、参照スケジュールは参照ごとに承認できます。

参照販売スケジュールの詳細は、参照販売スケジュール (ページ 94)を参照してください。

非参照スケジュールの承認

販売スケジュールが非参照スケジュールの場合、販売スケジュールラインを自動的にまたはマニュアルで承認できます。

- 自動承認
販売スケジュールが条件契約にリンクされた販売契約に基づき、また条件契約についてスケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [非参照販売スケジュールの自動承認] チェックボックスがオンの場合、販売スケジュールの承認は自動的に行われます。
- マニュアル承認
販売スケジュールの承認 (tdsls3211m000) セッションの販売スケジュールヘッダごと
- 販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションの適切なメニューから

非参照販売スケジュールの場合、承認処理時には次のようになります。

- 販売スケジュールの納入の過不足をオプションでチェックおよび調整できます。
- 販売スケジュールは調整できます。調整は、取引先の[在庫済累計]が[出荷済累計]と一致するかどうかをチェックすることを意味しています。累計が一致しない場合、解決する必要がある不一致が生成されます。

詳細は、次を参照してください。

- 販売スケジュールの調整の詳細は、販売スケジュールの調整 (ページ 117)を参照してください。
- 販売スケジュールの調整の詳細は、販売スケジュールの調整 (ページ 123)を参照してください。

承認プロセス

販売スケジュールラインの所要量によって、販売スケジュールを承認した場合に実行されるアクションが決まります。

[即時] または [確定]

販売スケジュールラインを承認したとき、[所要量タイプ] が [即時] または [確定] である場合、次の処理が行われます。

- 計画在庫処理 (whinp1500m000) セッションで計画在庫処理が作成されます。
- 品目マスタ計画 (cprmp2101m000) セッションの有効在庫が更新されます。有効在庫の更新の詳細は、販売スケジュールと企業計画 (ページ 126)を参照してください。
- 販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの[スケジュールに契約を使用]チェックボックスがオンになると、計画済倉庫オーダーは自動的に生成されるか更新されます。詳細は、次の情報を参照してください: 計画済倉庫オーダー (ページ 77)
- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションで価格が入力されていない場合販売スケジュールラインにリンクされる販売契約が検索されます。品目、販売先取引先、出荷先取引先、販売オフィスの組合せに対して[有効]な通常契約を利用できる場合、この販売契約が販売スケジュールラインにリンクされ、販売契約の価格と値引が販売スケジュールに使用されます。リンクできる販売契約がない場合、価格設定で指定されている価格と値引が使用されます。販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションの[開始日]に従って、正確な価格が取得されます。価格設定で価格が指定されていない場合、品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションから価格が取得されます。
- 販売契約が販売スケジュールラインにリンクされている場合、販売契約ラインの[コール数量]が更新されます。
- 販売スケジュールと販売スケジュールラインの履歴が作成されます。この履歴は販売オーダー/スケジュール履歴 (tdsls5505m000) セッションで表示できます。
- 検査基準となる品質が更新されます。
- [不一致] 状況の販売スケジュール調整レコードが販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッション該当する販売スケジュールに存在する場合、承認レポートに警告メッセージが出力されます。[不一致] 状況の出荷済累計レコードの処理の詳細については、販売スケジュールの調整 (ページ 123)を参照してください。
- 取引先の未決済残高が更新されます。これは、販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションで表示できます。

[計画済]

販売スケジュールラインを承認したとき、[所要量タイプ] が [計画済] である場合、次の処理が行われます。

- 品目マスタ計画 (cprmp2101m000) セッションの有効在庫が更新されます。有効在庫の更新の詳細は、販売スケジュールと企業計画 (ページ 126)を参照してください。
- 品目マスタ計画 (cprmp2101m000) セッションで [未確認顧客オーダー] 数量が更新されます。
- FAB/RAW 権限 (tdsls3134m000) セッションで FAB/RAW 権限が作成されます。
- [不一致] 状況の販売スケジュール調整レコードが販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッション該当する販売スケジュールに存在する場合、承認レポートに警告メッセージが出力されます。

注意

- 販売スケジュールの承認は取り消すことができます。その場合、承認処理の結果は削除され、販売スケジュールの状況は [作成済] に設定されます。最後の販売スケジュール改訂の承認を取り消すには、販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションの適切なメニューから [スケジュールの復元 (S)] をクリックします。ただし、計画済在庫オーダーを使用する場合はこの機能を使用できません。
- 販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [確認の使用] チェックボックスがオンの場合、[確認数量] および [確認日] フィールドに入力するまで購買スケジュールラインを承認できません。

販売スケジュールの調整

参照なし品目の資材発行と出荷スケジュールを調整できます。つまり、取引先の [在庫済累計] を [出荷済累計] と一致させます。累計 (CUM) が位置しない場合、解決する必要のある不一致が生成されます。

重要

- 品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションまたは販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションでは、[調整中の計画/実際納期を考慮] チェックボックスによって、[出荷済累計] を販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションおよび出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションで計算する方法が決まります。
- 販売スケジュールが条件合意にリンクされた販売契約に基づく場合、以下が適用されます。
 - スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [累計の同期] チェックボックスがオンの場合、販売スケジュールを調整できません。
 - スケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションの [最終出荷 ID の定義方法] フィールドで、在庫累計の計算に使用する最終出荷の設定方法を指定できます。

調整レコードを挿入するには

販売スケジュールの出荷を確認すると、販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションの販売スケジュール調整レコードが次の情報で作成されます。

- 品目が出荷される日付

- 商品が出荷される出荷の番号
- 特定の出荷で出荷される数量
- 販売スケジュールについて受領した最後の数量
- 販売スケジュールについて出荷済の合計累計数量

各出荷に 1 つずつ、[作成済] 状況の調整レコードが作成されます。

販売スケジュールラインを承認すると、次の処理が実行されます。

1. 販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションで、取引先に入庫した販売スケジュールの最終出荷の番号が挿入されます。
2. 販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションで、取引先に入庫した販売スケジュールの最終数量が挿入されます。
3. 新しい[入庫済累計]が計算されます。このとき、対象の調整レコードと次の調整レコードの[入庫済累計]に[最終入庫数量]が加算されます。
4. 取引先の[入庫済累計]が[出荷済累計]と照合されます。これらの累計が等しい場合、調整レコードの状況は[一致]になります。これらの累計が等しくない場合、調整レコードの状況は[不一致]になります。

注意

[不一致] 状況の調整レコードが存在する販売スケジュールを承認すると、承認レポートに警告メッセージが出力されます。販売スケジュールの承認の詳細については、販売スケジュールの承認 (ページ 120) を参照してください。

調整状況

調整レコードに割り当てられる状況は次のとおりです。

- [作成済]
販売スケジュール調整レコードが作成され、関連する出荷について取引先の入庫済累計および最終入庫数量をまだ受け取っていません。
- [一致]
関連する出荷について取引先の入庫済累計および最終入庫数量を受け取り、それらの数量が出荷済累計および出荷済数量と一致しています。
- 外部構成要素から受け取った出荷済累計および累計リセット日は、出荷済累計および累計リセット日と一致しています。
- 出荷済累計レコードの状況が [同期] の場合、前のレコードは [一致] に設定されます。
- [不一致]
関連する出荷について取引先の入庫済累計および最終入庫数量を受け取りましたが、それらの数量が出荷済累計および出荷済数量と一致しません。
- [調整済]
取引先の入庫済累計と自社の出荷済累計の差について話し合い、入庫済累計を調整して出荷済累計と同じになるようにしました。
- [出荷累計調整済]
取引先の入庫済累計と自社の出荷済累計の差について話し合い、出荷済累計を調整して入庫済累計と同じになるようにしました。
- [出荷および入庫累計調整済]
取引先の入庫済累計と自社の出荷済累計の差について話し合い、入庫済累計および入庫済累計を調整しました。

- [一致 (調整後)]
関連する出荷について取引先から受け取った入庫済累計および最終入庫数量が出庫済累計および出庫済数量と一致していませんでしたが、後のエントリの状況はすでに [一致] になっています。
- 販売スケジュール調整レコードの状況が [不一致] で、状況が [不一致] の以前のレコードを調整した結果としてその出荷済累計が更新されている場合、修正後の数量が一致していれば、現在のレコードは [一致 (調整後)] に設定されます。
- [一致 (フィードバックなし)]
関連する出荷について取引先の入庫済累計および最終入庫数量をまだ受け取っていませんが、後のエントリの状況はすでに [一致] または [調整済] です。入庫済累計および最終入庫数量はゼロのままです。
- 関連する出荷に関する入庫済外部構成要素の出荷済累計をまだ受け取っていませんが、後のエントリの状況はすでに [一致] です。
- [同期]
外部構成要素から受け取った出荷済累計は出荷済累計と等しくないため、出荷済累計を修正値で修正し、外部構成要素の出荷済累計と等しくします。
- [リセット]
販売スケジュール累計レコードまたは販売スケジュール権限レコードが累計のリセット (tdsls3230m000) セッションでリセットされます。
- 外部構成要素から受け取った累計リセット日は累計リセット日より後なので、販売スケジュール累計レコードまたは販売スケジュール承認レコードはリセットされます。

不一致を解決するには

販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションを使用すると、特定の販売スケジュールに関して出荷累計と取引先の入庫累計の間の不一致を解決できます。調整レコードが [不一致] 状況の場合のみ、レコードを調整できます。

[不一致] 状況の販売スケジュール調整レコードを処理するには、販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションの特定メニューで次のいずれかを選択します。

- [入庫累計の調整]
[入庫済累計] が [出荷済累計] と等しくなるように調整されます。調整レコードの状況は、[調整済] となります。
- [出荷済累計の調整]
[出荷済累計] が [入庫済累計] と等しくなるように調整されます。販売スケジュール調整の状況は [出荷累計調整済] となります。
- [出荷および入庫累計の調整]
新規累計の入力 (tdsls3131s000) セッションが開始され、現在の [入庫済累計] と [出荷済累計] を置き換える数量を指定できます。販売スケジュール調整の状況は、[出荷および入庫累計調整済] となります。

注意

出荷済数量が、出荷済としてレポートされている数量より多いためにレコードが [不一致] 状況になる場合、[出荷済累計の調整] または [出荷および入庫累計の調整] を選択する代わりに余分な出荷済数量を倉庫管理で記録する必要があります。このため、出荷済累計を調整する場合、追加の出荷済数量に対する請求は生じません。

不一致が解決されると、次のようになります。

- [不一致] 状況のすべての以前のレコードは [一致 (調整後)] 状況になります。[作成済] 状況の以前のレコードは、[一致 (フィードバックなし)] 状況になります。
- 調整に従って次のレコードの [出荷済累計] が調整されます。連続するレコードの [入庫済累計] は更新されません。
- [出荷累計調整済] 状況または [出荷および入庫累計調整済] 状況のレコードについては、新しい [出荷済累計] に基づいて次のレコードの状況が再判定されます。調整後に、[不一致] 状況のレコードの [出荷済累計] が正しいことが判明した場合は、販売スケジュール調整レコードの状況は [不一致] から [一致 (調整後)] に変更されます。
- 入庫済累計を調整するように選択した場合、販売先取引先でも入庫済累計を調整する必要があります。請求済の購買スケジュールラインの場合、入庫済累計は入庫累計の更新 (tdpur3432m000) セッションで更新できます。入庫済累計が購買側で更新されない場合、購買スケジュールが送付されるたびに不一致が生じます。
- 出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションの出荷済累計レコードは、販売スケジュール調整 (tdsls3131m000) セッションで実行した調整に従って更新されます。

在庫の損失

[不一致] 状況の調整レコードに関して取引先と検討した結果、[出荷済累計] を調整するように決定した場合、取引先との間で在庫の損失に対する支払責任がどちらに生じるかについても合意できます。

次のいずれかの場合が考えられます。

- 自社で在庫の損失を負担する。この場合、販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションで [修正] レコードを作成する必要があります。この結果、取引先に対して与信請求が生じます。
- 取引先が在庫の損失を負担する。この場合、販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションで [修正] レコードを作成する必要はありません。

注意

販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションで請求書訂正を作成する必要があるかどうかチェックできます。その際、請求済累計 (tdsls3533m000) セッションの [累計請求数量] と調整後の [入庫済累計] を比較します。この結果、入庫と比較して顧客への請求が多すぎるか少なすぎるかを表示できます。

出荷訂正と販売スケジュール請求の詳細は、販売スケジュールと請求 (ページ 135) を参照してください。

販売スケジュールと企業計画

販売スケジュールが書運されると、企業計画で販売スケジュールの計画済所要量と確定所要量に基づいて計画済所要量が計算され、計画済供給が生成されます。

企業計画では、販売スケジュールが通常の販売オーダーとして処理されます。

企業計画で販売スケジュール所要量を処理するには

販売スケジュールを承認すると、企業計画による販売所要量の処理方法はスケジュールのタイプによって異なります。

出荷スケジュールと連続出荷スケジュール

[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] を承認すると、販売所要量が次のように保存されます。

- 計画在庫処理 (whinp1500m000) セッションでは、[販売スケジュール] タイプの計画在庫処理として保存されます。
- 品目マスタ計画 (cprmp2101m000) セッションでは、顧客オーダとして保存されます。
- 品目オーダ計画 (cprrp0520m000) セッションでは、[販売スケジュール] タイプのオーダとして保存されます。

資材発行

[資材発行] を承認した場合

- 品目マスタ計画 (cprmp2101m000)
関連品目の販売所要量が [未確認顧客オーダ] フィールドに保存されます。
- 品目オーダ計画 (cprrp0520m000)
所要量は、タイプ [販売スケジュール] のオーダとして表示されます。

品目の顧客オーダは、通常の販売オーダに加えて、[所要量タイプ] が [確定] に設定されている資材発行のスケジュール所要量を表しています。企業計画では、顧客オーダは品目の需要に追加され、予測から消費されます。[資材発行] が発生元の販売所要量は、品目マスタ計画で未確認顧客オーダとして終了します。これらの所要量は、企業計画の計画に影響せず、顧客オーダの未確認部分を示すためにのみ表示されます。

品目オーダ計画 (cprrp0520m000) セッションでは、[資材発行] の販売所要量を販売スケジュール予測として表示できます。

マスタ計画とオーダ計画

マスタ計画またはオーダ計画を更新、あるいはシミュレートする場合、販売スケジュールの所要数量が考慮されます。

次の数量が取得されます。

- 計画在庫処理 (whinp1500m000) セッションから [出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] の計画数量
- 販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションから [資材発行] の数量

数量と日付の変更

販売スケジュールのオーダ数量または(納入)日付が変更され、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [企業計画で有効在庫をオンライン更新] チェックボックスがオンの場合、企業計画により品目の有効在庫更新が実行されます。この更新は、計画在庫処理 (whinp1500m000) セッションで計画入庫や計画出庫に何らかの変更が行われた場合に企業計画によって実行される有効在庫更新と同様のものです。

変更が行われると、企業計画によって品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションでネットチェンジ日付も設定されるため、変更が計画実行時に考慮されます。

計画期間の所要数量を取得するには

[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] は計画期間の途中で終了できます。これにより、その特定の計画期間では [出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] と [資材発行] の間に重複が存在します。

このため、[出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] と重複する [資材発行]、および重複していない [資材発行] が区別されます。

(連続) 出荷スケジュールと重複しない資材発行の計画数量を決定するには

計画期間の [出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] と重複しない [資材発行] の場合、販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションから計画期間の合計所要数量が取得されます。

販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションまたは品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションの次のパラメータを使用して、計画済所要量を累計するかどうかが決まります。

- [計画所要量の割当]
- [期間開始日での需要の累計]

注意

[計画所要量の割当] がオフの場合、[期間開始日での需要の累計] は常にオンになっています。

例**例 1**

[計画所要量の割当] チェックボックスと [期間開始日での需要の累計] チェックボックスがどちらもオンになっています。

曜日	1	2	3	4	5
MRL001	50	-	-	-	-
SHP001 / SEQ001	-	-	-	-	-
計画、販売スケジュール予測	50	-	-	-	-

[期間開始日での需要の累計] チェックボックスがオンのため、最初の日には、資材発行の合計数量が割り当てられます。

例 2

[計画所要量の割当] チェックボックスがオンで [期間開始日での需要の累計] チェックボックスがオフになっています。

曜日	1	2	3	4	5
MRL001	50	-	-	-	-
SHP001 / SEQ001	-	-	-	-	-
計画、販売スケジュール予測	10	10	10	10	10

資材発行の合計数量は累計できません。計画期間内で 5 暦日に分配されます。

(連続) 出荷スケジュールと重複する資材発行の計画数量を決定するには

計画期間の [出荷スケジュール] または [連続出荷スケジュール] と重複する [資材発行] については、販売契約ラインロジスティックデータ (tdsls3102m000) セッションまたは品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションの次のパラメータを使用して、計画済所要量の計算方法および分配方法が決定されます。

- [正味計画所要量]
- [線形推定]
- [計画所要量の割当]

注意

[正味計画所要量] チェックボックスがオフの場合、[線形推定] チェックボックスもオフになり、変更できません。

例

例 1

[正味計画所要量] チェックボックスがオフになり、[計画所要量の割当] チェックボックスがオンになります。

曜日	1	2	3	4	5
MRL001	50	-	-	-	-
SHP001 / SEQ001	20	10	-	-	-
計画、販売スケジュール	20	10	-	-	-
計画、販売スケジュール予測	10	10	10	10	10

[正味計画所要量] がオフになるので、出荷スケジュールによって割り当てられる日を含め (1 日目と 2 日目) 期間内の終日、計画数量を入力することができます。

[計画所要量の割当] がオンになっているので、資材発行の合計数量は期間の日数にわたって等しく分配されます。

例 2

[正味計画所要量]、[線形推定]、および [計画所要量の割当] チェックボックスはすべてオンになっています。

-	第 1 週					第 2 週					第 3 週				
曜日	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
MRL001	-	-	50	-	-	-	-	50	-	-	-	-	50	-	-
SHP001 / SEQ001	10	9	8	12	10	12	9	-	-	-	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール	10	9	8	12	10	12	9	-	-	-	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール予測	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	10	10	10

- 第 1 週
資材発行が存在しますが、期間全体に出荷スケジュールが割り当てられます。この結果、企業計画により出荷スケジュールのみが考慮されます。
- 第 2 週
資材発行と出荷スケジュールの間に重複があります。
- [正味計画所要量] がオンであるため、出荷スケジュールによって割り当てられない日 (3 日目、4 日目、および 5 日目) にのみ計画数量が適用されます。
- [線形推定] チェックボックスがオンであるため、計画期間の日数で資材発行の数量が除算され ($50 \div 5 = 10$)、重複しない期間の計画済所要量が決定されます ($10 \times 3 = 30$)。
- [計画所要量の割当] がオンであるため、出荷スケジュールによって割り当てられていない日は、計算結果 10 ($30/3$) が割り当てられます。
- 第 3 週
資材発行のみが存在し、企業計画により関連する数量が考慮されます。
- [計画所要量の割当] がオンになっているので、資材発行の合計数量は期間の日数にわたって等しく分配されます。

例 3

[正味計画所要量] チェックボックスがオンで [線形推定] チェックボックスと [計画所要量の割当] チェックボックスがオフになっています。

-	第 1 週					第 2 週					第 3 週				
曜日	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
MRL001	-	-	50	-	-	-	-	50	-	-	-	-	50	-	-
SHP001 / SEQ001	10	9	8	12	10	12	9	-	-	-	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール	10	9	8	12	10	12	9	-	-	-	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール予測	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	50	-	-	-	-

- 第 2 週
[線形推定] チェックボックスがオフであるため、線形推定なしで第 2 週の資材発行が分配されます。これは、期間についての出荷スケジュール数量が資材発行の合計数から差し引かれることを意味します (50 - 21 = 29)。
- [計画所要量の割当] チェックボックスがオフであるため、第 2 週の最初の日には出荷スケジュール数量がなく、資材発行の残数量で割り当てられます。
- 第 3 週
[計画所要量の割当] チェックボックスがオフのため、第 3 週の最初の日には、資材発行の合計数量が割り当てられます。

例 4

資材発行の数量が 50 から 60 に変更した場合。この例では、[正味計画所要量] チェックボックスと [計画所要量の割当] チェックボックスはオン、[線形推定] チェックボックスはオフになっています。

-	第 1 週					第 2 週					第 3 週				
曜日	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
MRL001	-	-	50	-	-	-	50	->	60	-	-	-	50	-	-
SHP001 / SEQ001	10	9	8	12	10	12	9	-	-	-	-	-	-	-	-
更新	-	-	-	-	-	-	-	+3	+3	+4	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール	10	9	8	12	10	12	9	-	-	-	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール予測	-	-	-	-	-	-	-	13	13	13	10	10	10	10	10

第 2 週

- [線形推定] チェックボックスがオフであるため、残数量は次のように計算されます: $60 - 12 - 9 = 39$
- [計画所要量の割当] チェックボックスがオンであるため、資材発行の残数量は期間の日数にわたって等しく分配されます。
- [正味計画所要量] がオンであるため、出荷スケジュールによって割り当てられない日 (3 日目、4 日目、および 5 日目) にのみ計画数量が入力されます。

計画数量が増加したため、企業計画により品目の有効在庫数量が減算されます。

例 5

出荷スケジュールの数量が第 2 週の 2 日目に 9 から 15 に変更した場合。この例では、[正味計画所要量] チェックボックスと [計画所要量の割当] チェックボックスはオン、[線形推定] チェックボックスはオフになっています。

-	第 1 週					第 2 週					第 3 週				
曜日	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
MRL001	-	-	50	-	-	-	-	60	-	-	-	-	50	-	-
SHP001 / SEQ001	10	9	8	12	10	12	15	-	-	-	-	-	-	-	-
更新	-	-	-	-	-	-	+6	-2	-2	-2	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール	10	9	8	12	10	12	15	-	-	-	-	-	-	-	-
計画、販売スケ ジュール予測	-	-	-	-	-	-	-	11	11	11	10	10	10	10	10

この変更によって、計画在庫処理 (whinp1500m000) セッションも変更されます。この変更が企業計画に送信され、有効在庫が更新されます。

明らかに、出荷スケジュール数量の変更は第 2 週の資材発行にも影響します。

第 2 週

- [線形推定] チェックボックスがオフであるため、残数量は次のように計算されます: $60 - 12 - 15 = 33$
- [計画所要量の割当] チェックボックスがオンであるため、資材発行の残数量は期間の日数にわたって等しく分配されます。
- [正味計画所要量] がオンであるため、出荷スケジュールによって割り当てられない日 (3 日目、4 日目、および 5 日目) にのみ計画数量が入力されます。2 日目に、以前に受信した計画数量が確定数量 15 で置き換えられます。

計画数量が減少したため、企業計画により品目の有効在庫数量が加算されます。

販売スケジュールと倉庫

販売スケジュールラインのオーダ品目が承認された後、それらを出荷できます。品目を出荷するには、販売スケジュールを倉庫管理へ発行する必要があります。

注意

次のいずれかを倉庫管理に発行する必要があります。

- [所要量タイプ] が [即時] または [確定] に設定された承認済販売スケジュールライン
- 販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスがオンの場合、承認済販売スケジュールラインに対して生成される計画済倉庫オーダ

販売スケジュールと計画済倉庫オーダの倉庫管理への発行

販売スケジュールが条件契約にリンクされた販売契約に基づく場合、またスケジュール条件 (tctrm1131m000) セッションで次のチェックボックスがオンの場合、販売スケジュールまたは計画済倉庫オーダは自動的に倉庫管理に発行されます。

- [参照販売スケジュールをオーダに自動発行]
- [非参照販売スケジュールをオーダに自動発行]
- [参照スケジュール用にバックオーダを自動発行]
- [非参照スケジュール用にバックオーダを自動発行]

これらのチェックボックスがオフの場合販売スケジュールの請求への発行 (tdsls3207m000) セッションまたはピックアップシートを倉庫に発行 (tdsls3207m100) セッションを使用して、販売スケジュール、ピックアップシート、または計画済倉庫オーダを倉庫管理に発行する必要があります。

販売スケジュール (ライン) または計画済倉庫オーダが倉庫管理に発行されると、販売スケジュール/計画済倉庫オーダの倉庫オーダが作成され、販売スケジュールライン/計画済倉庫オーダの出庫オーダラインが作成されます。販売スケジュールラインの出庫オーダラインが作成されると、販売スケジュールラインの状況は [オーダ生成済] になります。計画済倉庫オーダの出庫オーダラインが作成されると、計画済倉庫オーダの状況は [倉庫管理へ発行済] になります。

注意

倉庫オーダの倉庫オーダタイプに指定されている出庫手順および出荷手順が実行されます。

連続出荷スケジュールの倉庫管理への発行

[連続出荷スケジュール] タイプの販売スケジュールラインが作成された場合、連続出荷情報 (tdsls3517m000) セッションで連続出荷情報が作成されます。このセッションでは、連続出荷情報の改訂が記録されます。

販売スケジュールラインが倉庫管理に発行された後、倉庫管理の出荷順序 (whinh4520m000) セッションで連続出荷データも作成されます。このセッションには、出荷順序情報の最新版のみが保管されます。

連続出荷情報によって、出荷先取引先が組立ラインに必要とする品目の順番が分かります。このため、出荷順序 (whinh4520m000) セッションで指定されている順番で商品を出荷する必要があります。出荷順序データを使用して、出荷と出荷ラインが作成されます。LN は、出荷参照ごとに出荷を作成します。出荷順序は、それぞれ出荷ラインになります。

販売スケジュールの出荷

倉庫管理で販売スケジュールラインの品目が出荷される場合、次の状況のいずれかが販売スケジュールラインと計画済倉庫オーダに割り当てられます

- - 販売スケジュールライン
 - [一部出荷]
オーダ数量の一部が出荷済計画済倉庫オーダを使用する場合、この状況は販売スケジュールラインには適用されません。
 - [納入済]
オーダ数量の全部が出荷済

■

計画済倉庫オーダ

- [部分納入済]
この倉庫オーダの初回出荷ラインは倉庫管理で確認されます。その他のラインはまだ確認されていません。
- [ファイナライズ済]
この倉庫オーダの最新の出荷は倉庫管理で確認されるか、たとえば倉庫オーダが取り消されたときなどは実際に納入されずに出荷処理が完了しています。

販売スケジュールラインの品目が出荷されると、次の処理が実行されます。

- 出荷済累計 (tdsls3532m000) セッションと販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで販売スケジュールの出荷済合計数量が更新されます。
- 販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000) セッションで状況が [納入済] となっている実際納入ラインが作成されます。
- [最終出荷]、[最終納期]、および [納入数量] が販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションで更新されます。

注意

オーダ数量のすべてが出荷されていなくても、販売スケジュールが終了している場合、その販売スケジュールラインの状況は [納入済] になります。この結果、出荷されていない残りのオーダ数量は出荷できなくなります。販売スケジュールの終了の詳細は、販売スケジュールの終了 (ページ 139)

販売スケジュールと請求

販売スケジュールラインでオーダされている品目を一部またはすべて納入する場合、納入済商品を請求できます。請求書を送付できるようにするには、販売スケジュールラインを請求に発行する必要があります。

実際納入、請求ライン、および請求書訂正

(一部) 出荷を請求できるように、実際納入は販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000) セッションおよび販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m100) セッションに保存されます。

販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) を使用して、納入数量を請求および修正できます。

注意

実際納入ラインは、請求ラインと考えることもできます。

実際納入

販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000) セッションおよび販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m100) セッションで、販売スケジュールラインまたは計画済倉庫オーダに関して行われるすべての納入が保存されます。販売スケジュールラインのまたは計画済倉庫オーダのオーダ数量が (一部) 納入されると、納入数量の状況が [納入済] の実際納入ラインが作成されます。納入された品目に関する請求は、これらのセッションで指定された実際納入詳細に基づいて行われます。この設定により、部分的納入に対する請求も可能です。

実際納入ラインは、次の各状況を順に経ていきます。

1. [納入済]
2. [請求への発行]
3. [請求済]
4. [処理済]

請求書訂正

販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションを使用して、納入数量を訂正できます。これらの訂正は、財務上の理由で行われるのであり、ロジスティック上の理由ではありません。たとえば、出荷品目が出荷中に紛失してしまい、紛失した品目については取引先に請求しない場合は、納入数量を減らすことができます。その場合は、請求ラインを選択し、適切なメニューから [請求訂正の入力] を選択します。これにより、[訂正数量] を詳細セッションで指定できます。修正レコードの [レコードタイプ] は [修正] に設定されています。

状況が [処理済] 以外の販売スケジュールラインに対して請求書訂正を作成できます。

請求書訂正レコードは、次の各状況を順に経ていきます。

1. [作成済]
2. [請求への発行]
3. [請求済]
4. [処理済]

注意

[作成済] 状況の請求書訂正レコードは、請求に発行する前に確認する必要があります。請求書訂正レコードを確認するには、販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションの適切なメニューで [請求訂正の確認] を選択します。

訂正レコードを確認すると、次の処理が実行されます。

- 統合取引 (tfgld4582m000) セッションで [出荷差異] タイプの会計取引が作成されます。
- 取引先未決済残高から訂正金額が差し引かれます。
- 販売契約がリンクされている場合は販売契約が更新されます。
- 販売スケジュール履歴にレコードが挿入されます。
- 出荷訂正は、ロジスティックではなく財務上の理由でのみ実行されるため、出荷済累計は更新されません。

請求ラインと請求書訂正の請求への発行

請求ラインと請求書訂正を請求に発行するには、販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションの適切なメニューから [販売オーダー/スケジュールの請求への発行] を選択します。したがって、この場合は販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションが開始されます。

次のオーダーのデータが請求に発行されます。

1. [納入済] 状況の請求ライン
2. [作成済] 状況の確認済訂正レコード

注意

- 請求ラインの発行、次に訂正レコードの発行が、連番の順序(作成順序)で実行されます。
- 販売スケジュール/計画済倉庫オーダを請求に発行すると、実際納入ライン、請求ライン、および訂正レコードの状況は [請求への発行] に変更されます。

販売スケジュールが請求に発行された場合、[納入済額] が次のように決定されます。

- 請求ライン
[納入数量] / [オーダ数量] [正味額]
- 訂正レコード
[訂正数量] ÷ 請求ラインの [納入数量] × 請求ラインの [納入済額]

注意

- [オーダ数量] と [正味額] を販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションから取得します。
- 販売スケジュールラインのすべての請求ラインと訂正レコードが [請求への発行] 状況の場合、その販売スケジュールラインの状況も [請求への発行] になります。

請求での請求書の作成と転記

販売スケジュールの請求書の作成と転記は、請求の請求書 (cisli3105m000) セッションで実行します。

注意

請求書訂正レコードの与信請求 (ライン) が作成されます。

販売スケジュールラインの請求ラインまたは訂正レコードの請求書が送付される場合

- 請求ラインまたは訂正レコードの状況は [請求済] になり、[請求書番号] と [請求日] フィールドが販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000) セッション、販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m100) セッション、および販売スケジュール請求ライン (tdsls3140m200) セッションで入力されます。
- 請求済累計 (tdsls3533m000) セッションと販売スケジュール (tdsls3111m000) セッションで販売スケジュールの合計請求数量が更新されます。
- 請求データによって販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションが更新されます。

販売スケジュールライン/計画済倉庫オーダのすべての請求ラインと訂正レコードの状況が [請求済] の場合、販売スケジュールライン/計画済倉庫オーダの状況も [請求済] になります。

販売スケジュールの処理と削除

販売スケジュールラインの請求書が送付された後、その販売スケジュールラインの状況は [請求済] になります。[請求済] 状況のラインを含む販売スケジュールを処置および削除できます。

納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションを使用して、販売スケジュールを処理します。

販売スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdsls3224m000) セッションを使用して、処理済、取消済、および交換済の販売スケジュールを削除します。

処理

納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで販売スケジュールを処理した場合、次の処理が実行されます。

- 処理済の販売スケジュールについて販売スケジュール取引高が作成されます。取引高履歴は、販売オーダー/スケジュール履歴セッションで表示できます。
- 販売契約が販売スケジュールラインにリンクされている場合、販売契約ラインの [請求数量] が更新されます。
- 販売スケジュールの状況、販売スケジュールラインの状況、および販売スケジュールラインの実際納入ラインの状況が [請求済] から [処理済] に変更されます。
- 状況が [請求済] のリンクされた計画済倉庫オーダーを処理します。

注意

未請求の請求書訂正がある場合、販売スケジュールは処理できません。

販売スケジュールライン、販売スケジュールの実際納入ライン、または請求書訂正のいずれかが [請求済] 状況ではない販売スケジュールを処理する場合、次の処理が実行されます。

1. [請求済] 状況の販売スケジュールライン、実際納入ライン、および請求書訂正の状況を [処理済] へ変更します。
2. [請求済] 状況ではない販売スケジュールライン、実際納入ライン、および請求書訂正の状況は変更されません。
3. 販売スケジュールの状況が [処理実行中] に変更されます。

状況が [処理実行中] の販売スケジュールで、処理されていない販売スケジュールライン、実際納入ライン、または請求書訂正の状況が [請求済] になった場合、これらの販売スケジュールライン、実際納入ライン、および請求書訂正が自動的に処理され、販売スケジュールの状況が [処理済] に変更されます。

削除

販売スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdsls3224m000) セッションで、[取消済]、[交換済]、および [処理済] の販売スケジュールラインを削除できます。

処理済の販売スケジュールを削除する場合、販売スケジュールに関連する次のデータがすべて削除されます。

- 販売スケジュールおよび販売スケジュールライン
- ピックアップシートおよびピックアップシートライン
- 販売発行、発行ライン、および発行ライン詳細
- 連続出荷情報
- 販売スケジュール実際納入ライン
- 出荷済累計
- 請求済累計
- FAB 権限および RAW 権限

注意

- 販売スケジュールラインは、リンクされた倉庫オーダー、計画済倉庫オーダーリンク、および計画済倉庫オーダーが正しく削除できた後のみ削除できます。

- あるスケジュールのすべてのラインを削除すると、そのスケジュールヘッダも自動的に削除されます。

販売スケジュールの終了

取引先との関係が終了し、販売先取引先固有の品目データを変更する場合は、販売スケジュールを終了できます。リンクされた計画済倉庫オーダまたは販売スケジュールの状況が終了プロセスに影響することがあります。

注意

販売スケジュールを終了するには、販売スケジュールの終了 (tdsls3211m100) セッションを使用します。

作成済、調整済、承認済、または計画済

販売スケジュールを終了する場合、関連する販売スケジュールの状況が [作成済]、[調整済]、または [承認済] であれば、販売スケジュールラインの状況は [取消済] に変更されます。

販売スケジュールを終了する場合、関連する計画済倉庫オーダの状況が [計画済] であれば、計画済倉庫オーダの状況は [取消済] に変更されます。

注意

次の販売スケジュールラインのいずれかが取り消されると、承認プロセスの結果は元に戻されません。

- [承認済] 状況の販売スケジュールライン
- 出庫処理がまだ開始されていない [オーダ生成済] 状況の販売スケジュールライン

オーダ生成済または倉庫管理への発行

販売スケジュールを終了する場合、販売スケジュールラインの状況が [オーダ生成済] であれば、またはリンクされた計画済倉庫オーダの状況が [倉庫管理へ発行済] であれば、関連する出庫オーダラインは計画済倉庫オーダ/販売スケジュールラインを取り消せるかどうかを決定します。

- 出庫処理がまだ開始されていない場合、出庫オーダラインが削除され、計画済倉庫オーダ/販売スケジュールラインの状況は [取消済] になります。
- 出庫処理が開始されている場合、出庫オーダラインおよび計画済倉庫オーダは [取消済] に設定され、販売スケジュールラインの状況は [取消処理中] になります。
- [取消済] に設定されている出庫オーダラインの状況が [出荷済] の場合、販売スケジュールラインの状況は [取消済] になります。

一部出荷または部分納入済

販売スケジュールを終了する場合、販売スケジュールラインの状況が [一部出荷] であれば、またはリンクされた計画済倉庫オーダの状況が [部分納入済] であれば、関連する出庫オーダラインは、計画済倉庫オーダ/販売スケジュールラインを取り消せるかどうかを決定します。

- 出庫処理がまだ開始していない場合
残数量の出庫オーダラインは削除されます。計画済倉庫オーダの状況は [ファイナライズ済] になり、販売スケジュールラインの状況は [納入済] になります。

- 出庫処理が開始した場合
残数量の出庫オーダーラインは [取消済] に設定され、販売スケジュールラインの状況は [一部出荷] のままになります。[取消済] に設定されている出庫オーダーラインの状況が [出荷済] の場合、販売スケジュールラインの状況は [納入済] になります。
- 計画済倉庫オーダー数量の取り消された部分が計画済倉庫オーダー上で更新され、[取消済数量] として更新されます。計画済倉庫オーダーにリンクされている販売スケジュールラインの状況は [納入済] になります。
- 取り消された計画済倉庫オーダーにリンクされた販売スケジュールラインには、取消履歴レコードが存在します。これらの履歴レコードの取消済数量の合計は、リンクする計画済倉庫オーダーの取消済数量と同じです。

納入済、ファイナライズ、請求への発行、請求済

販売スケジュールを終了する場合、リンクされた計画済倉庫オーダーの状況が [ファイナライズ済]、[請求への発行済]、または [請求済] であれば、または販売スケジュールラインの状況が [納入済]、[請求への発行]、または [請求済] であれば、販売スケジュール手順は [処理済] 状況になるまでに終了する必要があります。

販売スケジュール状況

終了する販売スケジュールの状況は、次のように計画済倉庫オーダー/販売スケジュールラインの状況によって決まります。

- 計画済倉庫オーダー/販売スケジュールラインの状況のいずれかが [処理済] または [取消済] の場合、販売スケジュールの状況は [終了処理中] になります。
- すべての計画済倉庫オーダー/販売スケジュールラインの状況が [処理済] または [取消済] の場合、販売スケジュールの状況は [終了] になります。

販売スケジュールの状況が [終了処理中] または [終了] の場合、販売スケジュールに新しい改訂を追加することはできません。

販売オーダーおよびスケジュールの履歴

販売オーダー/スケジュール履歴を使用して、販売オーダー、分割払オーダー、および販売スケジュールの作成および修正を追跡できます。オリジナルのオーダー/スケジュールが完了してからも、一定の情報を保存できます。

オーダーおよびスケジュールの作成、取消、または処理の履歴を登録するには、次のチェックボックスをオンにします。

- 販売オーダー
販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダー履歴のログ]、[EDI オーダー履歴のログ]、および [実際オーダー納入履歴のログ] の各チェックボックス
- 販売オーダー分割払
販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダー履歴のログ]、および [EDI オーダー履歴のログ] の各チェックボックス
- 販売スケジュール
販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュール履歴のログ]、および [実際スケジュール納入履歴のログ] の各チェックボックス

履歴ファイルの内容

オーダー/スケジュール履歴ファイルには、次の情報が含まれます。

- すべての作成済オーダー/スケジュール (ライン) の処理。これらのオーダー/スケジュール (ライン) は処理済ではないものです。
- すべての請求済オーダー/スケジュール (ライン)。これらのオーダー/スケジュール (ライン) は処理済のものです。オーダーが請求されると、履歴にはオーダーラインの営業利益も記録されます。

履歴ファイルは、次のレコードタイプで構成されます。

- [入力]
オーダー/スケジュールラインが追加、変更、または削除されました。
- [取消]
オーダー/スケジュールラインは取り消されました。
- [取引高]
オーダーラインが納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションで処理されたか、
納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで処理されました。

次の表に示すフィールドが、オーダー/スケジュール履歴ファイルを更新するかどうか、また更新する場合のタイミングとその方法を決定します。

販売オーダー

フィールド	セッションから取得
[オーダー履歴のログ]	販売オーダー (tdsls4100m000)
[EDI オーダー履歴のログ]	販売オーダー (tdsls4100m000)
[履歴ログの開始時点]	販売オーダー (tdsls4100m000)
[入力のログ記録レベル]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[実際オーダー納入履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[構成要素履歴を記録]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)

販売オーダー分割払

フィールド	セッションから取得
[オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[EDI オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[履歴ログの開始時点]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)

[入力のログ記録レベル]	販売オーダパラメータ (tdsls0100s400)
販売スケジュール	
フィールド	セッションから取得
[スケジュール履歴のログ]	販売スケジュール (tdsls3111m000)
[入力のログ記録レベル]	販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500)
[実際スケジュール納入履歴のログ]	販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500)

注意

- 販売スケジュールでは、履歴ログは常に承認中に開始します。
- 計画済倉庫オーダが販売スケジュールに使用される場合、販売スケジュールライン履歴は計画済倉庫オーダ情報に基づきます。

履歴ファイルの削除

販売オーダ/スケジュール履歴のアーカイブおよび削除 (tdsls5201m000) セッションを使用すると、履歴データの合計金額を制限できます。

履歴ファイルは、統計の基準になります。履歴ファイルを削除する前に、統計がすべて更新されていることを確認してください。更新前に履歴ファイルを削除すると、統計を完全に更新することができなくなります。

注意

履歴データは修正できません。これは、参考情報の目的でのみ使用します。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

バックフラッシュ

論理的な使用量、および完了とレポートされた品目の数量に基づく、在庫からの資材の自動出庫、または品目の製造に使用された時間の計算

一般価格リスト

顧客仕様により生成された製品バリエーションは、選択したオプションに基づいた詳細販売価格を持つことができます。また一般品目の購買価格も生成できます。購買価格は標準原価計算に使用されます。購買価格あるいは販売価格に影響するような相互関係を持つ、異なる製品特徴のオプションがある場合、マトリックスを定義できます。

請求書

所定の条件に基づいて支払を受ける必要のある、納入済の製品やサービスの価格をリスト形式で記載した伝票

販売スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。販売スケジュールは、頻繁に納入される長期の販売をサポートします。品目、販売先取引先、出荷先取引先、および納入パラメータが同じである要求はすべて、同じ販売スケジュールに保存されます。

有効在庫

ある品目の、ある日付に顧客に確約できる数量

LN では、有効在庫 (ATP) は、確約可能在庫 (CTP) と呼ばれる、より高度なオーダー確約技術の構成要素となっています。確約可能在庫は、品目の有効在庫が不十分な場合に当初計画より増産する可能性も考慮する点で、有効在庫より高度な機能を備えています。

標準的な有効在庫機能のほかに、チャンネル有効在庫も使用されます。この用語は、特定の販売チャンネルについて販売制約を考慮した、そのチャンネルについての品目の調達可能性を指しています。

LN で使用されるこれ以外のすべてのタイプのオーダー確約機能については、確約可能在庫という用語を使用します。

頭字語: 有効在庫

略字: 有効在庫

有効在庫

次を参照してください: 有効在庫 (ページ 144)

有効在庫

次を参照してください: 有効在庫 (ページ 144)

クラスタ

企業計画で、供給関係により互いに接続されている倉庫の分類

クラスタは、1 つまたは複数の倉庫を含む、地理的な場所を表します。企業計画では、これらの倉庫を、計画目的で 1 つの単位とみなします。

クラスタ

1 つの購買発行に複数のスケジュールラインを送るために、ラインをグループ化すること

クラスタでは、まず発行パターンに基づいて次のスケジュール発行日が決定されます。次に、セグメントセットから取得されたセグメント時間単位とセグメント期間に基づいてスケジュールラインがクラスタ化されます。

注意

クラスタは、非参照スケジュールにのみ適用されます。

品目マスタ計画

販売、内部供給、外部供給、および在庫に対するロジスティックターゲットと計画データを含む、品目別の総合ロジスティック計画。品目マスタ計画のすべての計画データは、計画期間で指定します。企業計画は、このデータを使用してマスタ計画シミュレーションを実行します。

品目マスタ計画は、次のサブ計画に分類することができます。

- 需要計画
- 供給計画
- 在庫計画

さらに、品目マスタ計画には、実際の需要、実際の供給、計画オーダーという形での計画供給、および予測在庫に関する情報が含まれます。

その品目にマスタ計画があり、チャンネルが定義されている場合、通常は各チャンネルに固有のマスタ計画があります。チャンネルマスタ計画には、需要データ、販売制約に関する情報といった、チャンネル固有の情報のみが含まれます。

品目マスタ計画とチャンネルマスタ計画は、シナリオ内で定義されています。これらのシナリオは、条件分析 (what-if 分析) に使用できます。シナリオのうちの 1 つが実際の計画です。

品目オーダー計画

オーダー計画の時系列概要

品目オーダー計画は、需要と予測の概要値を含む一方、予定された受取 (実際のオーダー) および計画供給 (計画オーダー) に関する情報も提供します。

マスタ基準計画

すべての計画データを、既定の長さを持つタイムバケット内に累計する計画方式

マスタ計画では、すべての需要、供給、および在庫データがこれらのタイムバケットに基づいて取り扱われ、マスタ計画に保存されます。

マスタ計画では、供給は供給計画の形で計画されます。この供給計画は、需要予測、実際のオーダー、およびその他の情報に基づいて計算されます。製造計画では、この計画方法は、品目のクリティカル部品表およびクリティカル能力資源表に記録されたクリティカル所要量のみを考慮します。

注意

企業計画では、すべての供給をオーダー計画で計画した場合でも、品目のマスタ計画をメンテナンスすることができます。

再生成

スケジュールラインを再調整してラインが間に合うように移動する処理

再生成は、非参照スケジュールについてのみ実行されます。

オーダ基準計画

計画データをオーダの形式で取り扱う計画方式

オーダ計画では、供給は計画オーダの形式で計画されます。個々の計画オーダの開始日と終了日が考慮されます。製造計画では、この方法により、品目のBOMおよび工順に記録されたすべての資材所要量と能力所要量が考慮されます。

注意

企業計画では、すべての供給をオーダ計画で計画した場合でも、品目のマスタ計画をメンテナンスすることができます。

オフセット

所要量を期限に間に合って納入できるような有効な納入時点を探す、後方計画のプロセス。生成される納入時点に基づいて企業計画で所要量がクラスタ化されます。

例

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
所要量	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-
納入パターン	-	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-
クラスタ化された需要	-	-	3	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

購買スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。購買スケジュールは、頻繁に納入される長期の購買をサポートし、通常、購買契約によって支援されます。品目、購買元取引先、出荷元取引先、購買オフィス、および倉庫が同じである要求はすべて、1つのスケジュールに保存されます。

販売業者管理在庫 (VMI)

発注先がそれぞれの顧客や外注先の在庫を管理する際に通常従う在庫管理方法です。また、発注先は供給計画も管理している場合があります。他にも、在庫は顧客が管理し、供給計画は発注先が担当している場合もあります。在庫管理や在庫計画は、ロジスティックサービスプロバイダ (LSP) に外注することもできます。

発注先が納入する在庫は、発注先、または顧客が所有します。多くの場合、在庫の所有権は顧客が在庫を消費する際に発注先から顧客に変更されますが、契約で規定されている時期に所有権の移行が生じることもあります。

販売業者管理在庫は、計画や資材の調達に関連する内部コストを削減できるほか、販売業者はサプライチェーンを明確に把握しながらそれぞれの在庫をよりよく管理できます。

追加情報フィールド

さまざまなセッションに追加できるさまざまなフィールドフォーマットのユーザ定義フィールド。ユーザはこれらのフィールドを編集できます。これらのフィールドの内容には機能ロジックが関連付けられていません。

追加情報フィールドはデータベーステーブルにリンクできます。テーブルにリンクすると、そのデータベーステーブルに対応するセッションにフィールドが表示されます。たとえば、whinh200 テーブルに定義されているフィールドは倉庫オーダ (whinh2100m000) セッションの追加フィールドとして表示されます。

追加情報フィールドの内容をデータベースのテーブル間でやり取りできます。たとえば、あるユーザが倉庫オーダ (whinh2100m000) セッションの追加情報フィールド A に指定した情報は、出荷 (whinh4130m000) セッションの追加情報フィールドに転送されます。このため、whinh200 テーブルと whinh430 テーブル (whinh430 は出荷 (whinh4130m000) セッションに対応) には、フィールドフォーマットが同一でフィールド名が A である追加情報フィールドが存在する必要があります。

次を参照してください: 追加情報フィールド

外注

別の関係者から、プロジェクトの一部実行、製造オーダの作業などの特定のサービスを借用すること

作業外注

品目の製造工程における 1 つまたは複数の作業が外注先に委託されます。

品目外注

品目の製造工程全体が外注先に委託されます。

サービス外注

品目のサービス関連の作業を別の会社に割り当てます。メンテナンスまたは修理プロセス全体を割り当てる場合と、その一部だけを割り当てる場合があります。サービス外注には、資材フローサポートを使用する場合と使用しない場合があります。

消費

顧客による、または顧客の代理による、委託品目の倉庫からの出庫。顧客は、これらの品目を販売、製造などに使用することを目的としています。品目が出庫されると、顧客はその品目の所有者になるため、発注先に支払を実行する必要があります。

管理倉庫

取引先で管理されている倉庫のビューを提供する倉庫。管理倉庫は取引先のシステムで管理されている物理的な倉庫に対応しています。この物理的な倉庫では、入庫および出庫処理が実行されます。管理倉庫は、取引先の倉庫に存在している在庫レベルを反映します。

管理倉庫は、次のような状況で使用されます。

- 倉庫は自社のサイトにあるが、発注先が管理しており、品目を実際に使用するまでは発注先がおそらくその在庫を所有している。
- 倉庫は顧客のサイトにある。在庫は顧客が品目を使用するまで自社で所有しているが、在庫の管理は顧客が行っている。
- 倉庫は外注先のサイトにある。倉庫に未完成商品があり所有しているが、在庫の管理は外注先が行っている。

管理倉庫は、LNで定義できる倉庫タイプの1つではありません。管理倉庫の設定には、さまざまなパラメータ設定が必要です。

入庫

品目を倉庫に物理的に受け入れること。入庫で登録される項目には、入庫数量、入庫日、梱包票データ、検査データなどがあります。

時系列オーダーポイント

次を参照してください: 時系列オーダーポイント (TPOP) (ページ 161)

出荷

特定の日時に、特定の住所へ特定の経路で輸送されるすべての商品。積荷の識別可能な部分。

追加コスト

追加の梱包や保険などの追加サービスに対する費用。出荷、積荷、または輸送オーダークラスタの輸送費に追加コストが付加されます。追加コストは出荷ラインまたは輸送オーダークラスタラインに課され、顧客に請求できます。これは、取引先との間で結ばれている協定によって決まります。

追加コスト

オーダーまたは出荷の追加コストを課するために販売オーダーまたは出荷に加えることができる原価品目

計画済倉庫オーダー

販売で作成されるオーダーであり、ほとんどのスケジュール関連処理の基準となります。販売スケジュールの承認時に作成される計画済倉庫オーダーであり、これによってスケジュール更新および改訂が倉庫オーダーから分離されます。これは、販売と倉庫管理および請求との間のインターフェースにもなります。

超過納入

元のオーダー数量からのプラス偏差

販売発行

次の特徴を共有する販売スケジュールを、1つの発行番号で識別します。

- 販売先取引先
- 出荷先取引先
- 出荷先住所
- 発行タイプ (資材発行/出荷スケジュール/連続出荷スケジュール/ピックアップシート)
- 出荷基準スケジュール/入庫基準スケジュール
- スケジュール数量タイプ
- 予測範囲開始および終了
- 販売発行発生元
- 顧客発行
- (顧客オーダー)
- 顧客契約参照

ピックアップシート

特定の日に顧客に輸送するために、特定の運送業者が発注先のサイトで集荷する品目リスト

所要量タイプ

期限内の所要量を表す所要量タイプは3つあり、スケジュールに使用されます。

利用可能な所要量タイプは次のとおりです。

- [即時]
- [確定]
- [計画済]

非参照スケジュールの場合、所要量タイプはセグメントにリンクされます。

プル予測スケジュールの場合、所要量タイプは常に [計画済] または [即時] です。プルコールオフスケジュールの場合、所要量タイプは常に [確定] です。

梱包定義

品目とその梱包固有の構成。品目の梱包定義は、たとえば、1つのパレットに12個のボックスがあり、各ボックスに4個が含まれる、のようになります。

次を参照してください: 一般レベル梱包定義、品目レベル梱包定義

パターン

発行や納入などの活動を実行したい曜日、日にち、時間を定義する方法

事前出荷通知

出荷が送付済であることを知らせる通知。事前出荷通知は、電子データ交換を利用して送受信されます。倉庫に商品が到着することを知らせる事前出荷通知を発注先から受け取ることがあったり、発注した商品がまもなく納入されることを知らせる事前出荷通知を顧客に送信したりすることができます。

同義語: 出荷通知

略字: 事前出荷通知

事前出荷通知

次を参照してください: 事前出荷通知 (ページ 150)

出荷通知

次を参照してください: 事前出荷通知 (ページ 150)

倉庫オーダタイプ

倉庫オーダのタイプを識別するコード。倉庫オーダタイプにリンクしたデフォルトの倉庫手順は、その倉庫オーダタイプが割り当てられた倉庫オーダの倉庫での処理方法を決定します。ただし、デフォルトの手順は、倉庫オーダごと、またはオーダラインごとに修正できます。

倉庫オーダ

倉庫内の商品进行处理するオーダ

倉庫オーダは次のいずれかの在庫処理タイプになります。

- [入庫]
- [出庫]
- [転送]
- [仕掛品振替]

オーダには、それぞれ発生元があります。また、倉庫処理に必要なすべての情報が含まれています。品目 (ロット品目または非ロット品目) および倉庫 (保管場所の有または無) に応じて、ロットや保管場所を割り当てることができます。オーダは、事前定義された倉庫手順に従います。

注意

製造では、倉庫オーダを Warehousing Order、または Warehouse Order といいます。

同義語: 倉庫オーダ

倉庫オーダ

次を参照してください: 倉庫オーダ (ページ 150)

梱包票

出荷する特定の梱包内容を詳細に記載したオーダ文書。項目には、品目の説明、荷主または顧客の品目番号、出荷数量、および出荷品目の在庫単位などがあります。

販売契約

販売契約は、商品の納入について、販売先取引先との合意を登録するために使用します。

契約は次の要素で構成されます。

- 一般取引先データが記載され、オプションで条件合意が記載された販売契約ヘッダ
- 品目または価格グループに適用される価格/値引合意および数量情報を持つ、1つまたは複数の販売契約ライン

バックオーダー

顧客オーダー不足分、または後日に納入される部分。品目に対する需要で、在庫が不十分であるため需要を満足できないもの

返品オーダー

返品出荷がレポートされる購買オーダーまたは販売オーダー。返品オーダーにはマイナスの金額のみが記入できます。

電子データ交換 (EDI)

標準フォーマットの標準ビジネス文書のコンピュータ間転送。内部 EDI は、同じ内部会社ネットワーク (マルチサイトまたは複数会社とも呼ばれる) 上での会社間のデータ転送を意味します。外部 EDI は、自社と外部取引先間のデータ転送を意味します。

計画入庫日

オーダー/スケジュールラインの品目の入庫を計画している計画日。計画入庫日は、オーダー日/スケジュール生成日より前であってはなりません。

セグメント

スケジュールに使用される時間単位を定義するスケジュールの部分。セグメントは、所要量タイプ、セグメント時間単位、およびセグメント期間を含みます。

セグメントセット

スケジュールの構造を定義するために使用されるセット。セグメントセットはセグメントの番号で構成されます。

セグメントセットは、スケジュール再生成およびスケジュールラインのクラスタ化に使用されません。プルコールオフスケジュールの場合、セグメントセットは使用されません。

プッシュスケジュール

発注先に送付されるタイムフェーズ要件のリストで、企業計画やプロジェクトなどの中央計画システムによって生成されます。プッシュスケジュールには、長期の予測と短期の実際オーダーの両方が含まれています。

プッシュスケジュールは、次の発行タイプのいずれかを使用できます。

- [資材発行]: 資材発行のみが送付されます。出荷は、資材発行の [確定] 所要量および [即時] 所要量に基づいて実行されます。
- [出荷スケジュール]: 資材発行および出荷スケジュールの両方が送付されます。出荷は、出荷スケジュールの [確定] および [即時] 所要量に基づいて実行されます。資材発行は予測データを送付するだけです。
- [出荷スケジュールのみ]: 出荷スケジュールのみが送付されます。出荷は、出荷スケジュールの [確定] および [即時] 所要量に基づいて実行されます。予測データは発注者に送付されません。

非参照スケジュール

参照番号のないラインを含むスケジュール。スケジュールラインについて特定の所要量が存在しないので、非参照スケジュールラインは、最初にクラスタ化して、一緒にオーダー、出荷、および入庫できます。

参照スケジュール

参照番号を持つラインを含むスケジュール。商品が出荷、入庫、および請求される場合、参照番号は、発注先や他の LN パッケージとの通信に使用されます。

発行タイプ

発行のタイプを特定するために使用される分類であり、この分類に基づいてスケジュール所要量がグループ化され、EDI メッセージを生成できます。これらのメッセージは、使用するスケジュールによって示されます。

連続出荷スケジュール

所要の製造や納入についての正確な情報を含む出荷スケジュール。このスケジュールには、製造順序や納入順序のほか、オーダー、場所、出荷後の荷降の時間なども含めることができます。

購買発行

購買発行は、次の特徴が共通するスケジュールを、1つの発行番号で送り出すために使用します。

- 購買元取引先
- 出荷元取引先
- 出荷先住所
- 発行タイプ (資材発行/出荷スケジュール/連続出荷スケジュール)
- 出荷基準スケジュール/入庫基準スケジュール
- 通信方法
- 倉庫

組立オーダ

1 つ以上の組立ラインで製品を組み立てるためのオーダ

構成可能品目

特徴およびオプションを選択できる品目であり、この品目に対するすべての活動を実行できるように事前に構成しておく必要があります。構成可能品目が一般品目の場合は、構成後に新しい品目が作成されます。製造品目または購買品目の場合は、品目コードとオプションリスト ID で構成が識別されます。

- デフォルト供給ソースが [組立] 品目および [一般] 品目に設定されている [製造] 品目は、常に構成可能品目になります。
- 購買スケジュールが使用中の [購買] 品目は、場合によっては構成可能品目になることもあります。
- 構成可能 [購買] 品目は、組立管理でのみ使用できます。

構成済品目

構成済の構成可能品目であり、この品目に対してオプションと特徴が選択されています。

構成済品目には、構成済の部品が含まれていることもあります (バイク用のライトが装備されたバイクなど)。構成済品目が完成品の場合、その品目は構成可能な部品が含まれており、製品バリエーションとして保管されています。

ペグ

プロジェクトと予算、要素と活動の組合せ。プロジェクトの原価、需要、供給の識別に使用されます。

条件合意

商品の販売、購買、転送に関する取引先の間の契約であり、オーダ、スケジュール、計画、ロジスティック、請求、需要ペギングについて詳細な条件を定義し、正しい条件を取得するための検索メカニズムを定義できます。

契約には次が含まれます。

- 合意タイプと取引先が記載されたヘッダ
- 検索優先順位、選択した検索属性 (フィールド) とリンクしている条件グループから構成される検索レベル
- 検索レベルの検索属性値が示される 1 つまたは複数のライン
- ラインのオーダ、スケジュール、計画、ロジスティック、請求、需要ペギングについて詳細な条件が示される条件グループ

追加コストライン

追加コストとしてオーダまたは出荷にリンクできる原価品目を含みます。追加コストラインの例として、オーダ金額が一定の値より少ない場合にオーダ原価に追加される管理費や、販売/購買商品の総重量が一定の値を超える場合にオーダに追加される輸送費があります。

ブランケット倉庫オーダ

プッシュスケジュールまたは製造スケジュールの作成時に生成される、次のような倉庫オーダ

- 位置番号および連番がゼロ
- 品目が購買または製造スケジュールで定義済
- オーダ数量が購買契約ラインで定義済の数量と同じ。製造スケジュールに基づいている場合、ブランケットオーダのオーダ数量は、作業リスト (tirpt4602m000) セッションの [転送数量] フィールドで指定されている数量に基づきます。
- 計画納期および計画入庫日が空
- ロット選択が「任意」として定義済

購買担当

関係する購買元取引先の連絡先となる、自社の従業員。購買担当は購買エージェントとも呼ばれます。

累計リセット日

スケジュールの累計/権限がリセットされる日時

累計 (CUM)

会計年度初日から今日までの、出荷済、入庫済、および請求済数量についての合計

累計は、需要と比較して状況がスケジュールより前後するかどうかを追跡するためのスケジュール統計として使用されます。

FAB 権限

取引先が、購買スケジュールで要求される品目数量の製造を開始する有効な権限。FAB 権限は累計数量で表され、FAB 期間を使用して計算されます。

FAB 期間

発注先が、スケジュールで要求される商品を製造する権限を持つ期間。プッシュスケジュールの場合はスケジュール発行日、プル予測スケジュールの場合は現在の日付から計算されます。

FAB 期間は日数で表されます。

例

- CUM 開始数量: 10000
- スケジュール発行日/現在の日付: 05.07.99
- FAB 期間: 20 日

出庫日/現在の日付 数量	
05.07.99	100
12.07.99	100
19.07.99	100
26.07.99	100

FAB タイムフェンス: 99 年 5 月 7 日 (+ 20 日) = 99 年 7 月 25 日 FAB 権限: $10000 + 100 + 100 + 100 = 10300$

確定所要量

実際のオーダとして処理され、出荷することができる所要量

凍結期間

凍結日数 (+) と凍結日数 (-) の重複期間。この期間は、購買スケジュールラインを変更できません。

高度 FAB 権限

購買スケジュールでこれまでに計算された最高の FAB 権限で、最新の累計リセット日からカウントされます。

高度 RAW 権限

購買スケジュールでこれまでに計算された最高の RAW 権限で、最新の累計リセット日からカウントされます。

即時所要量

できるだけ早く出荷する必要がある所要量

請求累計

スケジュールの請求累計数量の合計。累計リセット日から最終処理日、すなわち請求日までが計算されます。財務会計によって請求が承認されるとすぐに請求累計が更新されます。

ロジスティック合意条件

スケジュールメッセージ、凍結期間、権限、納入パターン、運送業者などのロジスティックデータに関して発注先と顧客の間で合意される必要のある条件

下限期日

この期間は、スケジュールライン数量を増加することはできますが削減することはできません。また、スケジュールラインの削除は許可されません。

下限期日は、凍結日数 (-) の終了前に凍結日数 (+) が終了する場合に適用されます。

資材発行

出荷時間、納入時間、数量について予測情報が提供されるスケジュール

一般に、資材発行は計画発行と考えることができます。ただし、資材発行には実際のオーダが含まれる場合があります。

MPN セット

購買オーダラインまたは購買スケジュールラインに属する製造元製品番号 (MPN) のセット

通常契約

顧客指向の契約で、発注者と顧客によって合意され、特定合意を記録するために使用されます。通常契約は、通常、約 1 年間有効です。

特定期間の同じ取引先に別の有効な契約が存在する場合は、通常契約を有効にすることはできません。

未決済残高

1 つの特定の取引先に関連したすべての未払請求書の残高

パターンコード

活動パターンの識別に使用されるコード。パターンは、活動を実行したい月や日にちなどの日時を定義します。

計画所要量

情報および計画のみを目的として、取引先に通知する所要量

計画出荷日時

オーダ/スケジュールラインの品目を出荷元取引先のサイトで出荷/集荷する計画日。計画出荷日時は、オーダ日より前であってはなりません。

優先所要累計

最終累計リセット日から (次の) スケジュール発行日まで計算される、スケジュールの所要累計の合計

所要累計と対照的に、優先所要累計には、まだ入庫が記帳されていない発行済スケジュールラインの所要量も含まれます。

プルスケジュール

プルスケジュールには次の 2 種類があります。

- プル予測スケジュール
タイムフェーズ計画済製造所要量のリストであり、企業計画で生成されて発注先に送付されます。プル予測スケジュールは、予測のためだけに使用されます。実際に品目をオーダするには、プルコールオフスケジュールを生成する必要があります。
- プルコールオフスケジュール
購買品目の時系列の特定所要量のリストであり、組立管理、または倉庫管理 (カンバン、時系列オーダポイント) からトリガされます。

購買契約ライン詳細

特定サイト (倉庫) の特定品目に関する発注先との合意。購買契約ライン詳細には、一定期間中の特定倉庫での 1 つの品目の供給に関する数量条件およびロジスティック条件が含まれます。

この契約ライン詳細があるのは、法人購買契約の場合だけです。

RAW 権限

取引先が購買スケジュールで要求される原材料を購入するための有効な権限。RAW 権限は累計数量で表され、RAW 期間を使用して計算されます。

RAW 期間

発注先が、スケジュールで要求される原材料を製造する権限を持つ期間。プッシュスケジュールの場合はスケジュール発行日、プル予測スケジュールの場合は現在の日付から計算されます。

RAW 期間は日数で表されます。

例

- CUM 開始数量: 10000
- スケジュール発行日/現在の日付: 05.07.99
- RAW 期間: 20 日

出庫日/現在の日付 数量

05.07.99	100
12.07.99	100
19.07.99	100
26.07.99	100

RAW タイムフェンス: 99 年 5 月 7 日 (+ 20 日) = 99 年 7 月 25 日 RAW 権限: $10000 + 100 + 100 + 100 = 10300$

入庫累計

スケジュールの入庫済累計数量の合計。累計リセット日から最終処理日、すなわち入庫日までが計算されます。入庫累計は、スケジュールラインについて入庫があるとすぐに更新されます。

発行改訂番号

発行の改訂を一意に識別する番号。発行改訂番号は、取引先に送付される更新を示します。

所要累計

スケジュールの所要累計数量の合計で、累計リセット日から計画所要日、すなわち計画納期または計画出荷日時までが計算されます。所要累計は、スケジュールラインについて入庫が確認されるとすぐに更新されます。

販売スケジュール改訂番号

販売スケジュールの改訂を一意に識別する番号。販売スケジュール改訂番号は、取引先に送付される販売スケジュールの更新を示します。

スケジュール発行日

出庫パターンによって計算される日時で、非参照スケジュールの場合、次の時点を定義するために使用されます。

- スケジュールラインのクラスタ化
- 購買発行の送付

セグメント期間

セグメントに割り当てられる期間。期間はセグメント時間単位で表されます。

セグメント時間単位

日、週、月など、セグメントを表す時間単位

出荷累計

事前出荷通知が受領されるスケジュールの出荷累計数量の合計で、累計リセット日から最終処理日、すなわち出荷日までが計算されます。事前出荷通知を使用しないと、出荷累計はロジスティック会社で更新されません。

出荷スケジュール

出荷時間または納入時間、および数量について詳細情報が提供されるスケジュール。出荷スケジュールによってジャストインタイム (JIT) 管理が容易になります。

特別契約

顧客指向の契約で、購買元取引先と販売先取引先によって合意され、特別なプロジェクトの特別な合意を記録するために使用されます。特別契約は、販促契約の場合もあります。

特別契約では、同じ品目/取引先の組合せについて、有効期間の重複が許可されます。

システム日付

システムによって生成される現在の日付

上限期日

この期間は、スケジュールライン数量を削減することはできますが増加することはできません。また、新規スケジュールラインの作成は許可されません。

上限期日は、凍結日数 (+) の終了前に凍結日数 (-) が終了する場合に適用されます。

自己請求

取引先間での合意により、商品の入庫または消費を基準にして行われる、請求書の定期的な作成、照合、および承認。販売先取引先は、購買元取引先からの請求書を待たずに、商品に対する支払を行います。

部分納品

合計オーダー数量の一部の納入

外注購買オーダー

LN では、外注は外注先からのサービスの購入とみなされます。このため、外注の場合には、外注作業とそれにかかった費用を記録するための外注購買オーダーが生成されます。

カンバン

工程倉庫への品目の供給を調整するジャストインタイム生産のデマンドプルシステム

カンバンは、標準のコンテナまたはロットサイズ (棚とも呼ばれる) を使用して工程倉庫に品目を渡します。工程倉庫では、同じ品目に複数の棚を使用できます。品目は、1つの棚だけから取得します。棚が空の場合は、新しい棚をオーダーして (2 番目の) 満杯の棚から品目を取得します。各棚には、ラベルが添付されます。ラインステーションは、ラベルを使用して必要な品目がある満杯の棚をオーダーします。結果として、工程倉庫では使用するフロア在庫品目の在庫管理は実行しません。

ビジネスオブジェクト文書 (BOD)

企業または企業アプリケーション間でデータの交換に使用する XML メッセージ。BOD はメッセージの内容を識別する名詞、および文書で実行するアクションを識別する動詞で構成されています。名詞と動詞の一意の組合せによって、BOD の名前が形成されます。たとえば、名詞「ReceiveDelivery」と動詞「Sync」の組合せは、「BOD SyncReceiveDelivery」になります。

VMI 倉庫

保管済商品の発注先が次のどちらか一方または両方のタスクを行う倉庫。タスクは倉庫管理 (入出庫処理に伴う活動を含む) または倉庫内の商品の供給計画です。発注先が倉庫内の在庫の所有者となっていることもあります。通常、この倉庫は顧客の施設内にあります。

計画在庫処理

品目の計画オーダーによる在庫レベルの予測済変更

オーダー管理/SILS 供給

工程倉庫への品目の供給を必要とされる順序で調整するデマンドプルシステム

この供給システムでは、特定の組立オーダーおよび組立ラインの特定のラインステーションに必要な品目が、トリガ開始ステーションと呼ばれる最初の方のラインステーションでコールオフされます。コールオフされる品目の数は、最大時間間隔と呼ばれる所定のタイムフェンス内で、特定の組立オーダーに必要な品目によって決定されます。

一般に、SILS で工程倉庫に供給される品目は、移動が速く大量に処理されます。これらの品目と、それらが使用される組立オーダーとの間には直接的なリンクがあります。また、1つの倉庫オーダーセットで供給できるのは、1つの組立オーダーで要求されている商品のみです。

出庫オーダーライン

倉庫から商品を出庫するために使用する倉庫オーダーライン

出庫オーダーラインによって、計画出庫および実際出庫に関する詳細な情報が得られます。たとえば、次のような情報です。

- 品目データ
- オーダ数量
- 商品の出荷元倉庫

時系列オーダーポイント (TPOP)

倉庫への時系列による品目の供給を調整するプッシュシステム

倉庫に供給される品目の数量は、次によって決まります。

- 倉庫の有効在庫
- 特定のオーダー範囲内に倉庫への納入が予定されている在庫
- 品目と倉庫に指定された在庫バッファ (必要に応じ現行期間の季節要因に合わせて調整される)

有効在庫に計画在庫を加えたものが発注点を下回る場合、倉庫の在庫が補充されます。

略字: 時系列オーダーポイント

次を参照してください: 在庫バッファ

出荷参照

同時にコールオフする品目のグループの定義

梱包品目

製造、物流処理、および特に倉庫内での商品の保留および移動のために使用するコンテナまたはサポート。たとえば、ボックスやパレットです。

索引

- 発行, 92
 - 権限, 47, 105
 - リセット, 52
 - 適切なメニュー, 143
 - 検査
 - スケジュール済品目, 44
 - 履歴, 62
 - 販売オーダー/スケジュール, 140
 - 処理, 57
 - バックフラッシュ, 143
 - 一般価格リスト, 143
 - 請求書, 143
 - 販売スケジュール, 143
 - EDI とのリンク, 92
 - 改訂番号, 99
 - 概要, 65
 - 企業計画とのリンク, 126
 - 権限, 105
 - 削除, 137
 - 参照, 94
 - 自動処理, 67
 - 手順, 89
 - 終了, 139
 - 処理, 65, 137
 - 所要量タイプ, 101
 - 承認, 120
 - 請求に発行中, 135
 - 倉庫に発行中, 133
 - 調整, 117, 123
 - 累計, 109
 - 在庫
 - 消費, 68
 - 有効在庫, 144
 - クラスタ, 37, 144, 144
 - 品目マスタ計画, 145
 - 品目オーダー計画, 145
 - マスタ基準計画, 145
 - 再生成, 145
 - オーダー基準計画, 146
 - オフセット, 9, 146
 - 購買オーダー
 - 履歴, 62
 - 購買スケジュール, 146
 - スケジュールラインの生成の制約, 17
 - プッシュスケジュール, 12
 - プルコールオフスケジュール, 19
 - プル予測スケジュール, 15
 - 概要, 7
 - 権限, 47
 - 処理, 7
 - 発行タイプ, 31
 - 履歴, 62
 - 累計, 49
 - 統合, 79
 - 数量別, 80
 - 日付別, 81
 - 販売業者管理在庫 (VMI), 147
 - 追加情報フィールド, 147
 - 外注, 147
 - 作業外注, 147
 - 品目外注, 147
 - サービス外注, 147
 - 消費, 148
 - 在庫, 68
 - 発注先のシステム, 68
 - 管理倉庫, 148
 - 入庫, 148
 - プッシュスケジュール, 41
 - 時系列オーダーポイント, 161
 - 出荷, 148
 - 追加コスト, 74, 148, 148
 - 出荷基準, 74
 - 計画済倉庫オーダー, 77, 79, 148
 - 更新, 79, 83
 - 作成, 78
 - 処理, 78
 - 超過納入, 86
 - 納入, 86
 - 不足納入, 87
 - 販売スケジュールライン
 - 取消, 103
 - 統合, 79
 - 超過納入, 117, 149
 - 不足納入, 117
-

EDI, 92
販売発行, 92, 149
販売発行タイプ, 92
販売スケジュールタイプ, 92
参照販売スケジュール, 94
 ピックアップシート, 96
ピックアップシート, 96, 149
改訂番号, 99
販売スケジュール改訂, 99
所要量タイプ, 101, 149
販売スケジュールライン所要量タイプ, 101
ゼロの所要数量, 103
販売スケジュールの権限, 105
累計, 49, 109
 リセット, 55
販売スケジュール累計, 109
 外部構成要素データにもとづく同期, 114
 累計モデルにもとづく同期, 110
実際納入, 135
請求書訂正, 135
販売オーダー/スケジュール履歴, 140
梱包定義, 149
パターン, 149
事前出荷通知, 150
出荷通知, 150
倉庫オーダータイプ, 150
倉庫オーダー, 150
梱包票, 150
販売契約, 151
バックオーダー, 151
返品オーダー, 151
電子データ交換 (EDI), 151
計画入庫日, 151
計画納入日時
 使用, 9
納入パターン, 9
セグメント, 10, 151
セグメントセット, 10, 151
スケジュールライン
 クラスタ, 10
 再生成, 10
プッシュスケジュール, 12, 152
 入庫, 41
非参照スケジュール, 12, 15, 152
 スケジュールラインの生成の制約, 17
プル予測スケジュール, 15
プルコールオフスケジュール, 19
 連続出荷スケジュール, 21
参照スケジュール, 19, 152
 連続出荷スケジュール, 21
発行タイプ, 31, 152
連続出荷スケジュール, 21, 152
購買スケジュール構成品目, 28
構成品目, 28
購買発行, 34, 152
購買スケジュールライン, 57
 クラスタ, 37
スケジュール済品目
 検査, 44
組立オーダー, 153
構成可能品目, 153
構成済品目, 153
ペグ, 153
条件合意, 153
追加コストライン, 153
ブランクセット倉庫オーダー, 154
購買担当, 154
累計リセット日, 154
累計 (CUM), 154
FAB 権限, 154
FAB 期間, 155
確定所要量, 155
凍結期間, 155
高度 FAB 権限, 155
高度 RAW 権限, 155
即時所要量, 155
請求累計, 156
ロジスティック合意条件, 156
下限期日, 156
資材発行, 156
MPN セット, 156
通常契約, 156
未決済残高, 156
パターンコード, 156
計画所要量, 156
計画出荷日時, 156
優先所要累計, 157
プルスケジュール, 157
購買契約ライン詳細, 157
RAW 権限, 157
RAW 期間, 158
入庫累計, 158
発行改訂番号, 158
所要累計, 158
販売スケジュール改訂番号, 158
スケジュール発行日, 159
セグメント期間, 159
セグメント時間単位, 159
出荷累計, 159
出荷スケジュール, 159
特別契約, 159
システム日付, 159
上限期日, 159
自己請求, 159

部分納品, 159
外注購買オーダー, 160
カンバン, 160
ビジネスオブジェクト文書 (BOD), 160
VMI 倉庫, 160
計画在庫処理, 160
オーダー管理/SILS 供給, 160
出庫オーダーライン, 161
時系列オーダーポイント (TPOP), 161
出荷参照, 161
梱包品目, 161
